

国際女性デー 2025

2025年3月

© Ipsos | International
Women's Day 2025



KING'S
BUSINESS
SCHOOL

KING'S GLOBAL
INSTITUTE
FOR WOMEN'S
LEADERSHIP



主な調査結果

1 男女平等に対する姿勢の進歩の兆し

昨年から大きな変化はないものの、長期的な傾向を見ると、24か国平均で意識に改善が見られていることがわかります。男女平等に向けた取り組みは十分すぎるほど進んでいるという意見への同意は5ポイント低下し、男女平等の推進に向け男性は多くを求められすぎているという意見への同意も低下しています。

2 Z世代の男女格差は依然として残る

進歩は見られるものの、Z世代の男性と女性の間には依然として認識に大きな隔たりがあり、若い男性は、子供と一緒に家にいる男性は男らしさに欠けているという意見や、女性の平等に向けた取り組みを促進するあまり男性が差別されているという意見に、若い女性よりもはるかに多く同意しています。

3 大多数が平等は重要だと答えているが、大きな進歩が期待できると考える人は半数以下

3人に2人(68%)が、男女平等は個人的に重要であると回答しています。しかし、今後5年以内に男女平等に向けて大きな進歩が見られる可能性があると考える人ははるかに少なく(42%)なっています。

4 男女間の緊張感は若年層で最も高い

約半数(51%)の人が、現在、自国では男女間に緊張があると感じています。これは若い年齢層によるもので、ベビーブーマー世代(40%)よりもZ世代(59%)の方がそう回答する傾向がはるかに高いです。

5 若い女性の将来に対する楽観視が若い男性よりも高い

調査対象となった30か国のうち、55%が自国の現代の若い女性は親の世代の女性よりも良い生活を送るだろうと考えています。自国の若い男性の将来をどう予測するかと尋ねられると、この割合は45%に下がります。

6 政府や企業による男女平等の取り組みは社会にとってプラスになっていると多くの人が考えている

3人に1人強(35%)が、政府や企業による男女平等に向けた取り組みはプラスの影響を与えていると答えています。10%強が社会への影響はマイナスだったと答えており、反発の多くが具体的な施策への反対というよりも、感情的な要素に起因している可能性を示唆しています。

男女平等に対する意識

Q

以下に文章をいくつか挙げます。それぞれの文章がご自身のお気持ちにどの程度当てはまるかをお答えください。

調査対象国全体の平均では、5人に3人(59%)が、政府や企業で責任ある地位に就く女性が増えれば状況はより良くなるだろうと同意しています。また、同様の数の回答者が、ビジネス界や政府に女性リーダーが増えなければ、自国で女性が男性と平等になることはない指摘しています(54%)。

しかし、半数(50%)は、女性に男性と同等の権利を与えることに関しては、自国では十分すぎるほど進んでいると考えています。さらに、10人中4人以上が、平等を推進するために男性は多くを求められすぎている(46%)と述べ、女性の平等を推進しすぎたために男性に対する差別が生じているとも述べています。

30か国平均

% やや/とてもよく当てはまる

% あまり/まったく当てはまらない

政府や企業で責任ある地位に就く女性が増えれば、物事はもっと上手く行くと思う

59%

28%

自国では、ビジネスの世界や政府に女性リーダーが増えない限り、男女平等は実現しないと思う

54%

37%

女性にも男性と同じ権利を与える取り組みに関しては、我が国では十分すぎるほど対策がなされている

50%

43%

男性は、平等を支えるために多くを求められすぎている

46%

43%

私たちはこれまで、女性の平等を促進するあまり、男性を差別するようになってしまった

45%

48%

私はフェミニストである

38%

51%

家にいて育児をしている男性は男らしくない

19%

77%

対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

以下に文章をいくつか挙げます。それぞれの文章がご自身のお気持ちにどの程度当てはまるかをお答えください。

昨年から大きな変化はないものの、長期的な傾向を見ると、24か国平均で意識に改善が見られていることがわかります。

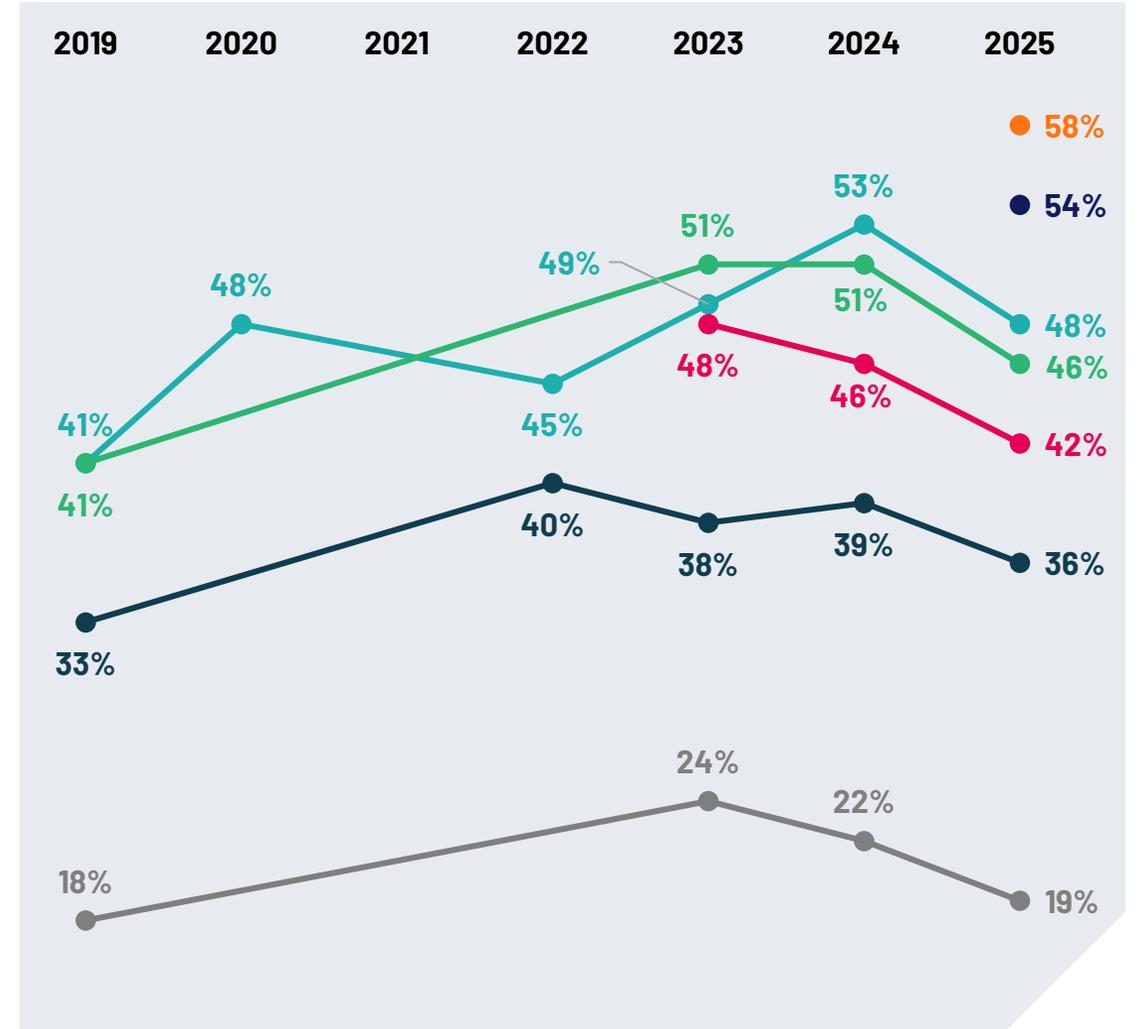
平等を推進するために男性に過度の期待がかけられていると考える人の割合は5ポイント減少し、女性に男性と同等の権利を与えることに関しては自国では十分すぎるほど進んでいると考える人の割合も減少しています。

同様に、女性の平等を推進しすぎたために男性を差別している(2024年比-4ポイント)という意見や、家で育児をする男性は男らしくない(2024年比-3ポイント)という意見に賛同する人も減少しています。

しかし、フェミニストであると自認する人の割合も昨年より減少しています(2024年比-3ポイント)。

24か国平均の同意率

- 政府や企業で責任ある地位に就く女性が増えれば、物事はもっと上手く行くと思う
- 自国では、ビジネスの世界や政府に女性リーダーが増えない限り、男女平等は実現しないと思う
- 女性にも男性と同じ権利を与える取り組みに関しては、我が国では十分すぎるほど対策がなされている
- 男性は、平等を支えるために多くを求められすぎている
- 私たちはこれまで、女性の平等を促進するあまり、男性を差別するようになってしまった
- 私はフェミニストである
- 家において育児をしている男性は男らしくない



対象: 24か国の18~74歳のオンライン19,759人、2024年12月20日~2025年1月3日

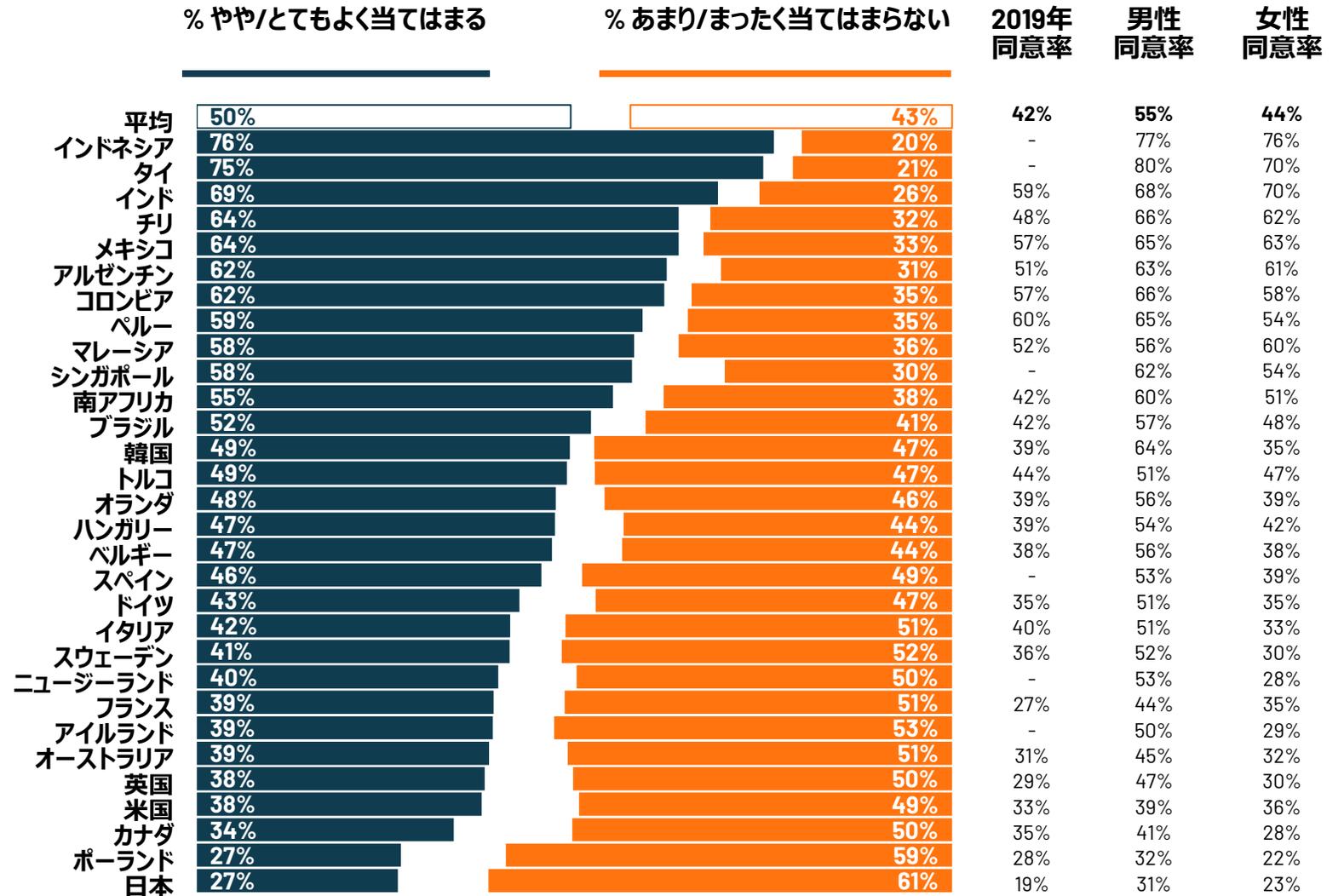
Q

以下に文章をいくつか挙げます。それぞれの文章がご自身のお気持ちにどの程度当てはまるかをお答えください。

女性にも男性と同じ権利を与える取り組みに関しては、我が国では十分すぎるほど対策がなされている

30か国平均では、女性の平等な権利付与に関しては、自国では十分すぎるほど進んでいると回答した人が半数(50%)に上っています。

性別で見ると、男性の方が女性よりもこの意見に同意する傾向が高い結果となりました(55% 対 44%)。



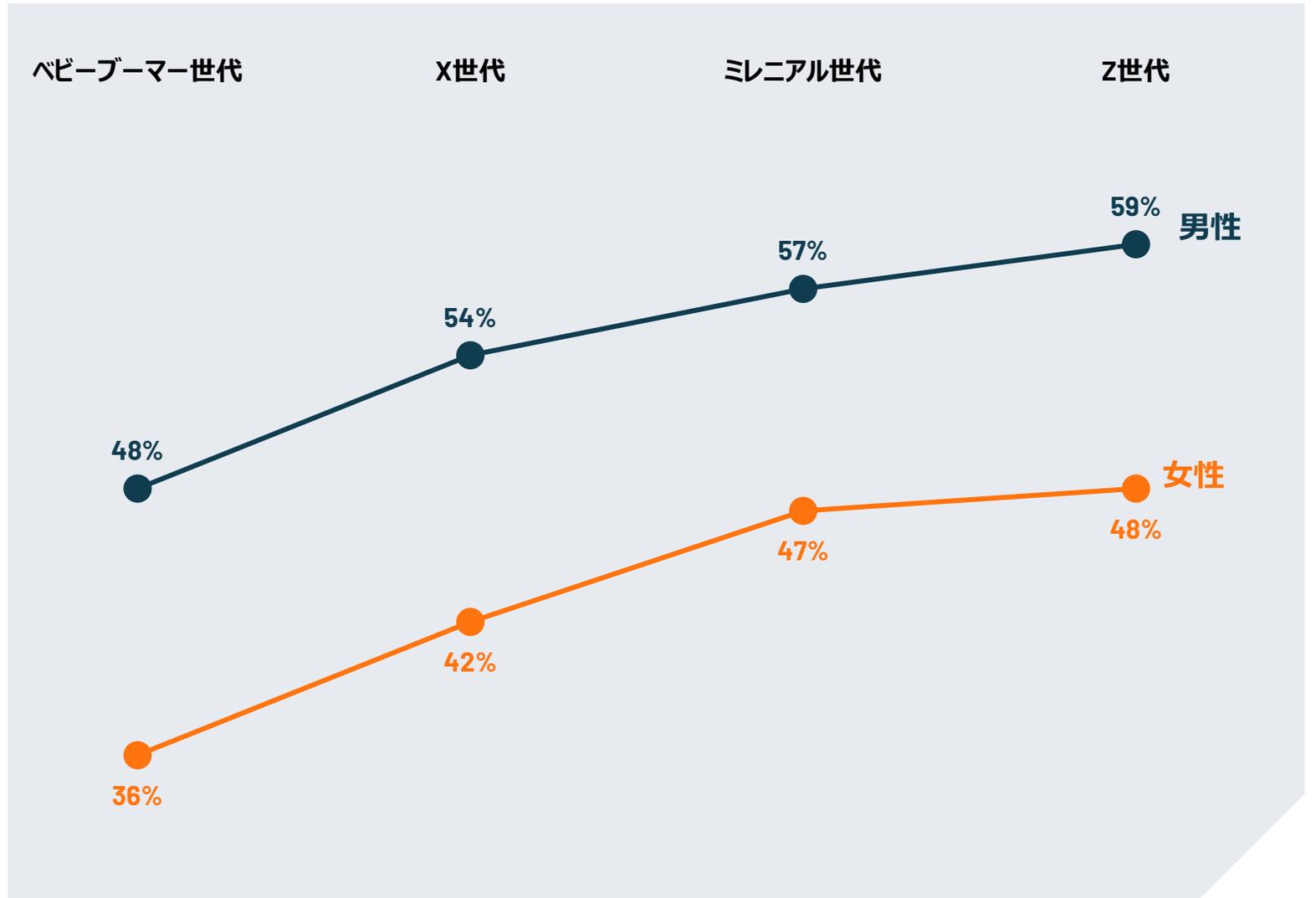
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

以下に文章をいくつか挙げます。それぞれの文章がご自身のお気持ちにどの程度当てはまるかをお答えください。

女性にも男性と同じ権利を与える取り組みに関しては、我が国では十分すぎるほど対策がなされている 同意率

すべての年齢層において、女性よりも男性のほうが、「女性にも男性と同じ権利を与える取り組みに関しては、自国では十分すぎるほど対策がなされている」という意見に同意する傾向が強くなっています。若い男性のほうが、年配の男性よりも同意する傾向が強くなっています。



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18～74歳、タイの20～74歳、インドネシアとシンガポールの21～74歳、その他の国の16～74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日～2025年1月3日

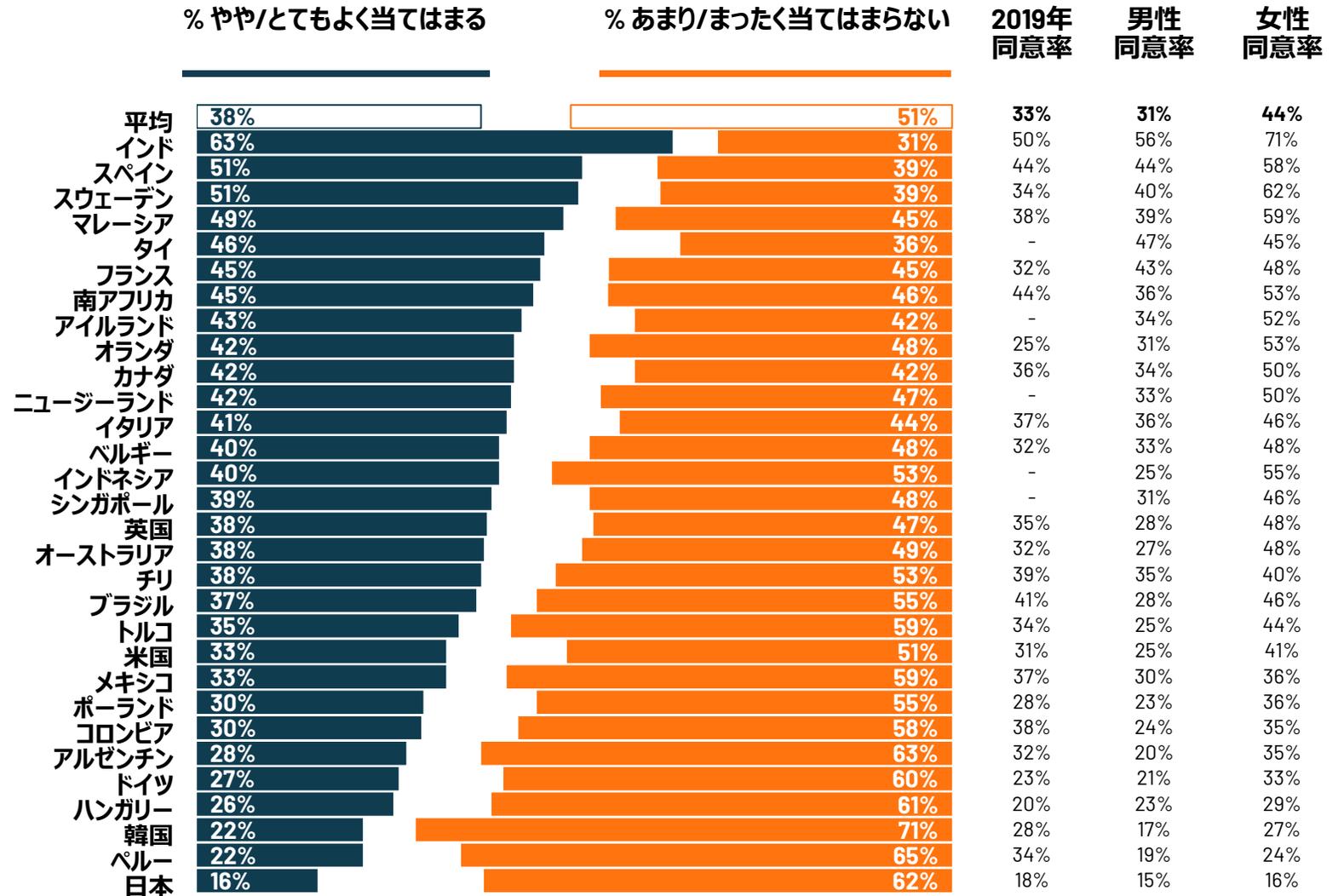
Q

以下に文章をいくつか挙げます。それぞれの文章がご自身のお気持ちにどの程度当てはまるかをお答えください。

私はフェミニストである

30か国平均では約5人に2人(39%)が自らをフェミニストだと認識しています。女性は男性よりも自分自身をこのように定義する傾向があります(44% 対 31%)。

31か国平均では、約半数の人が自分自身をフェミニストとは見なしていません(51%)。



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

以下に文章をいくつか挙げます。それぞれの文章がご自身のお気持ちにどの程度当てはまるかをお答えください。

私はフェミニストである 同意率

若い女性は年配の女性に比べて、自分はフェミニストだと言う傾向が強いです。Z世代の女性の大多数(53%)は、自分自身をフェミニストと認識していますが、Z世代の男性では32%です。



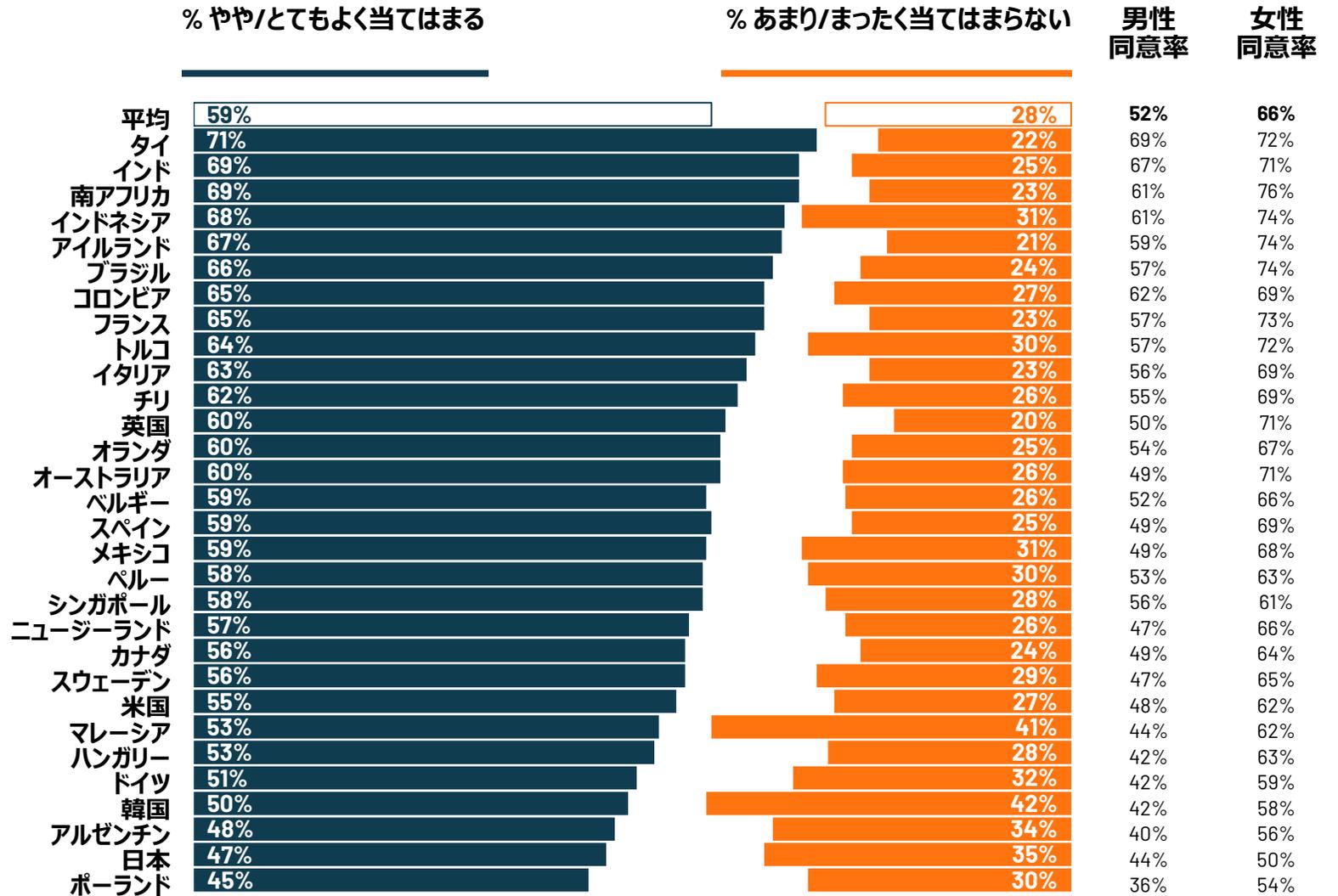
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

以下に文章をいくつか挙げます。それぞれの文章がご自身のお気持ちにどの程度当てはまるかをお答えください。

**政府や企業で責任ある地位に就く女性が
増えれば、物事はもっと上手く行くと思う**

30か国平均では、ほぼ5人に3人(59%)が、政府や企業で責任ある地位にもっと多くの女性が就けば状況はより良くなるだろうと同意しています。



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

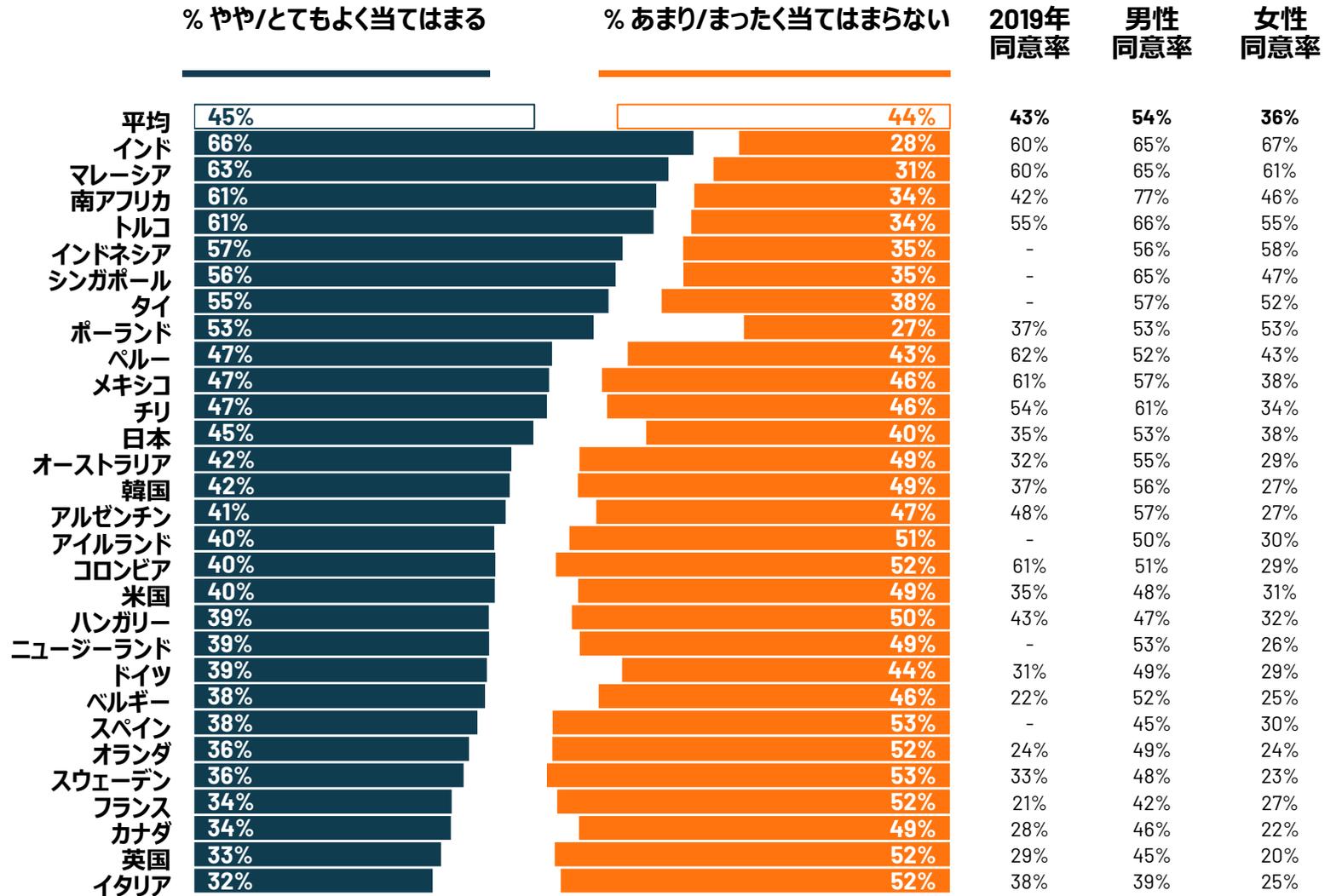
Q

以下に文章をいくつか挙げます。それぞれの文章がご自身のお気持ちにどの程度当てはまるかをお答えください。

男性は、平等を支えるために多くを求められすぎている

調査対象となった30か国では、平等を推進するために男性に過度の期待が寄せられているかどうかについて意見が分かれており、46%が賛成、43%が反対しています。

性別で見ると、この意見に同意する男性は女性より多くなっています(55% 対 38%)。



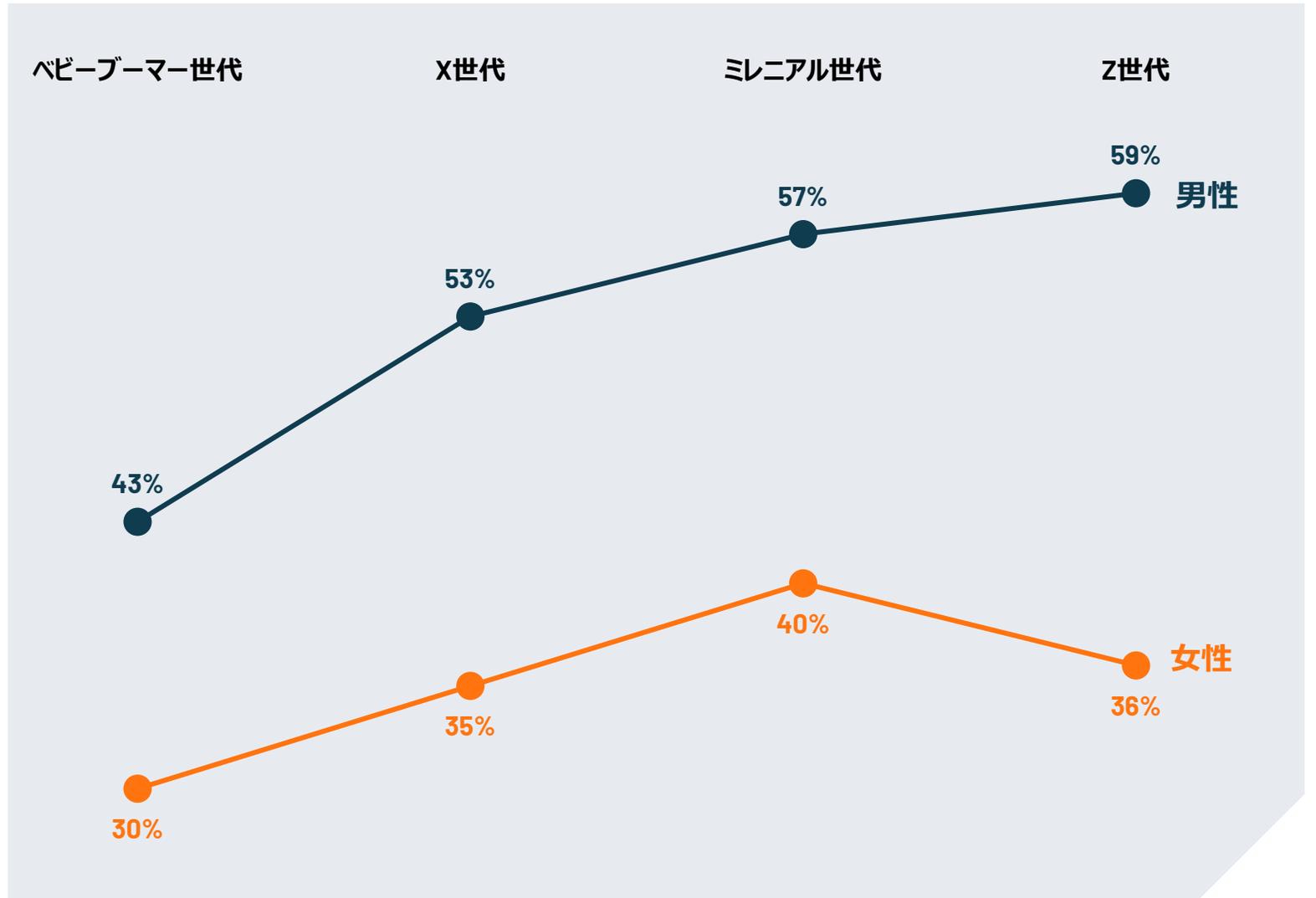
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

以下に文章をいくつか挙げます。それぞれの文章がご自身のお気持ちにどの程度当てはまるかをお答えください。

男性は、平等を支えるために多くを求められすぎている 同意率

すべての世代において、男女平等の推進のために男性に期待されていることが多すぎると考える傾向は女性よりも男性の方が強い結果となっています。



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

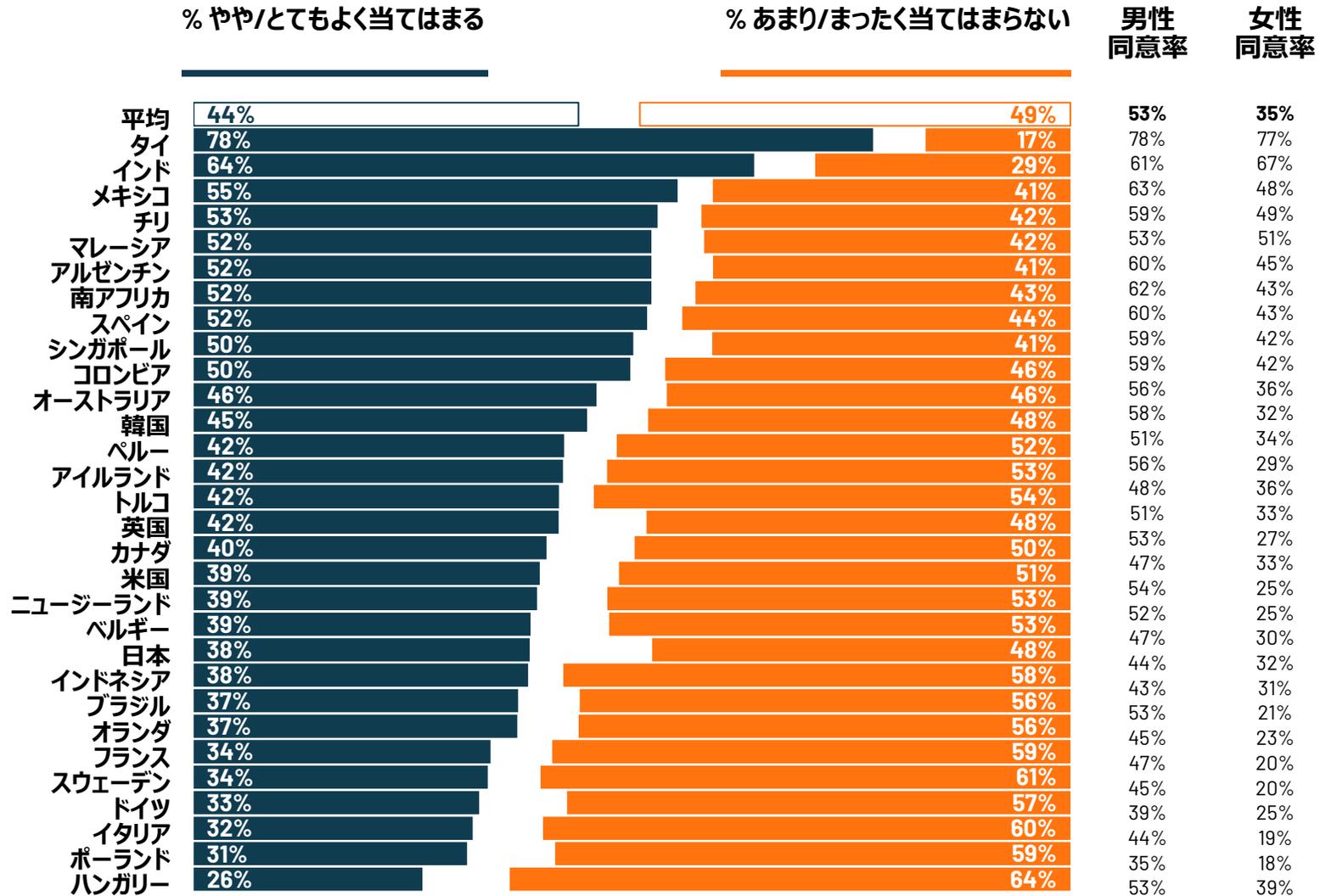
Q

以下に文章をいくつか挙げます。それぞれの文章がご自身のお気持ちにどの程度当てはまるかをお答えください。

私たちはこれまで、女性の平等を促進するあまり、男性を差別するようになってしまった

30か国平均では、女性の平等を推進するあまり男性を差別しているかどうかについて、意見が分かれています(賛成44%、反対49%)。

男性の半数以上(53%)がこの意見に同意したのに対し、女性では35%でした。



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

以下に文章をいくつか挙げます。それぞれの文章がご自身のお気持ちにどの程度当てはまるかをお答えください。

私たちはこれまで、女性の平等を促進するあまり、男性を差別するようになってしまった 同意率

女性の平等が男性を差別していると考える割合については、Z世代の男性とZ世代の女性の間には20ポイントの差があり、そう考えるZ世代の男性は57%であるのに対し、Z世代の女性は36%となっています。



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

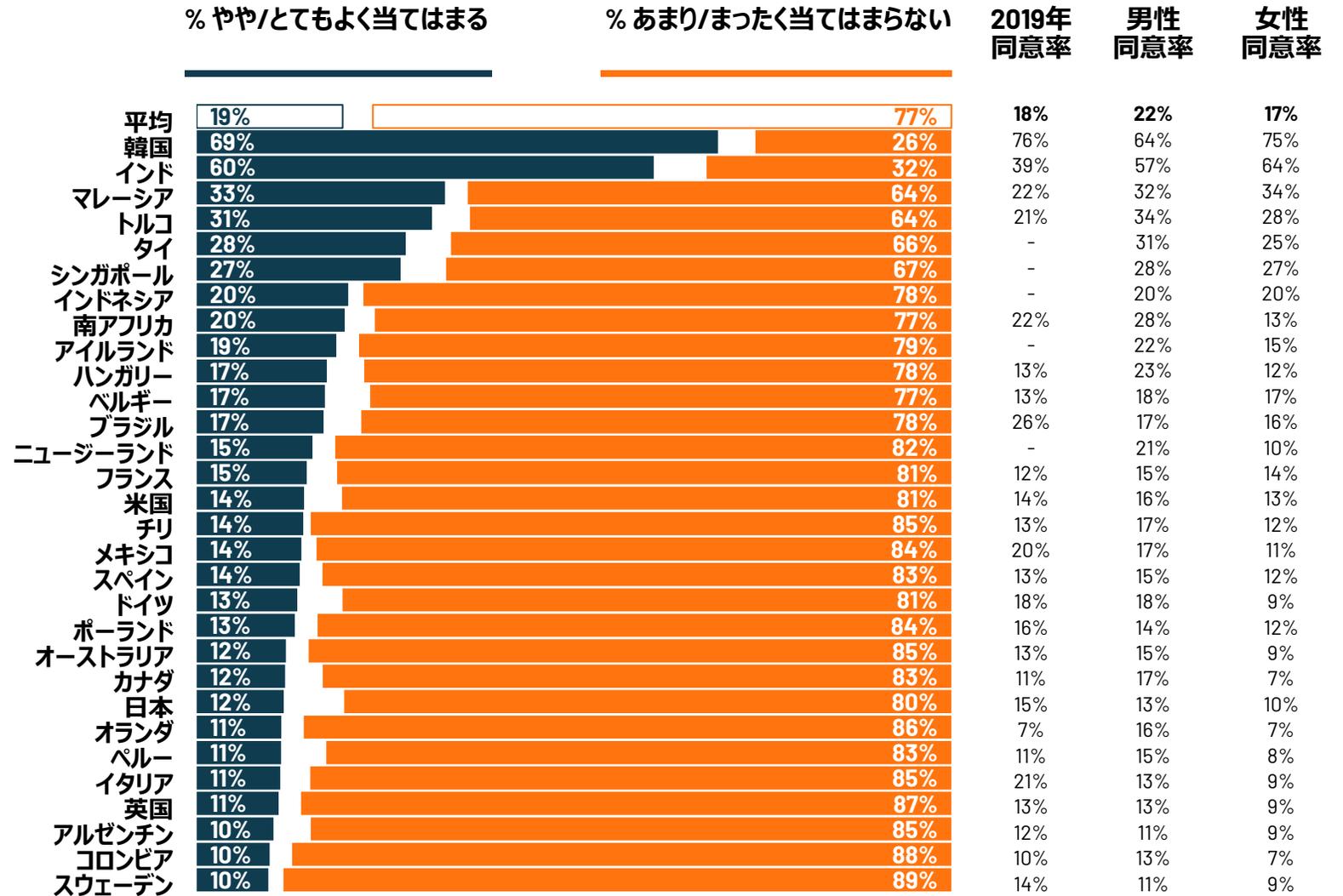
Q

以下に文章をいくつか挙げます。それぞれの文章がご自身のお気持ちにどの程度当てはまるかをお答えください。

家にいて育児をしている男性は男らしくない

30か国平均では、4分の3(77%)の人が、子供の世話をするために家にいる男性は男らしくないという考えに同意していません。

約5人に1人(19%)がこの意見に同意しています。この意見に同意する傾向は、女性よりも男性のほうが強い(22% vs. 17%)結果となっています。



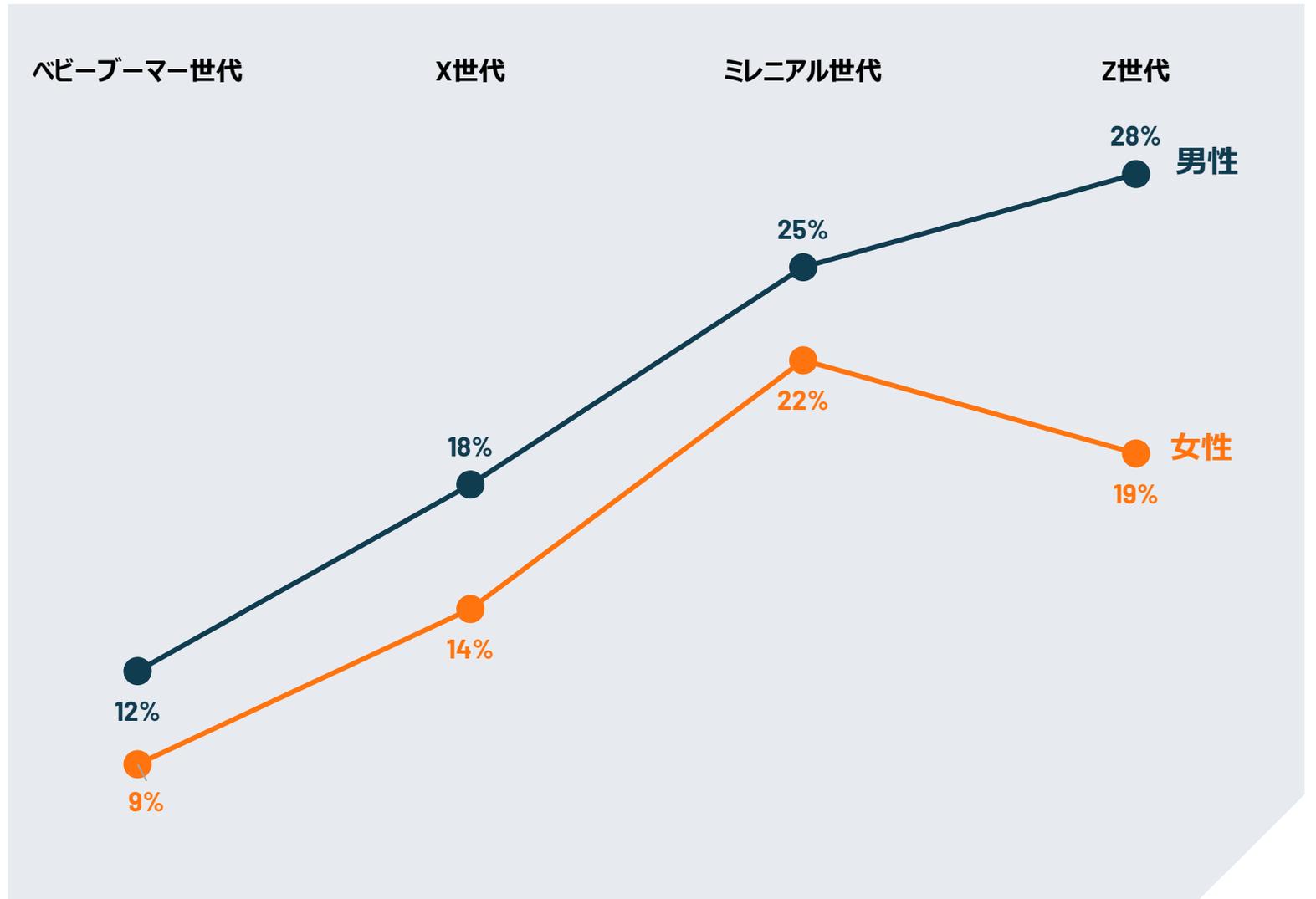
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

以下に文章をいくつか挙げます。それぞれの文章がご自身のお気持ちにどの程度当てはまるかをお答えください。

家にいて育児をしている男性は男らしくない 同意率

男性の間では、家で子供の世話をする男性は男らしくないという考えへの同意は年齢とともに減少し、ベビーブーマー世代ではわずか12%であるのに対し、Z世代では28%がこの意見に同意しています。男女間の格差は、Z世代で最も大きくなっています(男性28%、女性19%)。



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

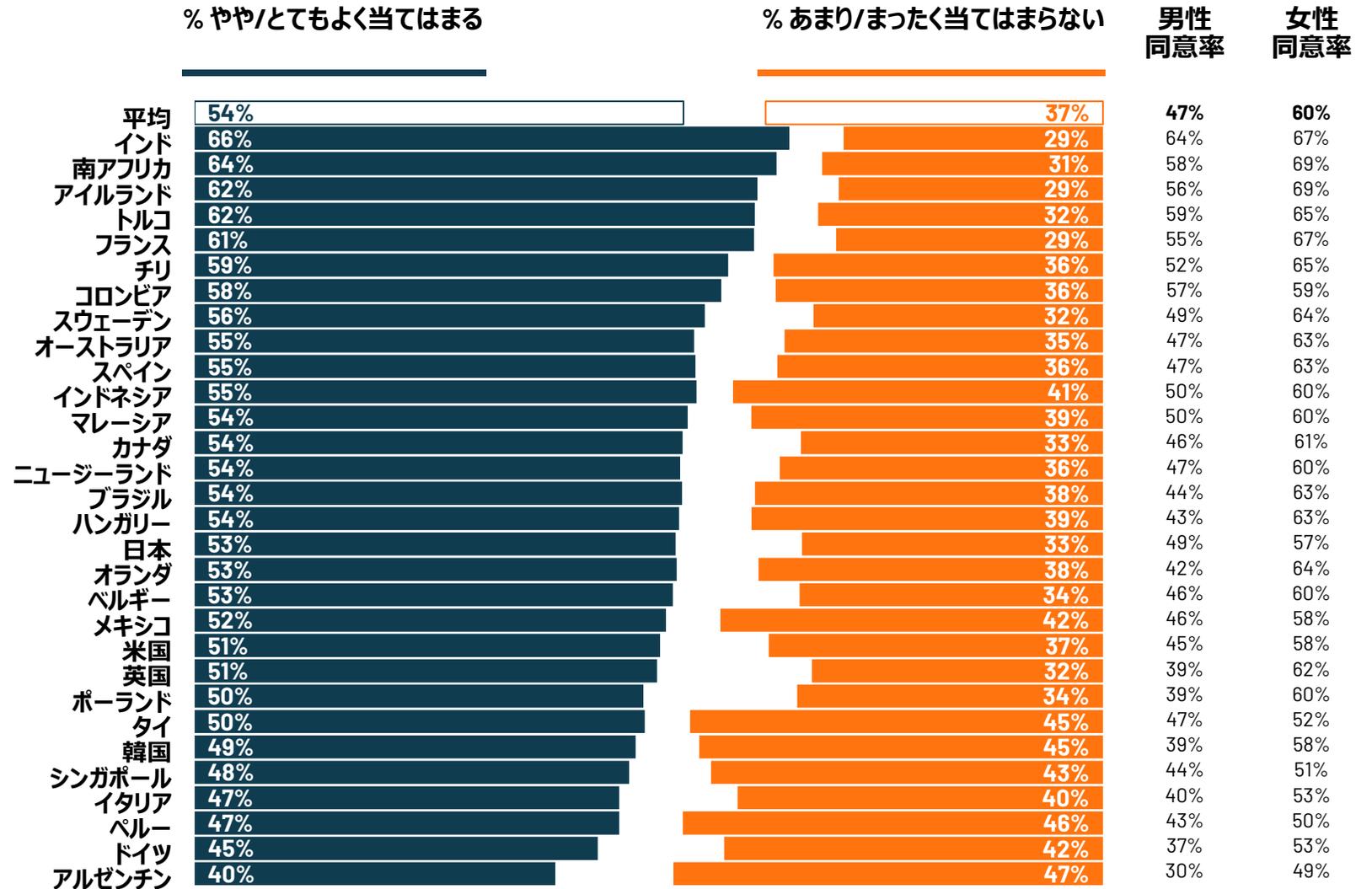
Q

以下に文章をいくつか挙げます。それぞれの文章がご自身のお気持ちにどの程度当てはまるかをお答えください。

自国では、ビジネスの世界や政府に女性リーダーが増えない限り、男女平等は実現しないと思う

30か国平均では、半数以上(54%)の人が、ビジネスや政府に女性リーダーが増えなければ、自国で男女平等は達成されないと考えています。

この意見に同意する傾向は、男性よりも女性の方が高い結果となっています(60% 対 47%)。



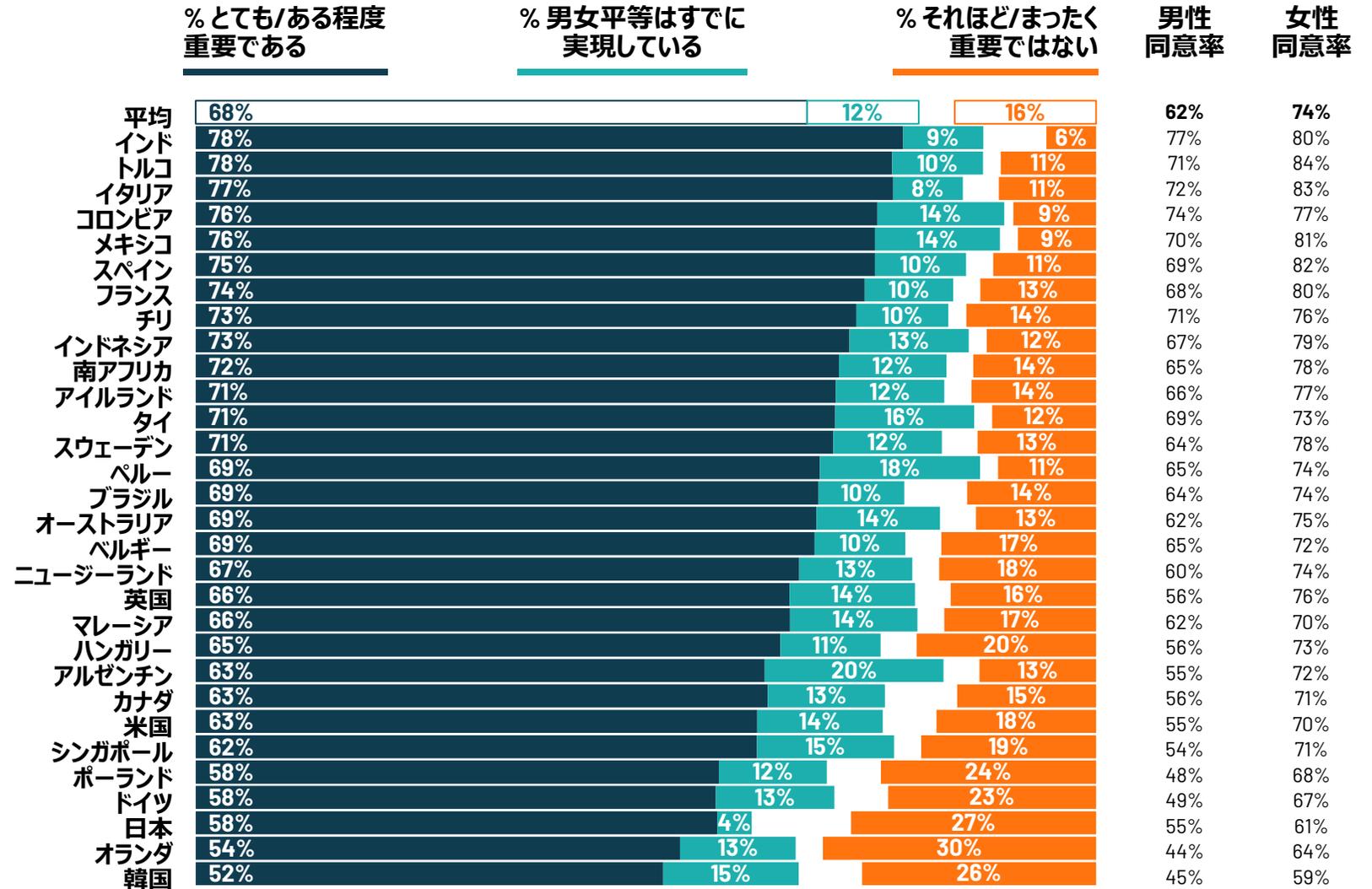
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

あなたにとって、男女平等を実現することはどの程度重要ですか？

3人に2人(68%)は、男女平等の実現が個人的に重要であると答えており、5人に1人未満(16%)は重要ではないと答えています。

女性(74%)は男性(62%)よりも、男女平等が個人的に重要だと答える傾向が高い結果となっています。



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

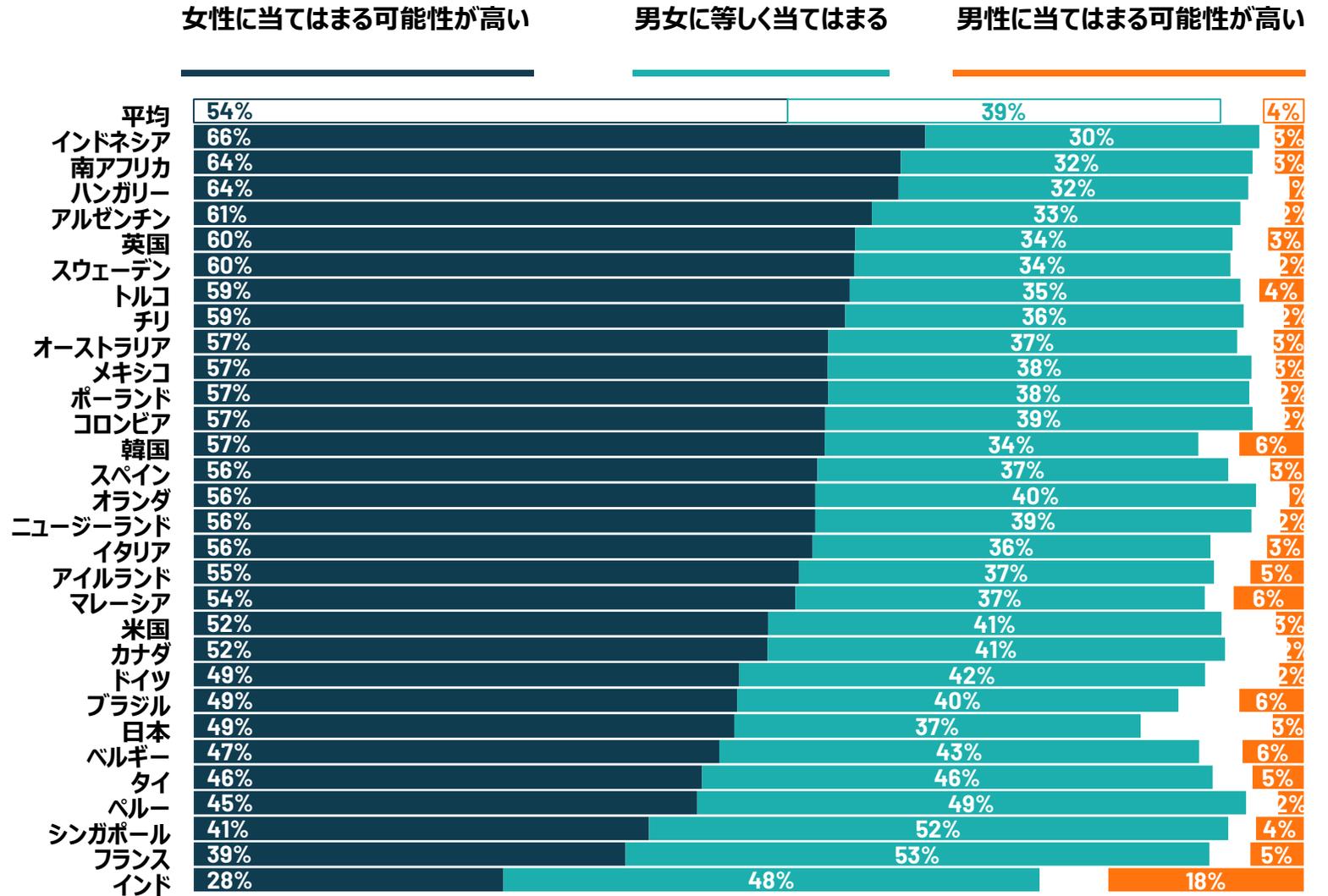
持続可能な開発 に対する意識

Q

自国において、次の行動や特徴は、男性に当てはまる可能性が高いと思いますか？女性に当てはまる可能性が高いと思いますか？それとも、男女に等しく当てはまると思いますか？

家事(掃除、料理など)を行う

調査対象となった30か国のうち、半数以上の方が家事労働は男性よりも女性の方が行うものだと強く思い込んでいます(54%)。約5人に2人(39%)が、男性と女性に同程度に関連付けています。



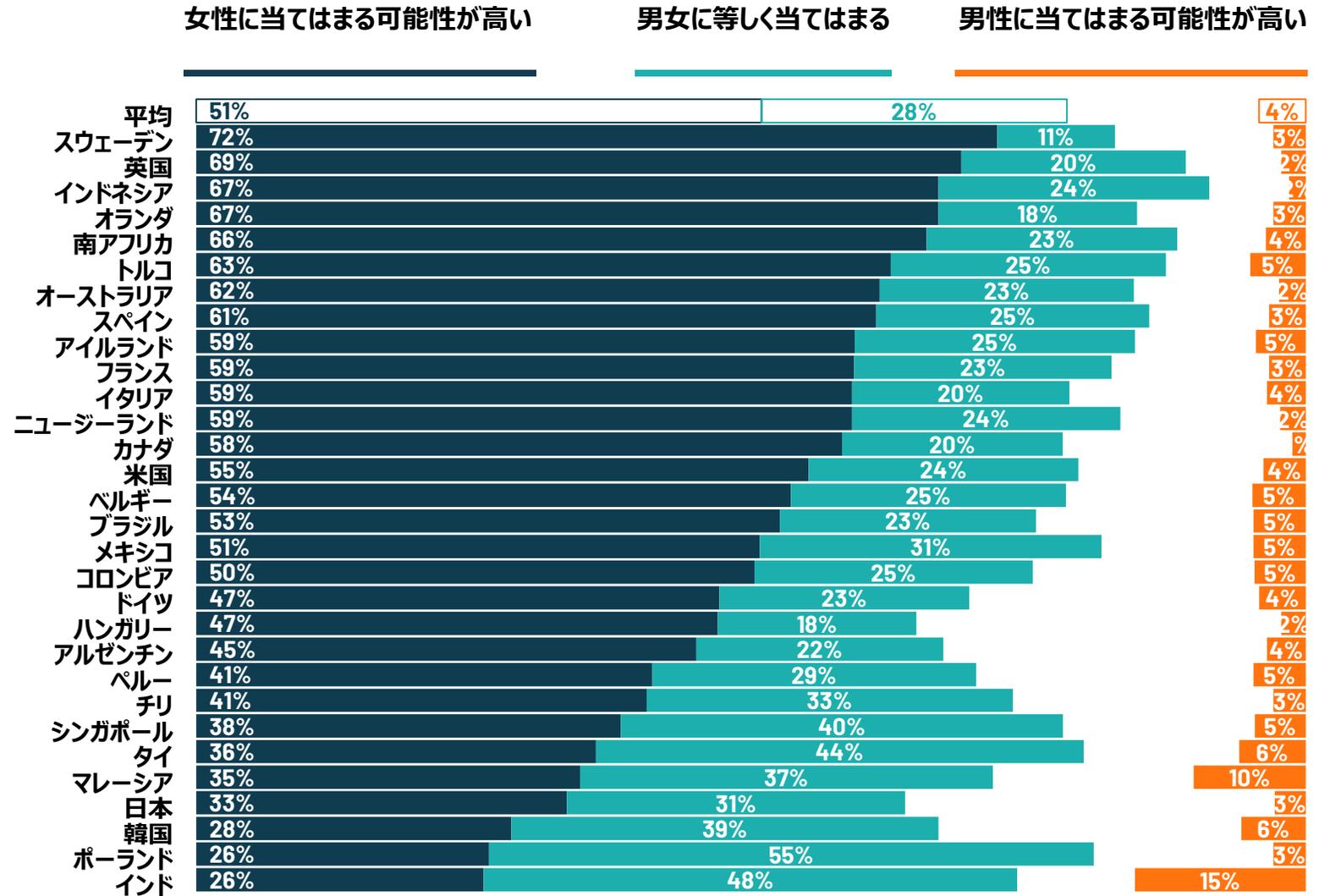
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

自国において、次の行動や特徴は、男性に当てはまる可能性が高いと思いますか？女性に当てはまる可能性が高いと思いますか？それとも、男女に等しく当てはまると思いますか？

児童婚、早すぎる結婚、強制結婚を経験する

平均すると、児童結婚、早期結婚、強制結婚を経験するのは男性よりも女性に当てはまる可能性が高いと、半数の人が考えています(51%)。約10人中3人が、これは男女両方に等しく当てはまると考えています(28%)。



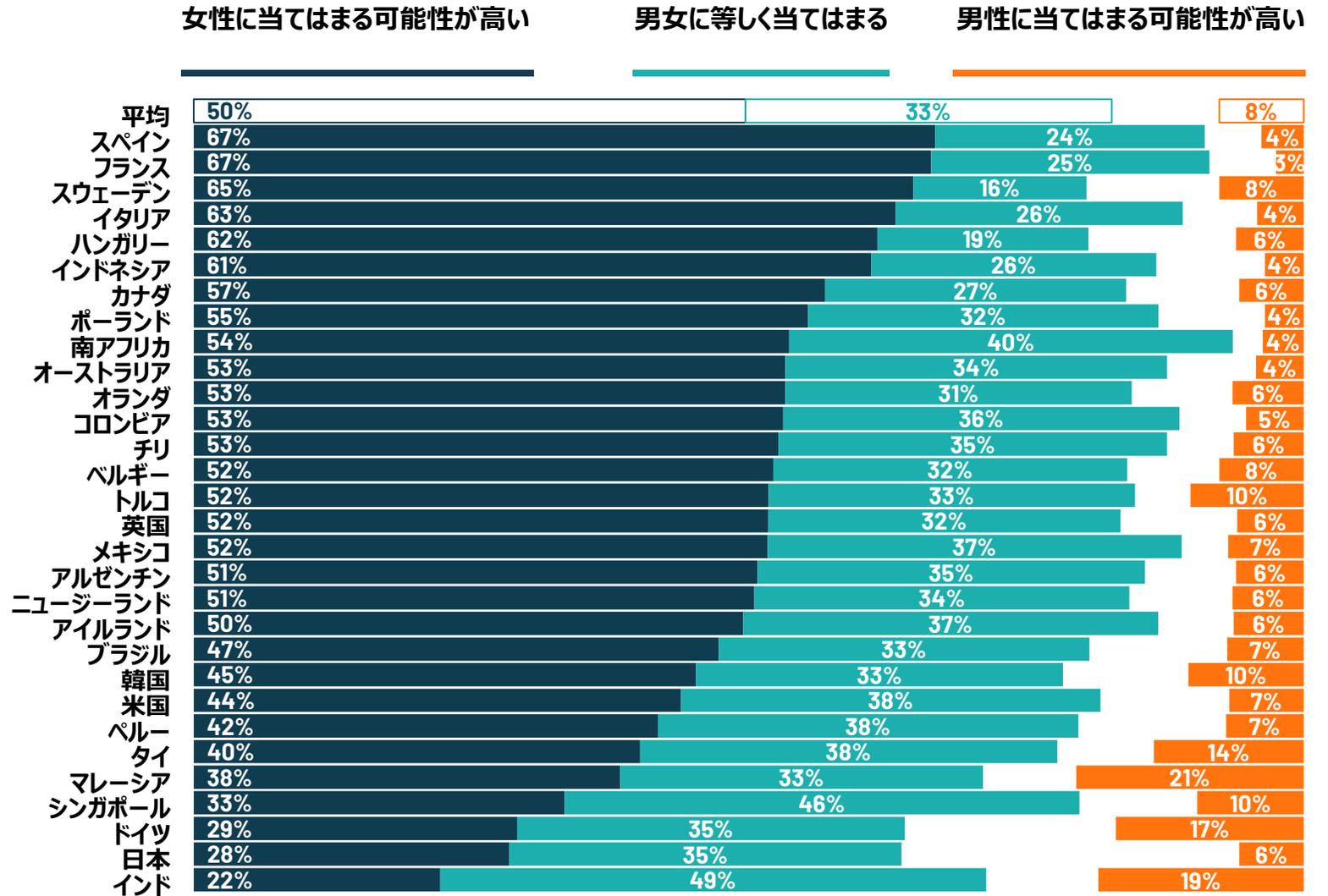
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

自国において、次の行動や特徴は、男性に当てはまる可能性が高いと思いますか？女性に当てはまる可能性が高いと思いますか？それとも、男女に等しく当てはまると思いますか？

ジェンダーに基づく暴力を経験する

調査対象となった30か国のうち、半数の人がジェンダーに基づく暴力は男性よりも女性に多く見られると考えており(50%)、3人に1人は男女ともに平等に当てはまると答えています(33%)。



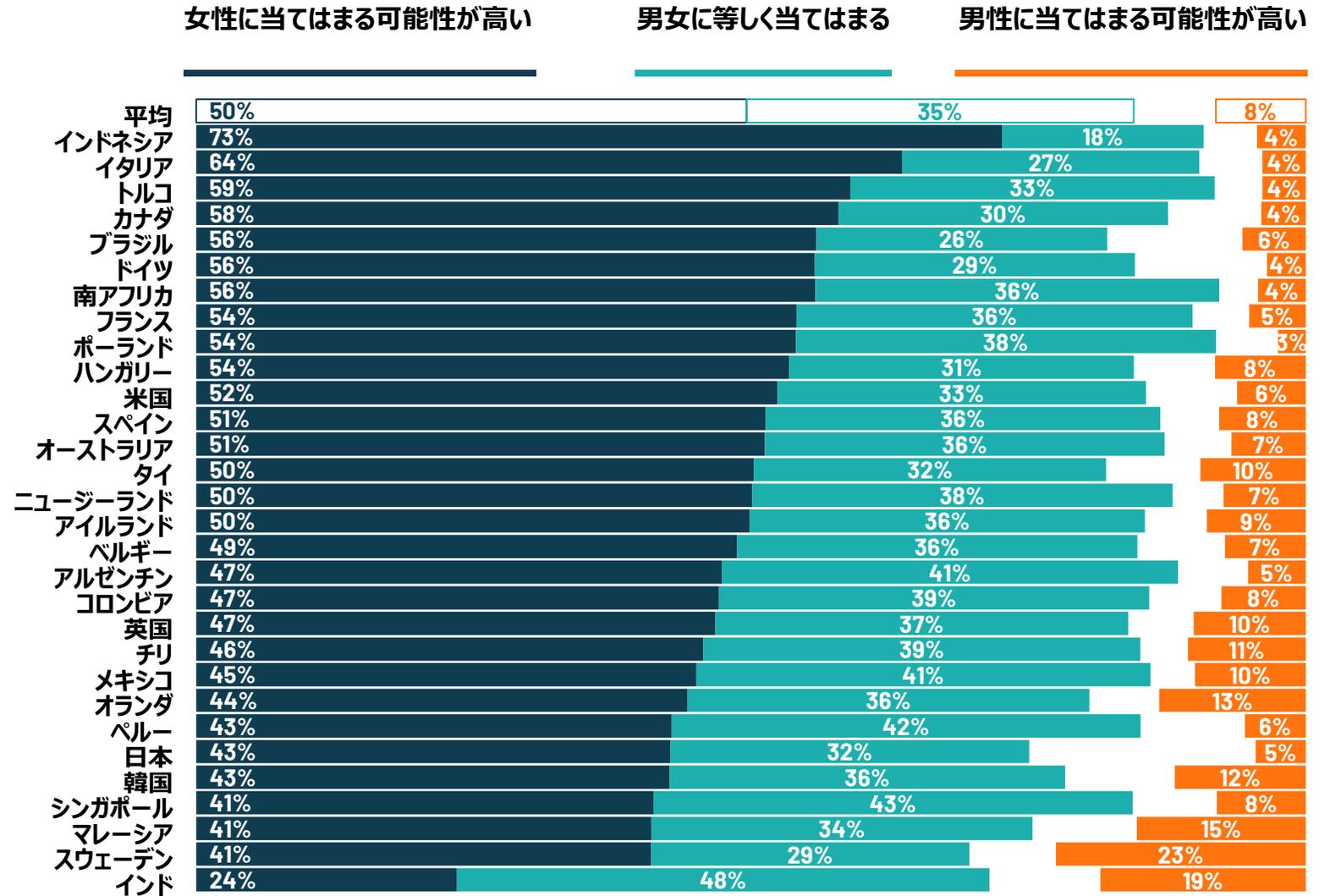
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

自国において、次の行動や特徴は、男性に当てはまる可能性が高いと思いますか？女性に当てはまる可能性が高いと思いますか？それとも、男女に等しく当てはまると思いますか？

身体的な暴行を受ける

30か国平均では、半数の人が身体的暴行を受けるのは男性よりも女性の方が可能性が高いと考えています。対照的に、約3人に1人は、男性と女性に等しく当てはまると考えています(35%)。



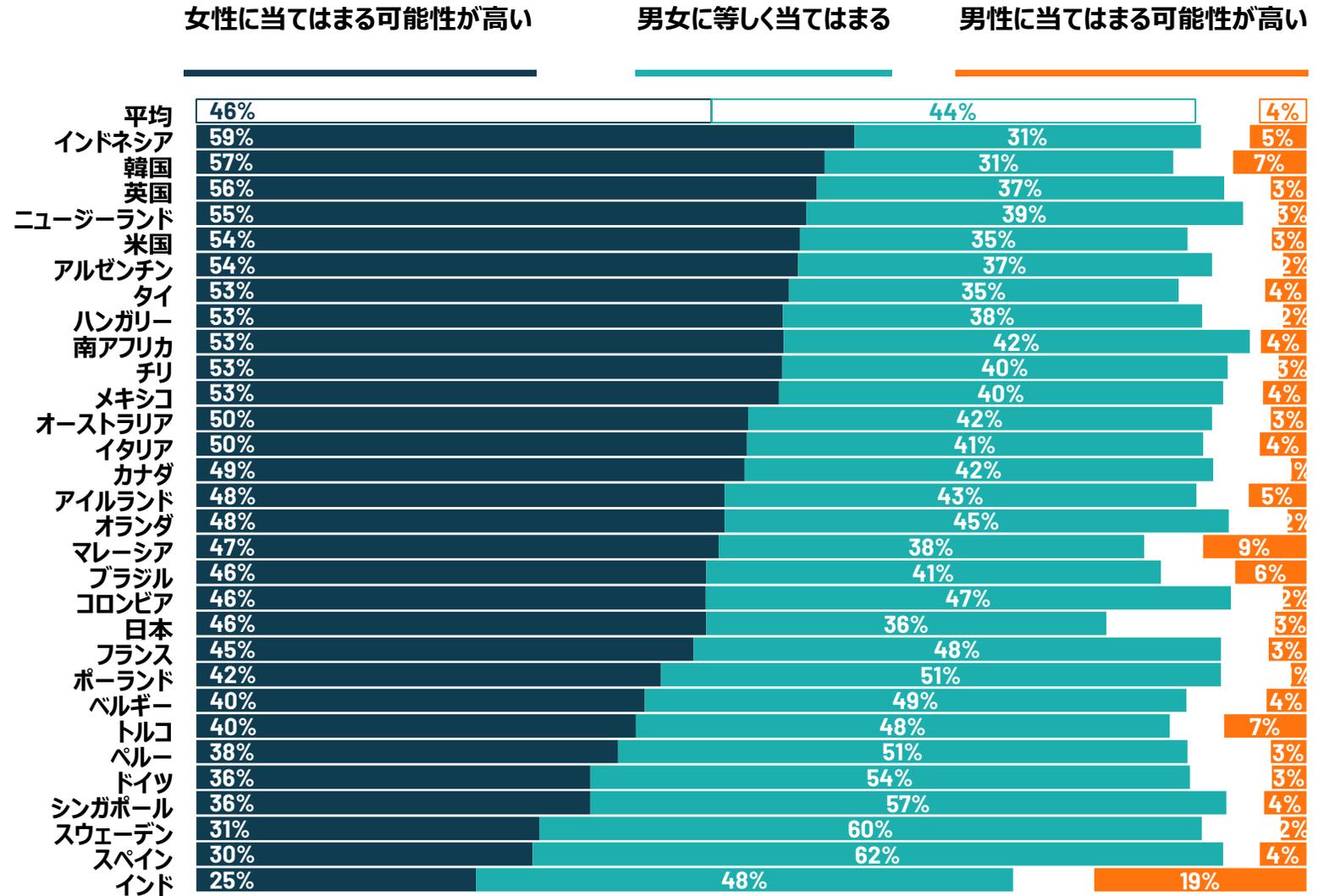
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

自国において、次の行動や特徴は、男性に当てはまる可能性が高いと思いますか？女性に当てはまる可能性が高いと思いますか？それとも、男女に等しく当てはまると思いますか？

雇用元から育児休暇(産休、母親・父親の育児休暇など)を提供される

30か国の人々の間では、雇用からの育児休暇(産休または育児休暇)の提供が女性に適用される可能性が高いか(46%)、それとも男性と女性に平等に適用されるか(44%)について意見が分かれています。



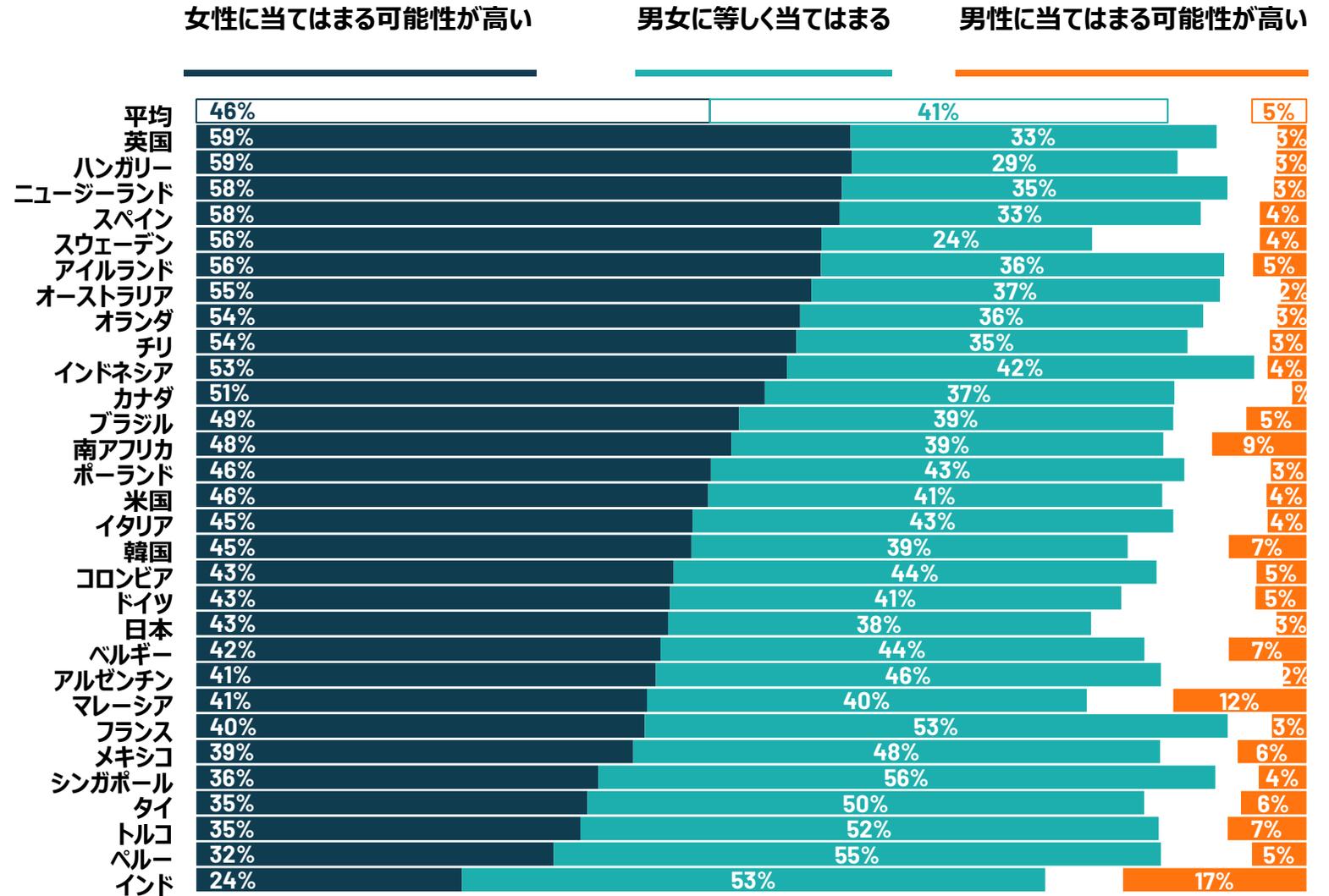
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

自国において、次の行動や特徴は、男性に当てはまる可能性が高いと思いますか？女性に当てはまる可能性が高いと思いますか？それとも、男女に等しく当てはまると思いますか？

家族に対して、無給でケア(育児、高齢な親族の介護など)を提供する

ほぼ半数(46%)の人が、家族のために無償で介護(つまり、育児や高齢の親戚の世話)を行うことは、男性よりも女性に当てはまる可能性が高いと考えています。ほぼ同数(41%)の人が、これは男性と女性の両方に等しく当てはまると考えています。



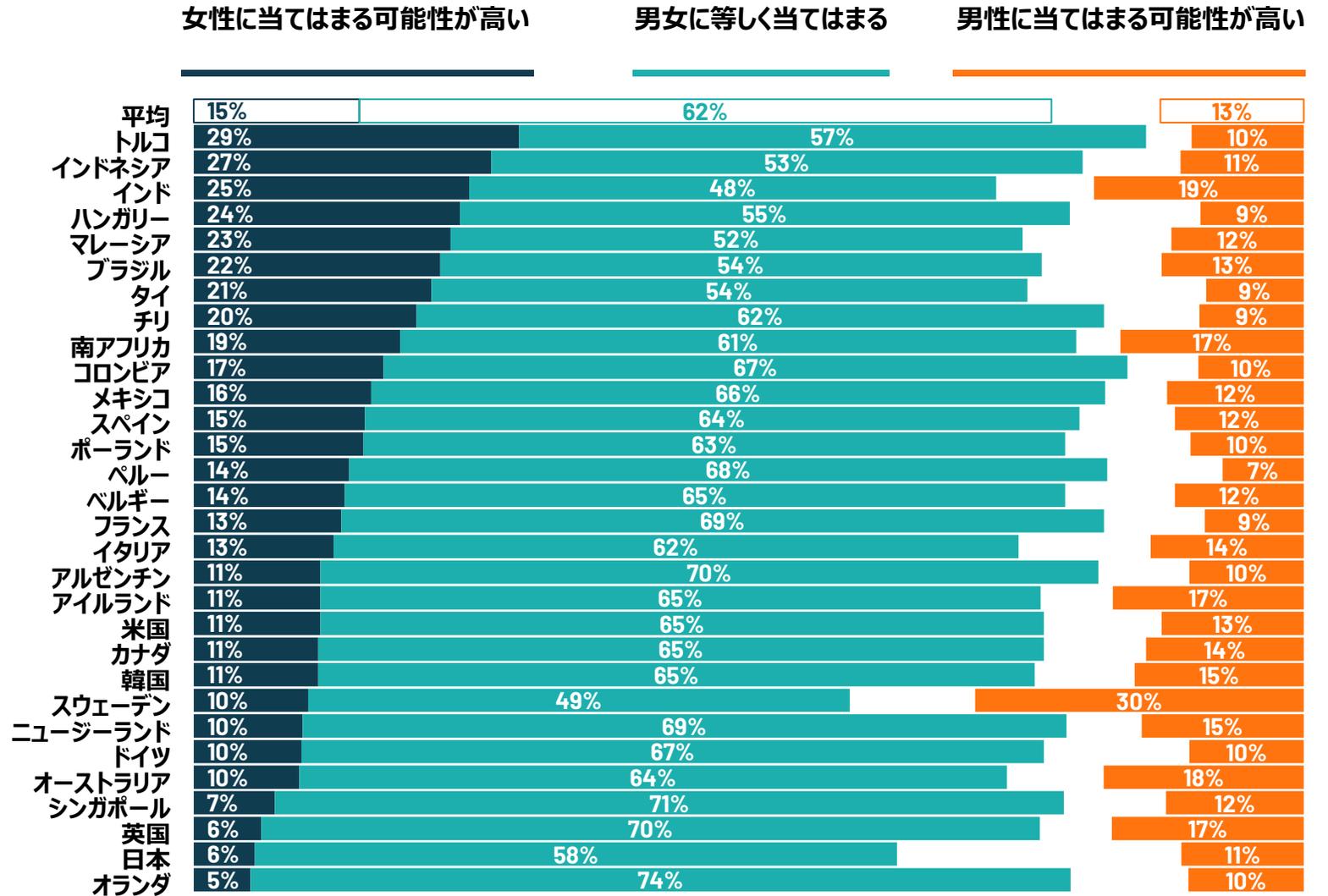
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

自国において、次の行動や特徴は、男性に当てはまる可能性が高いと思いますか？女性に当てはまる可能性が高いと思いますか？それとも、男女に等しく当てはまると思いますか？

孤独を感じる

30か国平均では、5人中3人以上が、孤独感は男性と女性に等しく当てはまると考えています(62%)。残りの方々うち、孤独感は男性よりも女性に多く当てはまると考える人(15%)と、孤独感は女性よりも男性に多く当てはまると考える人(13%)がほぼ同数います。



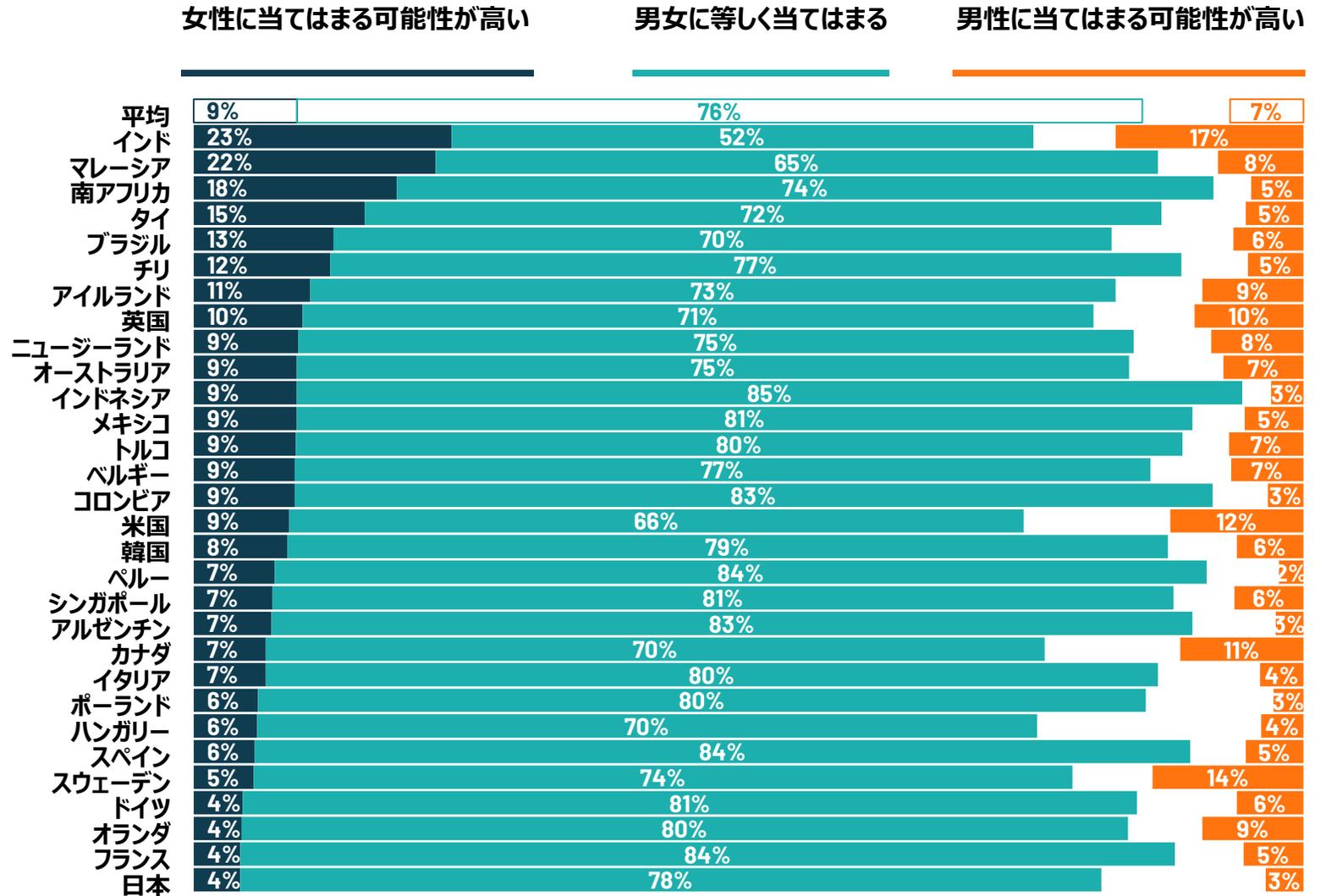
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

自国において、次の行動や特徴は、男性に当てはまる可能性が高いと思いますか？女性に当てはまる可能性が高いと思いますか？それとも、男女に等しく当てはまると思いますか？

容易に医療サービスを受けることができる

30か国平均では、4人に3人が、医療へのアクセスが容易であることは男性と女性の両方に等しく当てはまると考えています(76%)。残りは、女性(9%)に当てはまる可能性が高いか、男性(7%)に当てはまる可能性が高いかで意見が分かれています。



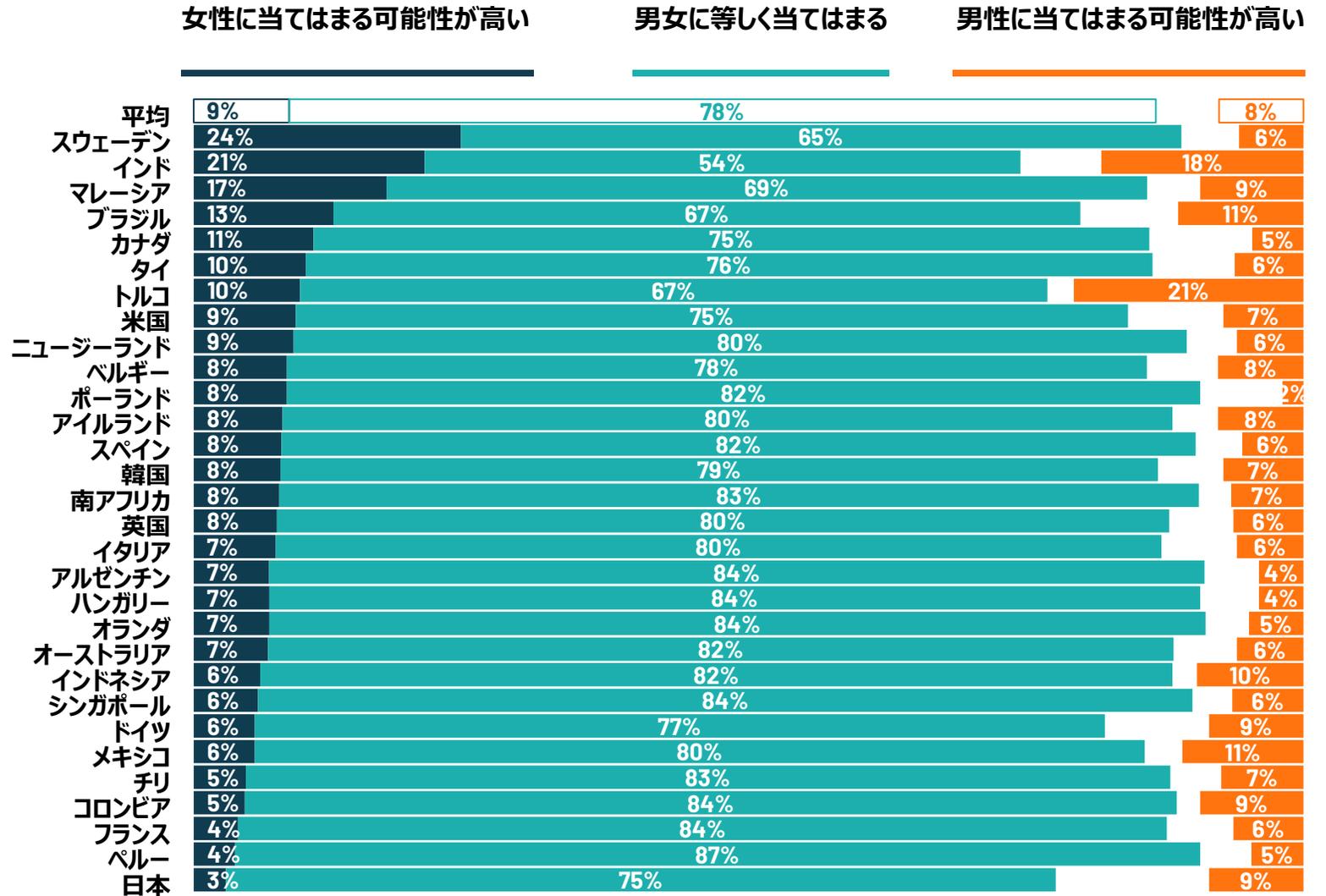
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

自国において、次の行動や特徴は、男性に当てはまる可能性が高いと思いますか？女性に当てはまる可能性が高いと思いますか？それとも、男女に等しく当てはまると思いますか？

大学に行く

調査対象となったすべての国で、約5人に4人が大学進学は男性と女性に等しく当てはまると考えており(78%)、残りの人のうち同数の割合が、女性(9%)と男性(8%)に当てはまる可能性が高いと答えています。



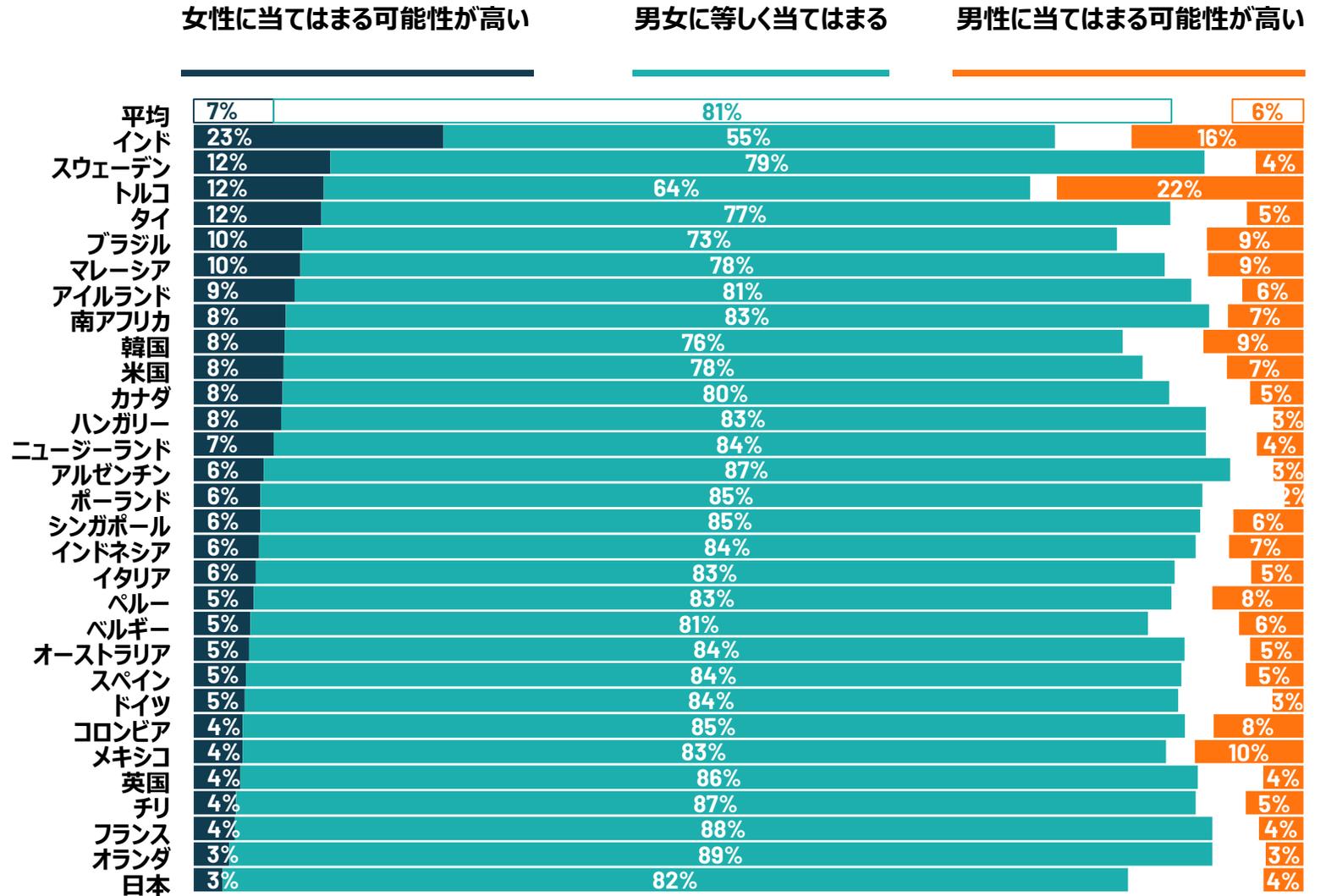
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

自国において、次の行動や特徴は、男性に当てはまる可能性が高いと思いますか？女性に当てはまる可能性が高いと思いますか？それとも、男女に等しく当てはまると思いますか？

学校に行く

同様に、世界全体では5人に4人が学校に通うことは男性と女性に等しく当てはまると考えており(81%)、女性(7%)か男性(6%)に当てはまる可能性が高いと答えたのはそれぞれ10人に1人未満でした。



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

自国において、次の行動や特徴は、男性に当てはまる可能性が高いと思いますか？女性に当てはまる可能性が高いと思いますか？それとも、男女に等しく当てはまると思いますか？

経済活動(銀行口座やクレジットカードを所有すること、ローンを組むことなど)に参加できる

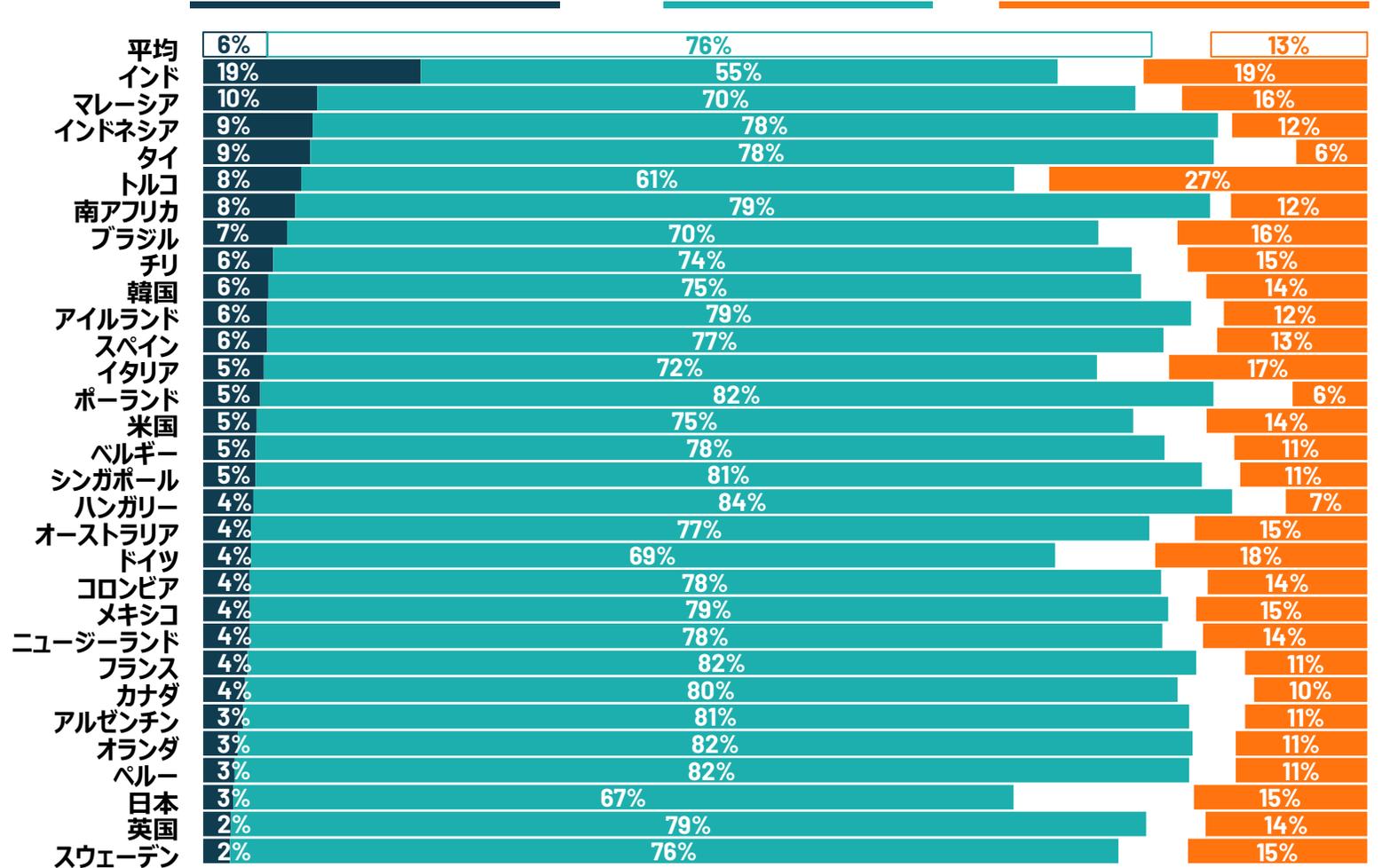
大多数の人々は、金融生活に参加できることは男性と女性の両方に平等に当てはまると考えています(76%)。

残りの方々のうち、ほとんどの国では、女性よりも男性に当てはまると答える人が多いようです。

女性に当てはまる可能性が高い

男女に等しく当てはまる

男性に当てはまる可能性が高い



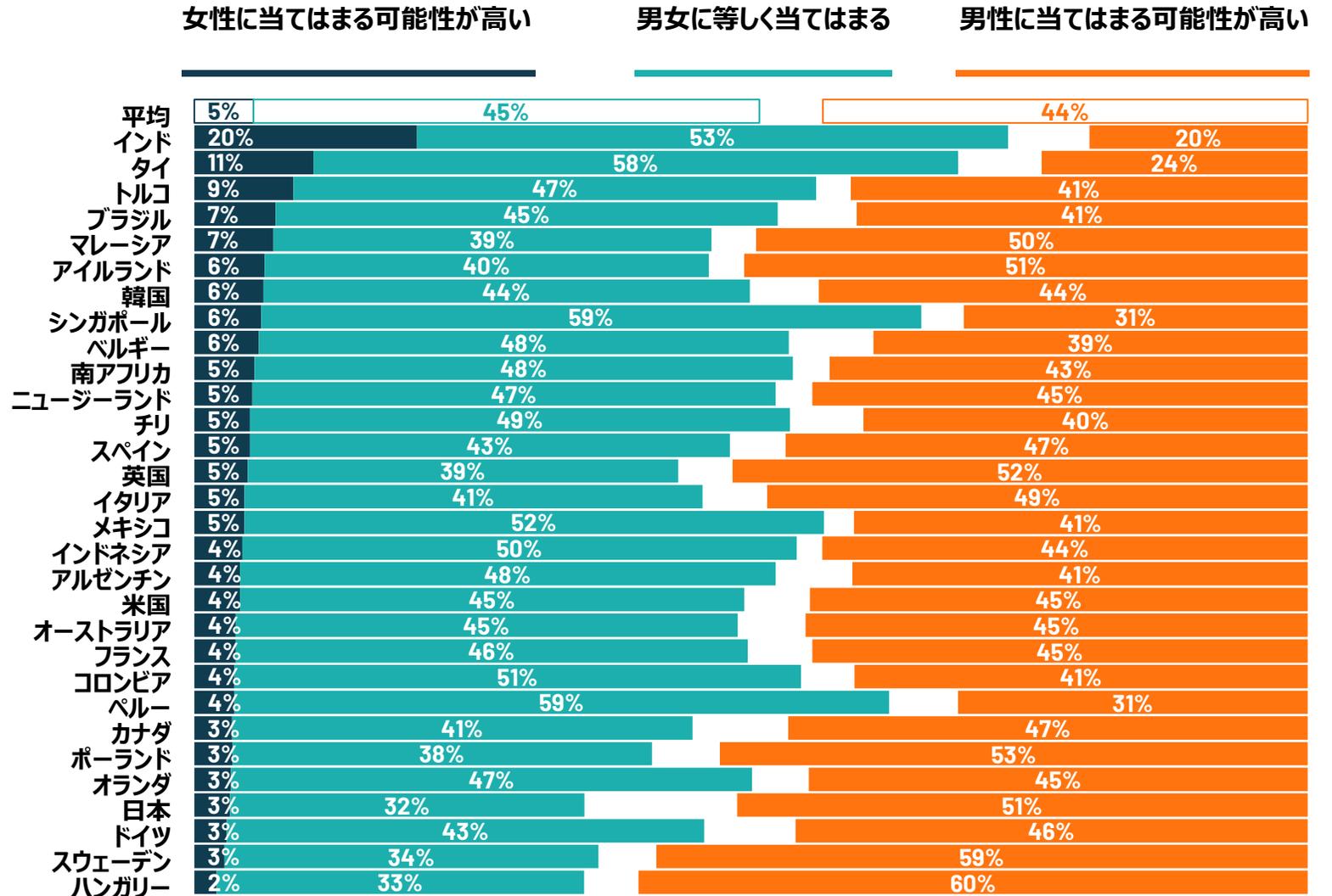
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

自国において、次の行動や特徴は、男性に当てはまる可能性が高いと思いますか？女性に当てはまる可能性が高いと思いますか？それとも、男女に等しく当てはまると思いますか？

政財界(政府、企業など)においてリーダーの役割を担う

30か国平均では、政財界において指導的役割を担うことは男性に当てはまる可能性が高いのか(44%)、それとも男女ともに平等に当てはまるのか(45%)について意見が分かれています。女性に当てはまる可能性が高いと考える人はわずか5%でした。



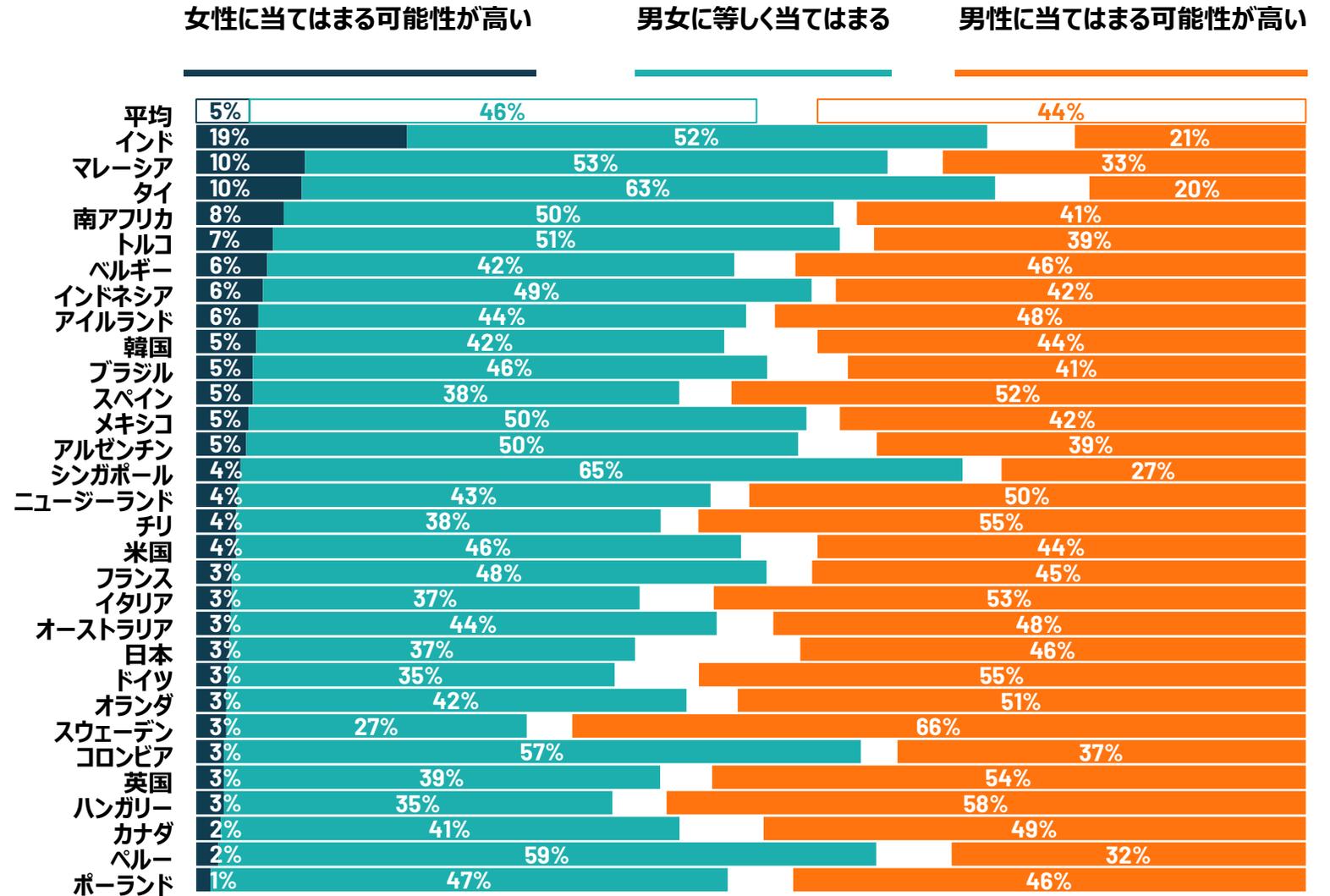
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

自国において、次の行動や特徴は、男性に当てはまる可能性が高いと思いますか？女性に当てはまる可能性が高いと思いますか？それとも、男女に等しく当てはまると思いますか？

高収入を得る

高収入を得ることが男女両方に等しく当てはまるか(46%)、それとも男性に当てはまる可能性が高いか(44%)についても同様に意見が分かれています。



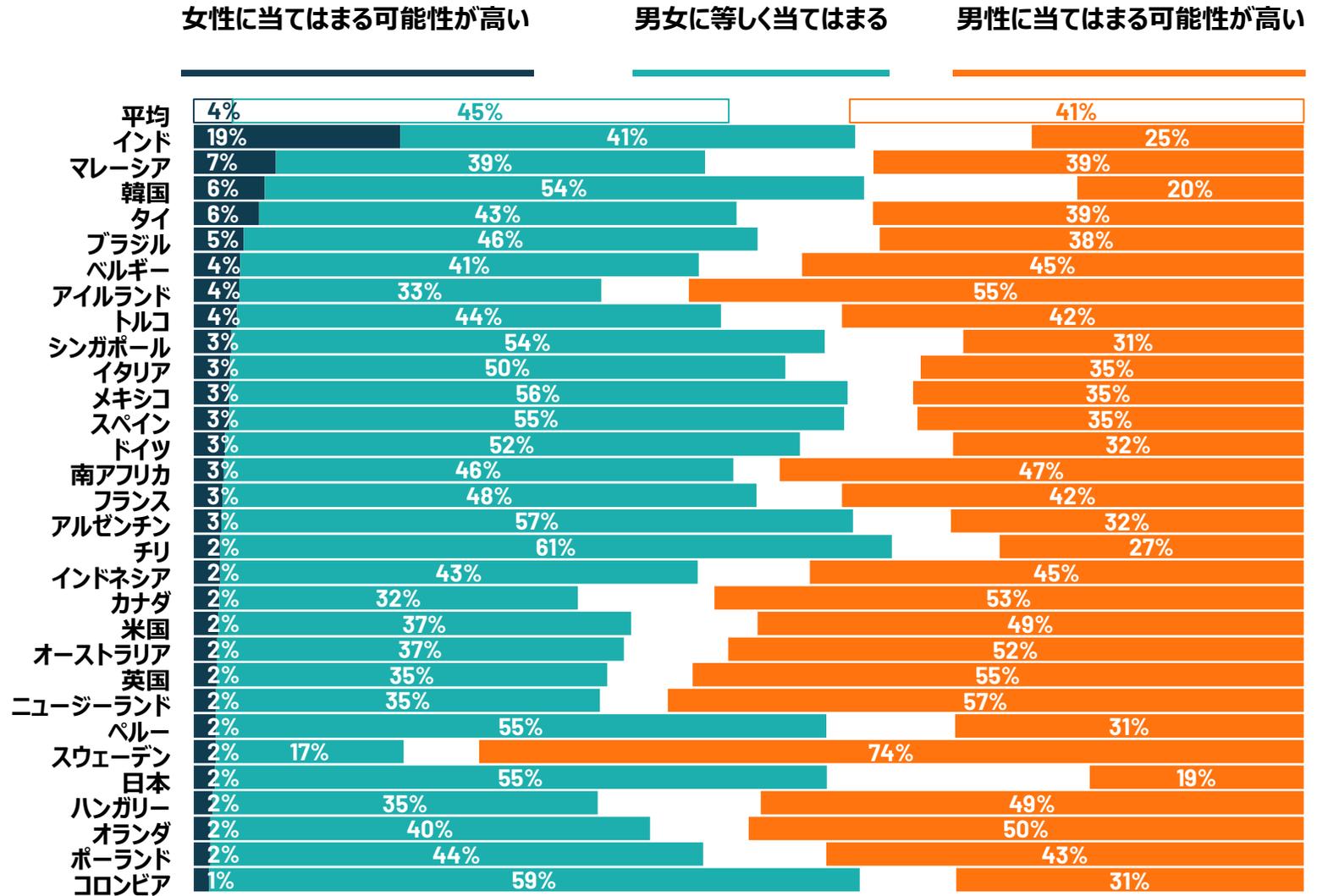
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

自国において、次の行動や特徴は、男性に当てはまる可能性が高いと思いますか？女性に当てはまる可能性が高いと思いますか？それとも、男女に等しく当てはまると思いますか？

刑務所に入る

ほぼ半数(45%)の人が、刑務所に入ることは男性と女性の両方に平等に適用されると考えています。同様の割合(41%)が、これは男性に当てはまると考えています。

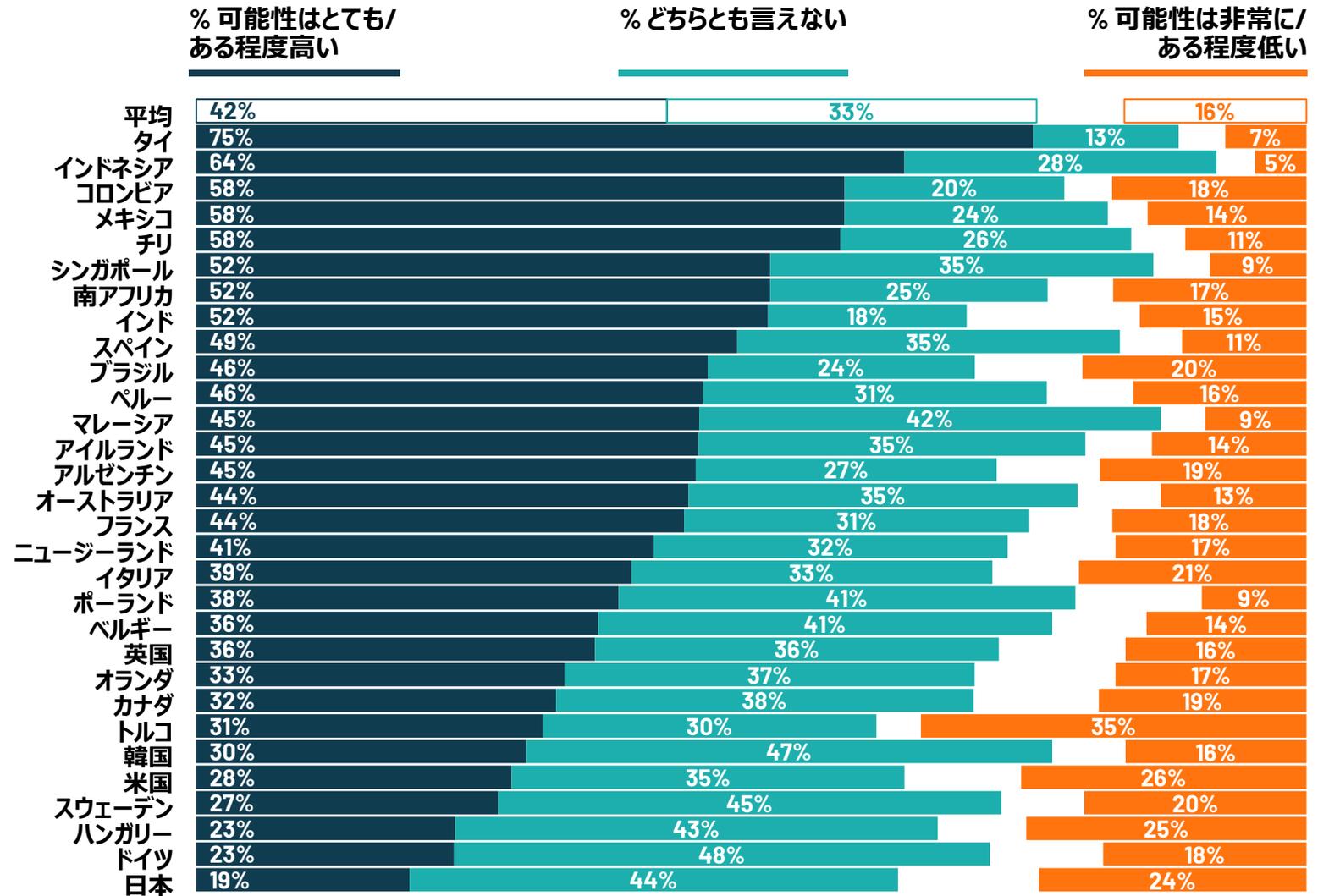


対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

今後5年間で、男女平等の達成に関して大きな進展が見られる可能性はどの程度あると思いますか？

30か国平均では、約5人に2人が、今後5年間で男女平等の達成に向けて大きな進歩が見られる可能性が高いと考えており(42%)、5人に1人未満は可能性が低いと回答しています(15%)。



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

進歩と二極化に 対する意識

Q

自国では現在、次の人々の間に、どの程度の緊張があると思いますか？

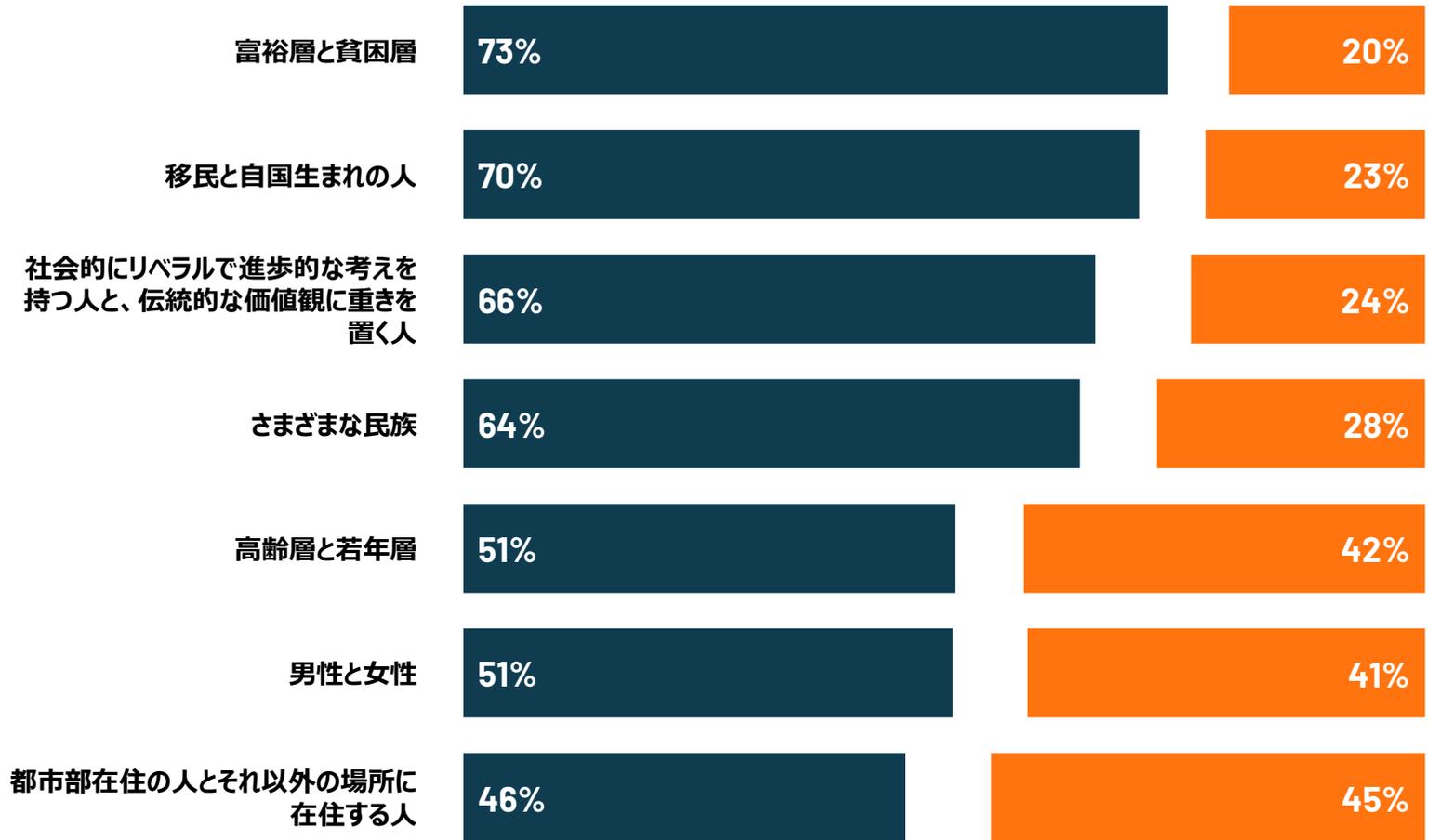
調査対象となった30か国の平均では、最も大きな緊張関係として、富裕層と貧困層(73%)と移民と自国生まれの人(70%)の間の緊張が特定されました。

半数の人が自国では男女間に緊張関係があると考えており(51%)、5人に2人は男女間にそれほど緊張関係はない(41%)と答えています。

30か国平均

% 非常に/ある程度緊張が高まっている

% あまり/まったく緊張はない



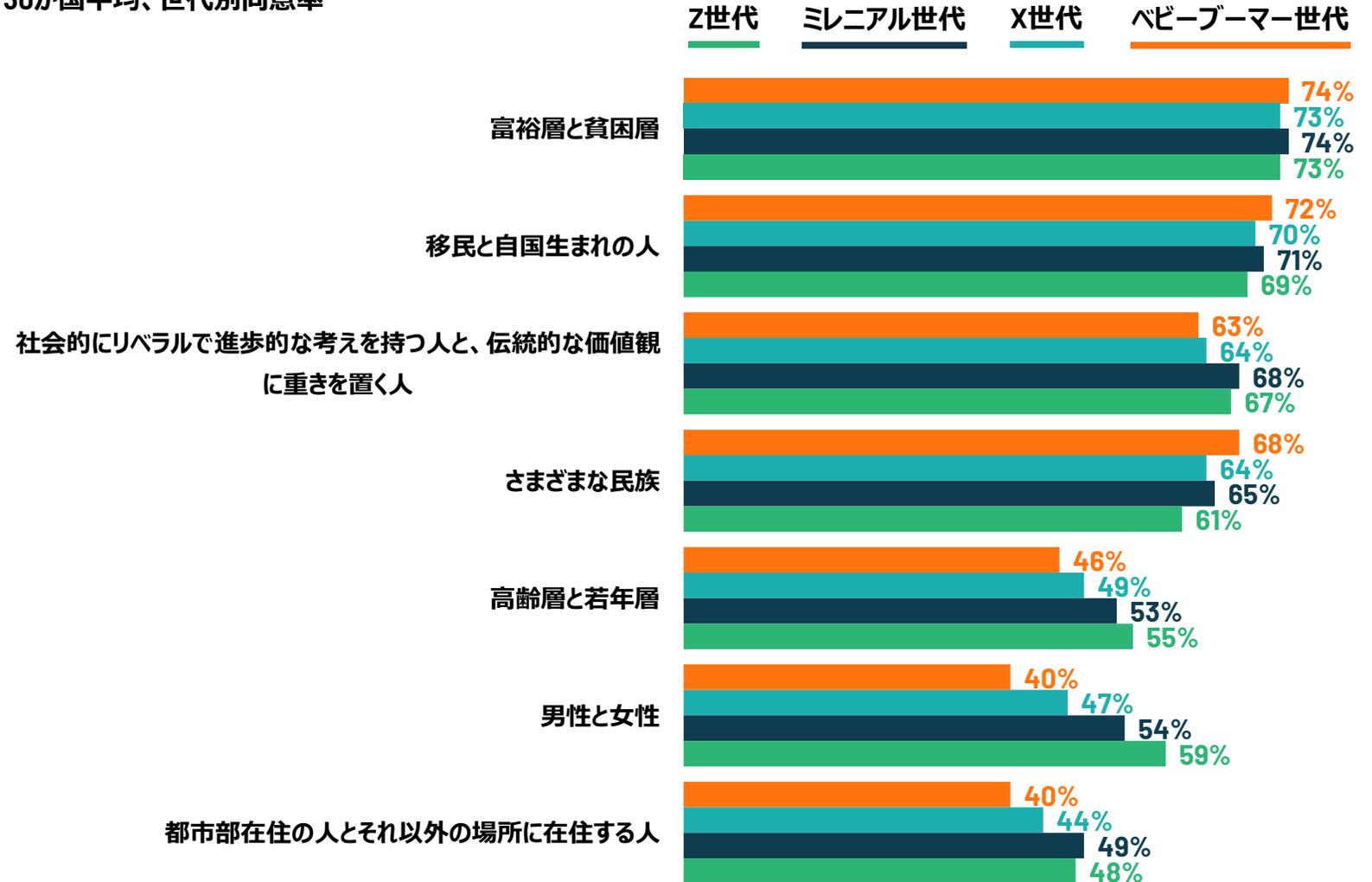
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

自国では現在、次の人々の間に、どの程度の緊張があると思いますか？

ミレニアル世代とZ世代は、ベビーブーマー世代とX世代に比べて、高齢層と若年層、都市部と都市部外者の間にある緊張を感じる傾向が強い結果となりました。

30か国平均、世代別同意率



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

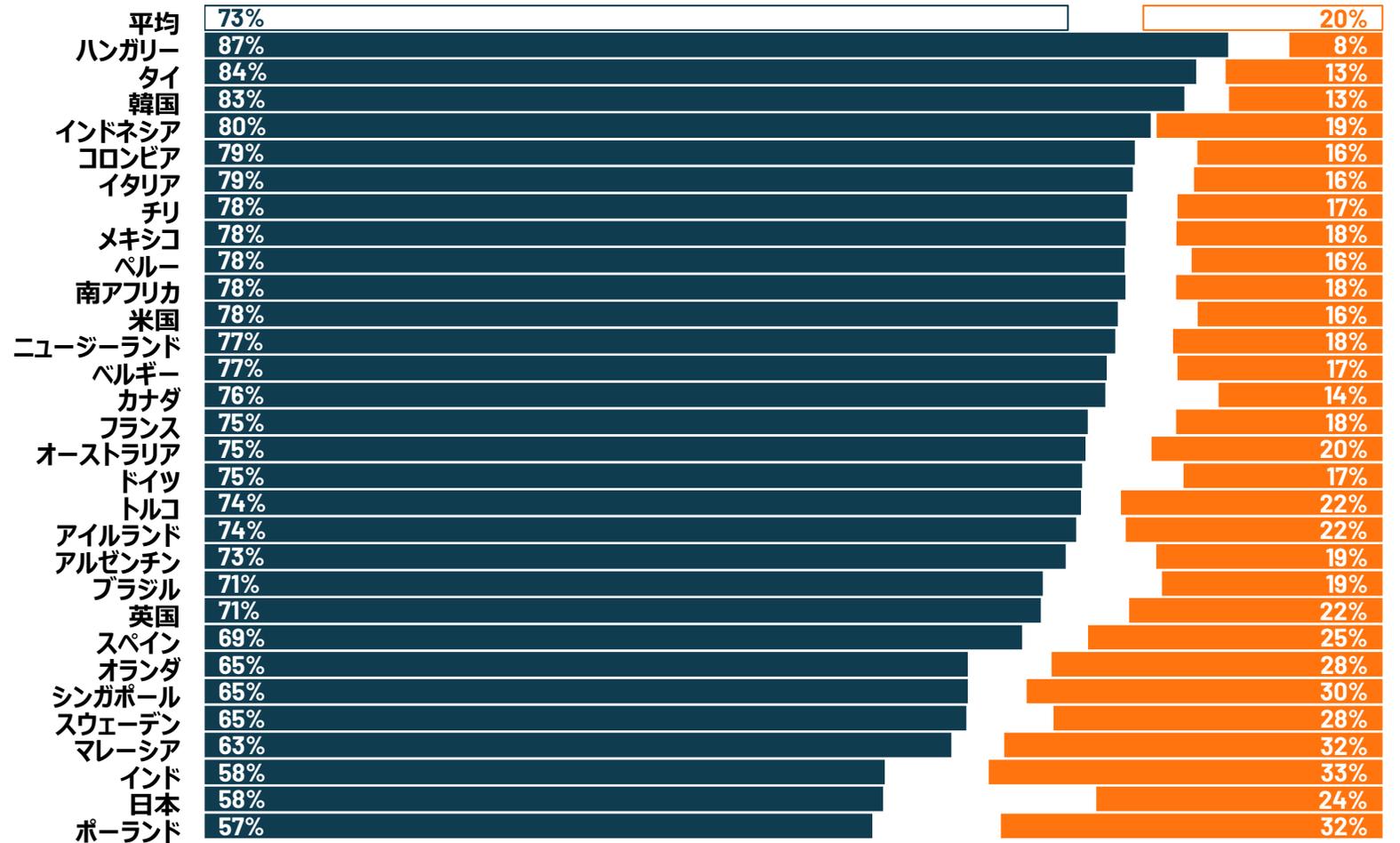
自国では現在、次の人々の間に、どの程度の緊張があると思いますか？

富裕層と貧困層

調査対象となったすべての国で、大多数の人が自国には富裕層と貧困層の間に緊張関係があると考えており、30か国のサンプル全体で平均4人に3人(73%)がそう答えています。対照的に、5人に1人(20%)は、自国では富裕層と貧困層の間に緊張関係があるとは感じていません。

% 非常に/ある程度緊張が高まっている

% あまり/まったく緊張はない



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

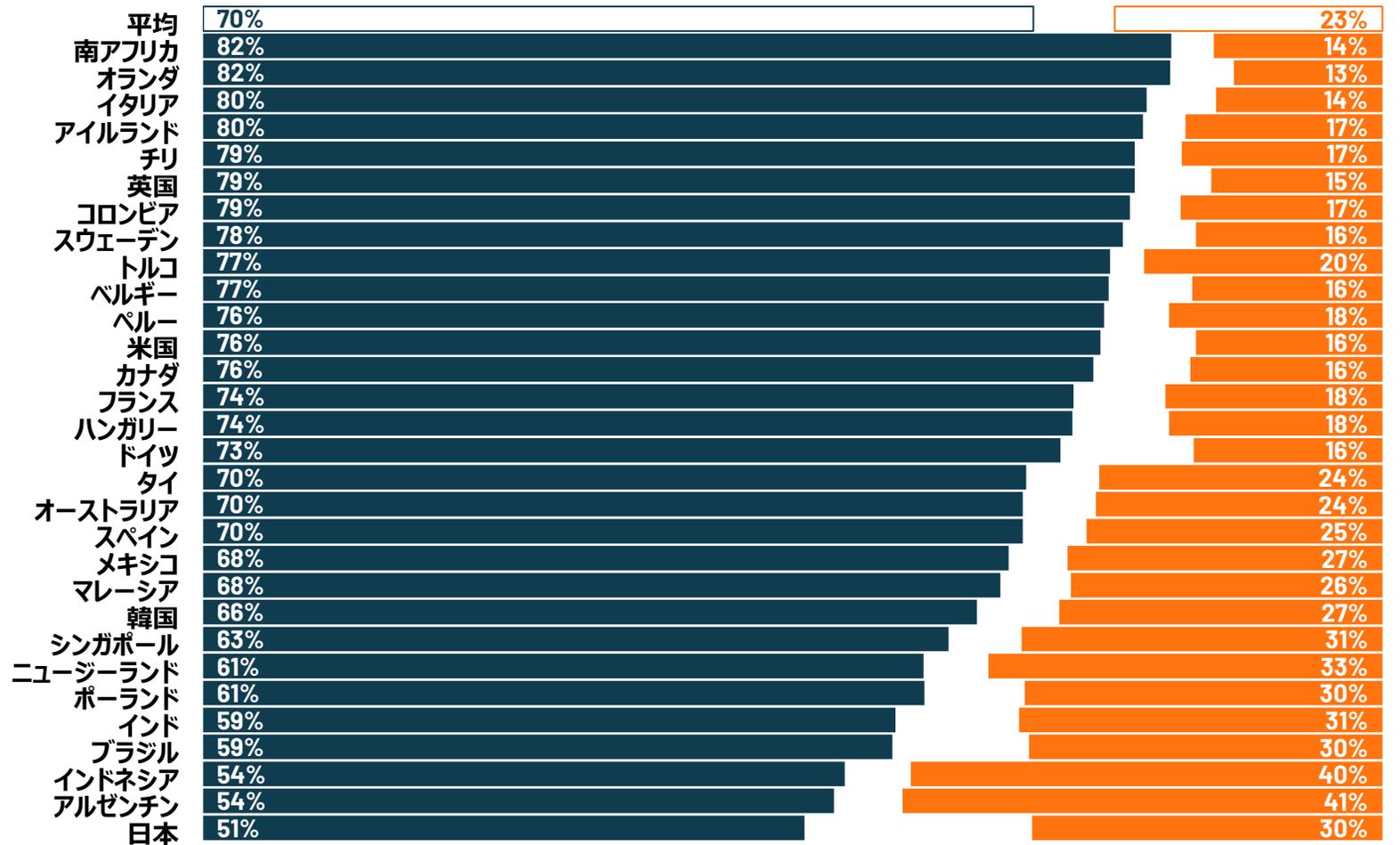
自国では現在、次の人々の間に、どの程度の緊張があると思いますか？

移民と自国生まれの人

移民はもう一つのよくある緊張の原因であり、平均して10人中7人が、自国では移民とその国で生まれた人々の間に緊張関係があると述べています(70%)。4人に1人(23%)は、これらのグループ間に緊張関係はないと答えています。

% 非常に/ある程度緊張が高まっている

% あまり/まったく緊張はない



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

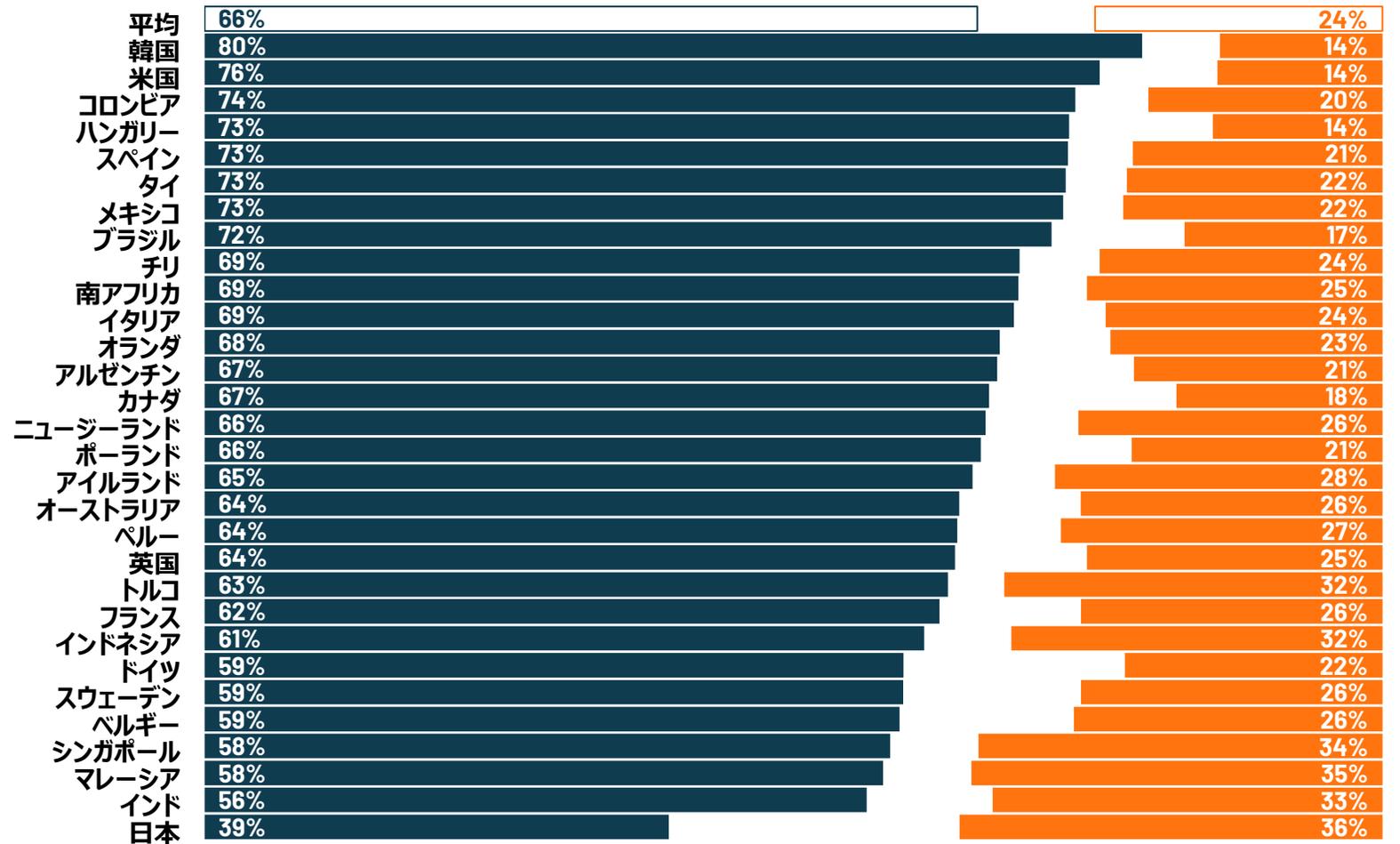
自国では現在、次の人々の間に、どの程度の緊張があると思いますか？

社会的にリベラルで進歩的な考えを持つ人と、伝統的な価値観に重きを置く人

日本を除くすべての国で、大多数の人が、よりリベラル/進歩的な考えを持つ人々と、より伝統的な価値観を持つ人々の間に緊張関係があると考えており、30か国平均では3人に2人(66%)、4人に1人(24%)がその反対であると回答しています。

% 非常に/ある程度緊張が高まっている

% あまり/まったく緊張はない



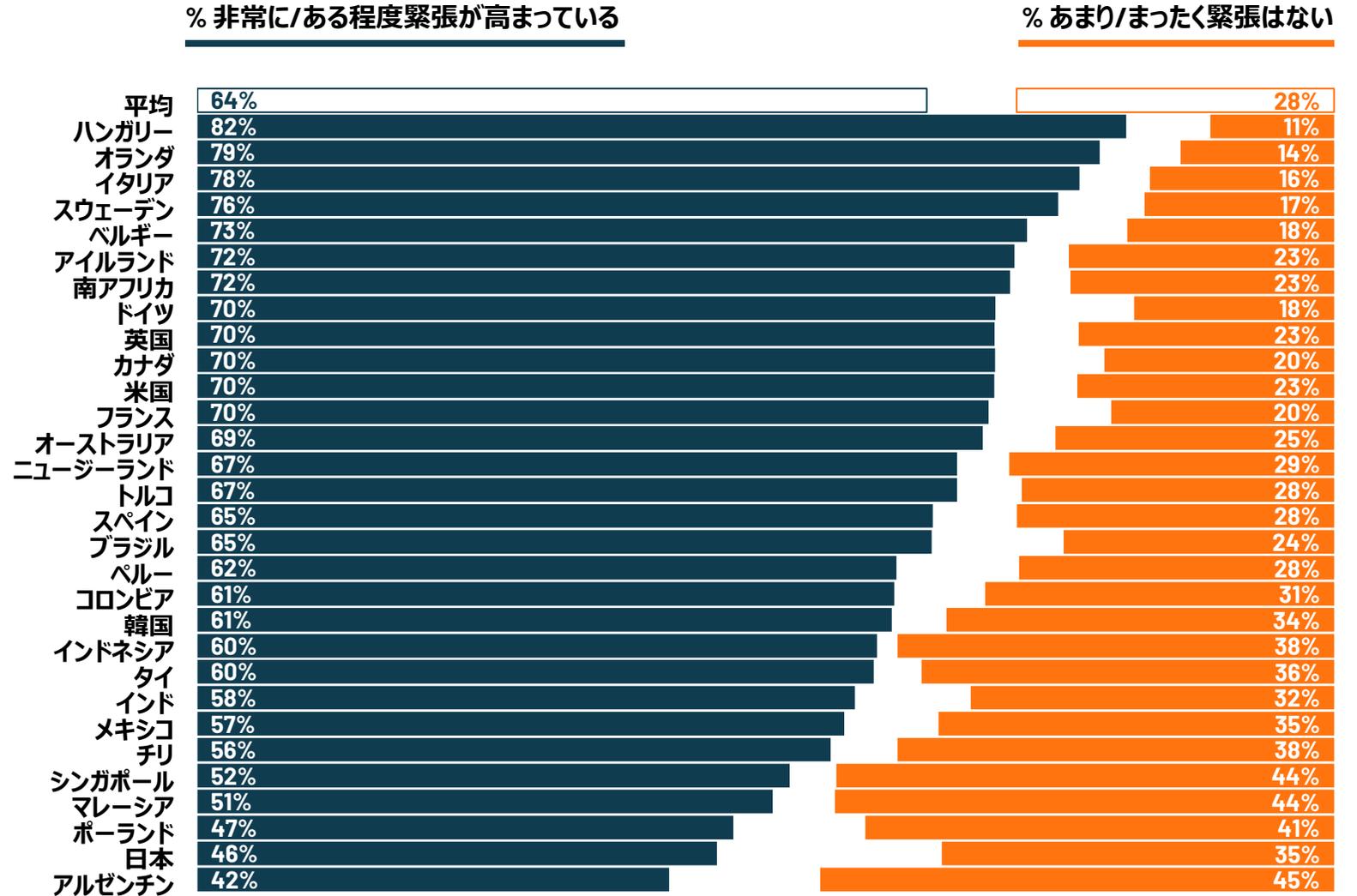
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

自国では現在、次の人々の間に、どの程度の緊張があると思いますか？

さまざまな民族

調査対象となった30か国全体で、約3人に2人(64%)が異なる民族間に緊張関係があると考えています。対照的に、約10人中3人(28%)は、これらのグループ間に緊張関係はないと答えています。



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

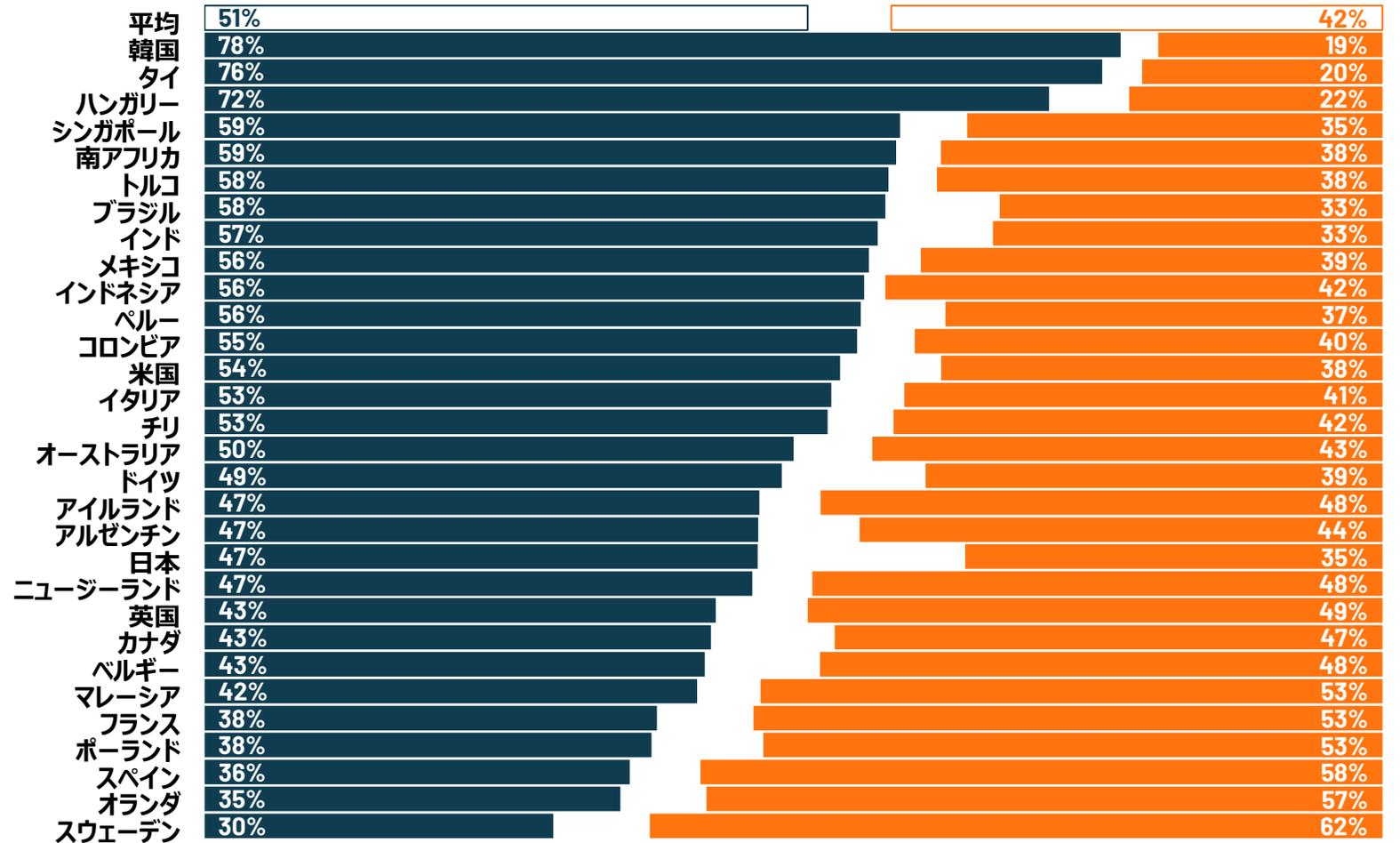
自国では現在、次の人々の間に、どの程度の緊張があると思いますか？

高齢層と若年層

30か国平均では、自国では高齢者と若年層の間に緊張関係があると考える人が半数(51%)で、これらのグループの間に緊張関係がないと考える人は42%となっています。

% 非常に/ある程度緊張が高まっている

% あまり/まったく緊張はない



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

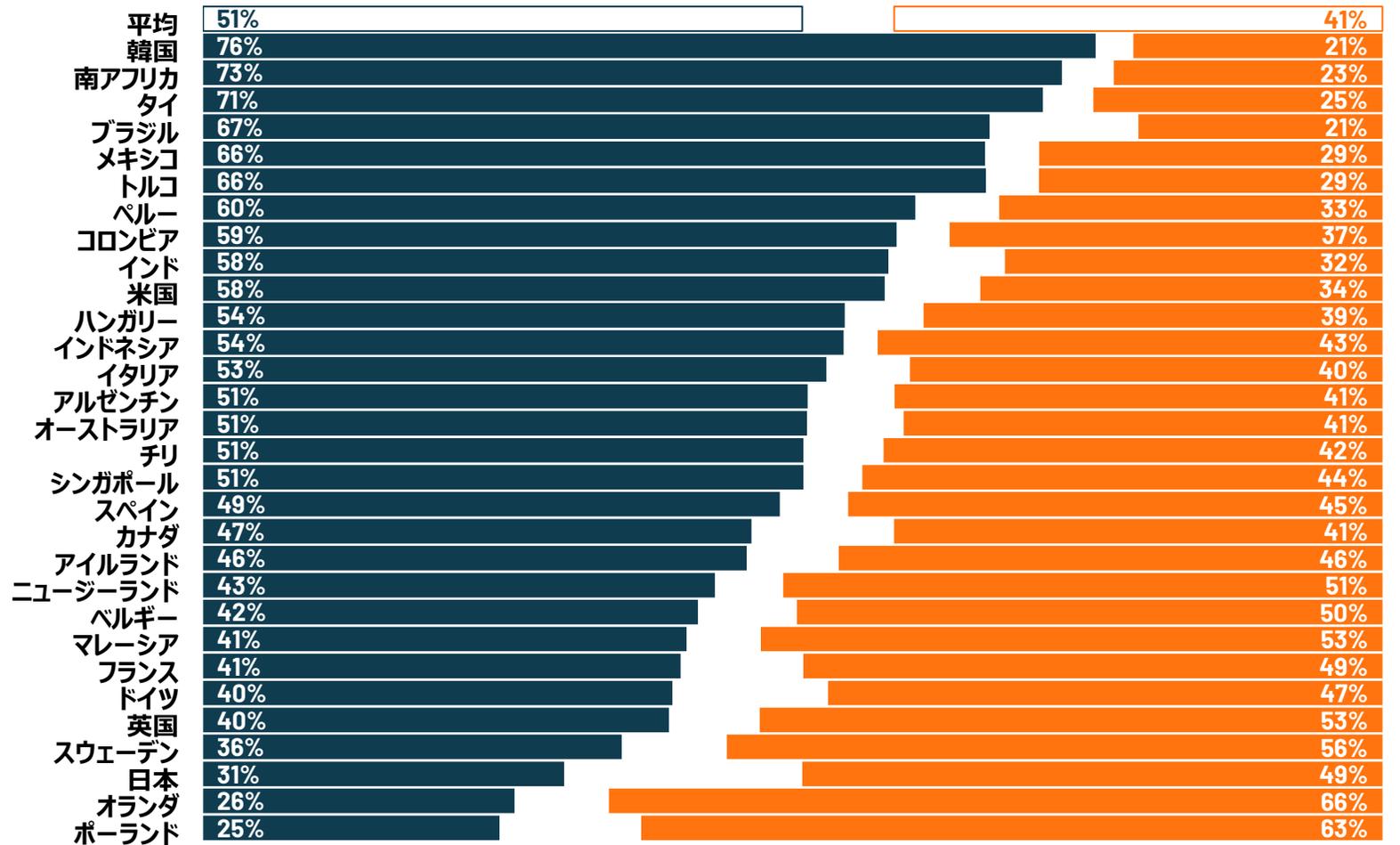
自国では現在、次の人々の間に、どの程度の緊張があると思いますか？

男性と女性

平均して、半数の人が自国では男女間に緊張関係があると考えています(51%)。5人に2人は、自国では男女間の緊張関係は存在しないと考えています(41%)。

% 非常に/ある程度緊張が高まっている

% あまり/まったく緊張はない



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

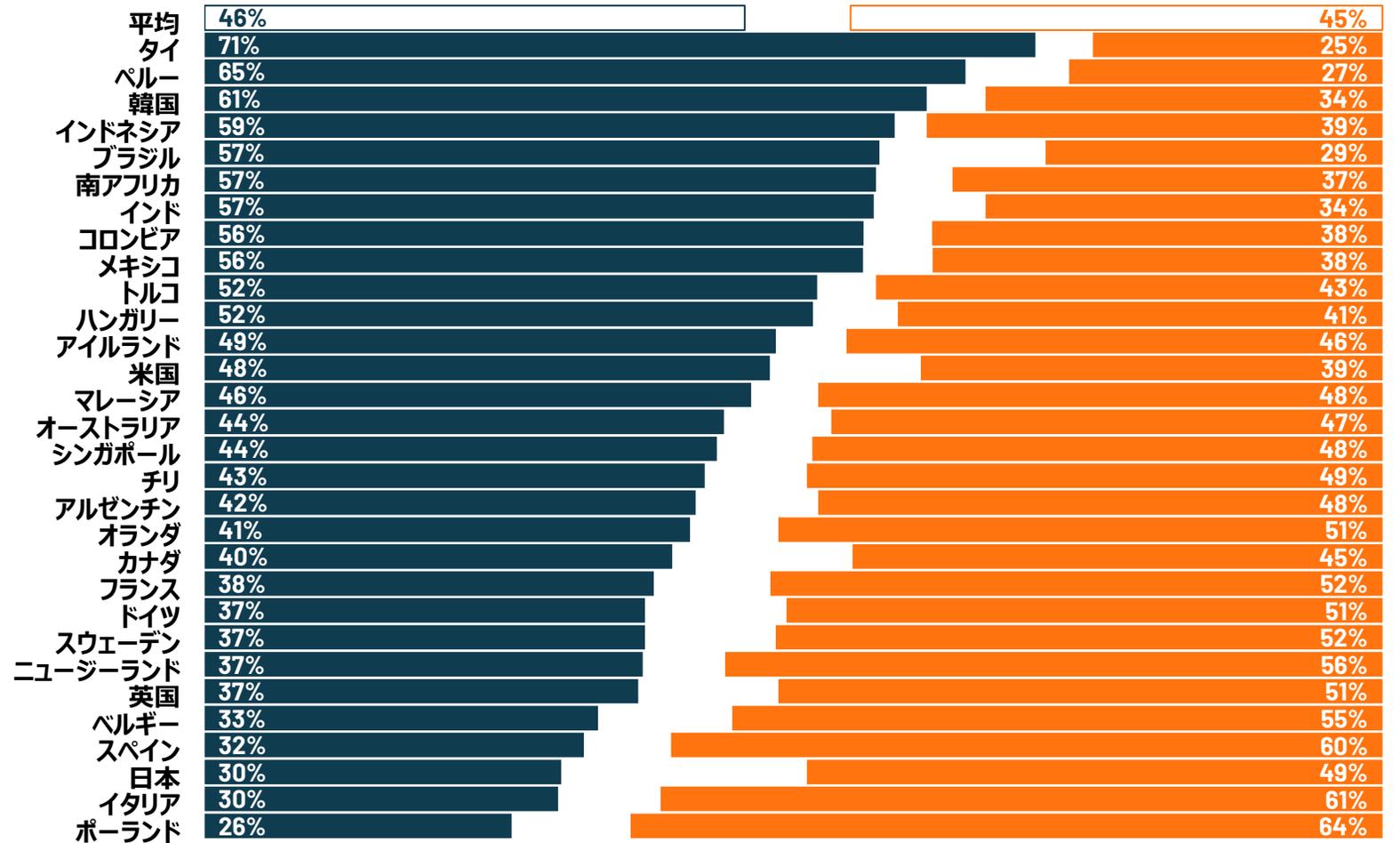
自国では現在、次の人々の間に、どの程度の緊張があると思いますか？

都市部在住の人とそれ以外の場所に在住する人

平均的には、都市部在住の人とそれ以外の場所に在住する人の間に緊張関係があるかどうかについては人々の意見が分かれています。回答者の半数弱(46%)は、これらのグループ間に緊張関係があると答えており、緊張関係はない(45%)と答えた人はほぼ同数でした。

% 非常に/ある程度緊張が高まっている

% あまり/まったく緊張はない

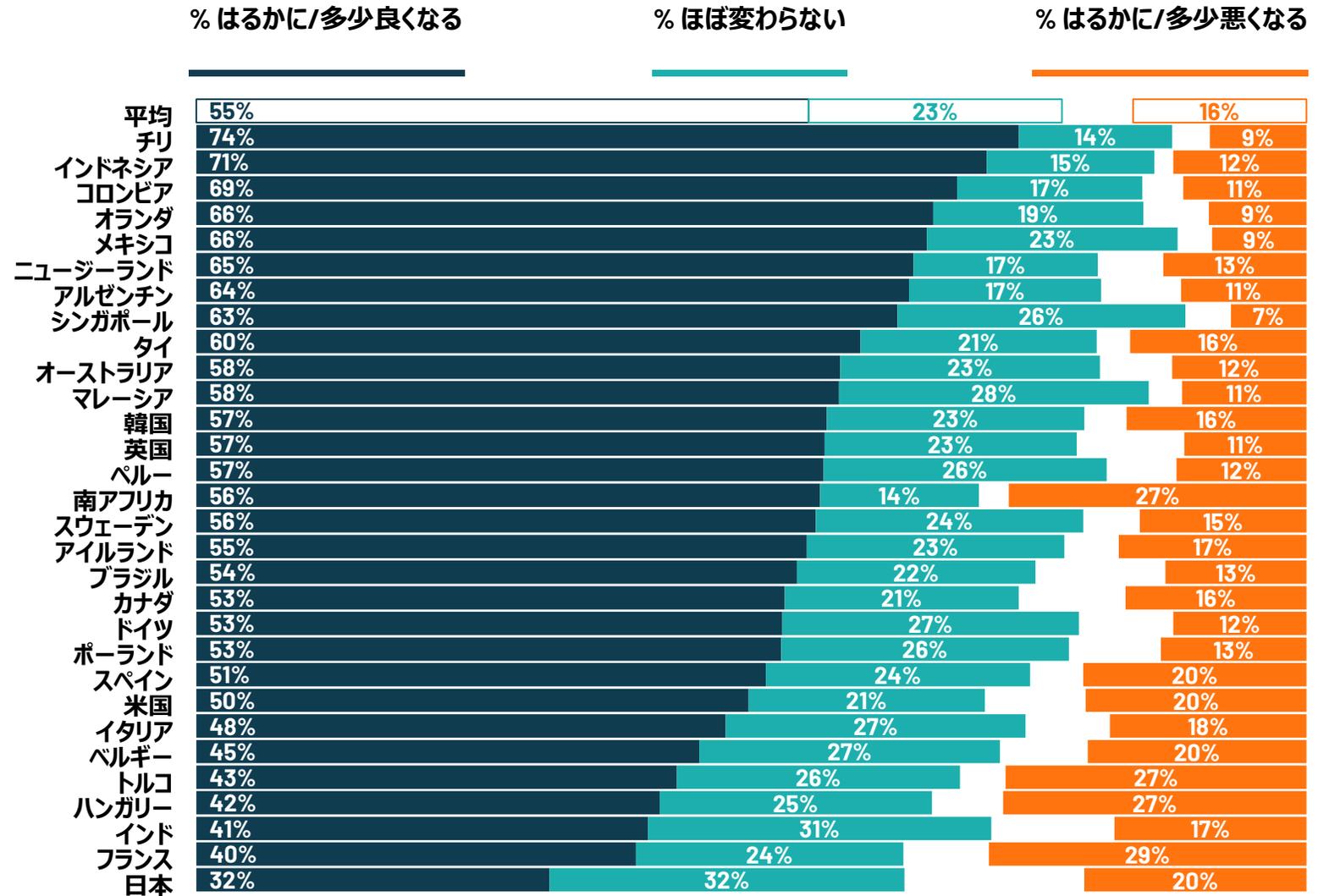


対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

現代の自国の若い女性が送る人生は、その親世代の女性の人生と比べて、どの程度良くなると思いますか？

30か国平均では、半数以上の方が、自国の若い女性は親の世代の女性よりも良い生活を送っているだろうと考えています(55%)。対照的に、4人に1人(23%)はほぼ変わらないと考えており、16%はより悪くなると考えています。

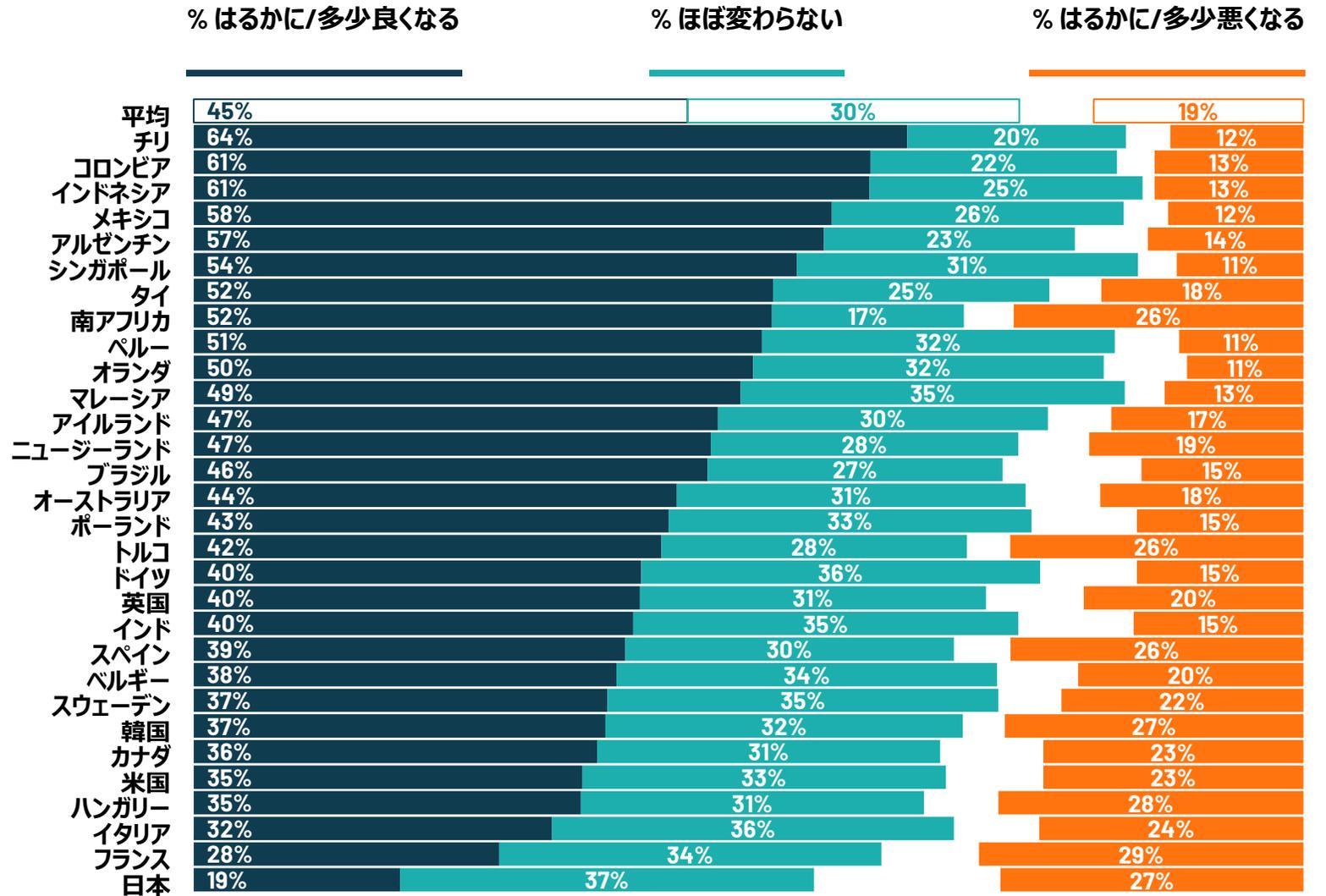


対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン24,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

現代の自国の若い男性が送る人生は、その親世代の男性の人生と比べて、どの程度良くなると思いますか？

30か国平均では、自国の若い男性は親の世代の男性よりも良い生活を送っているだろうと考える人は半数以下(45%)でした。対照的に、10人中3人(30%)はほぼ変わらないと考えており、5人中1人(19%)は悪くなると思っています。

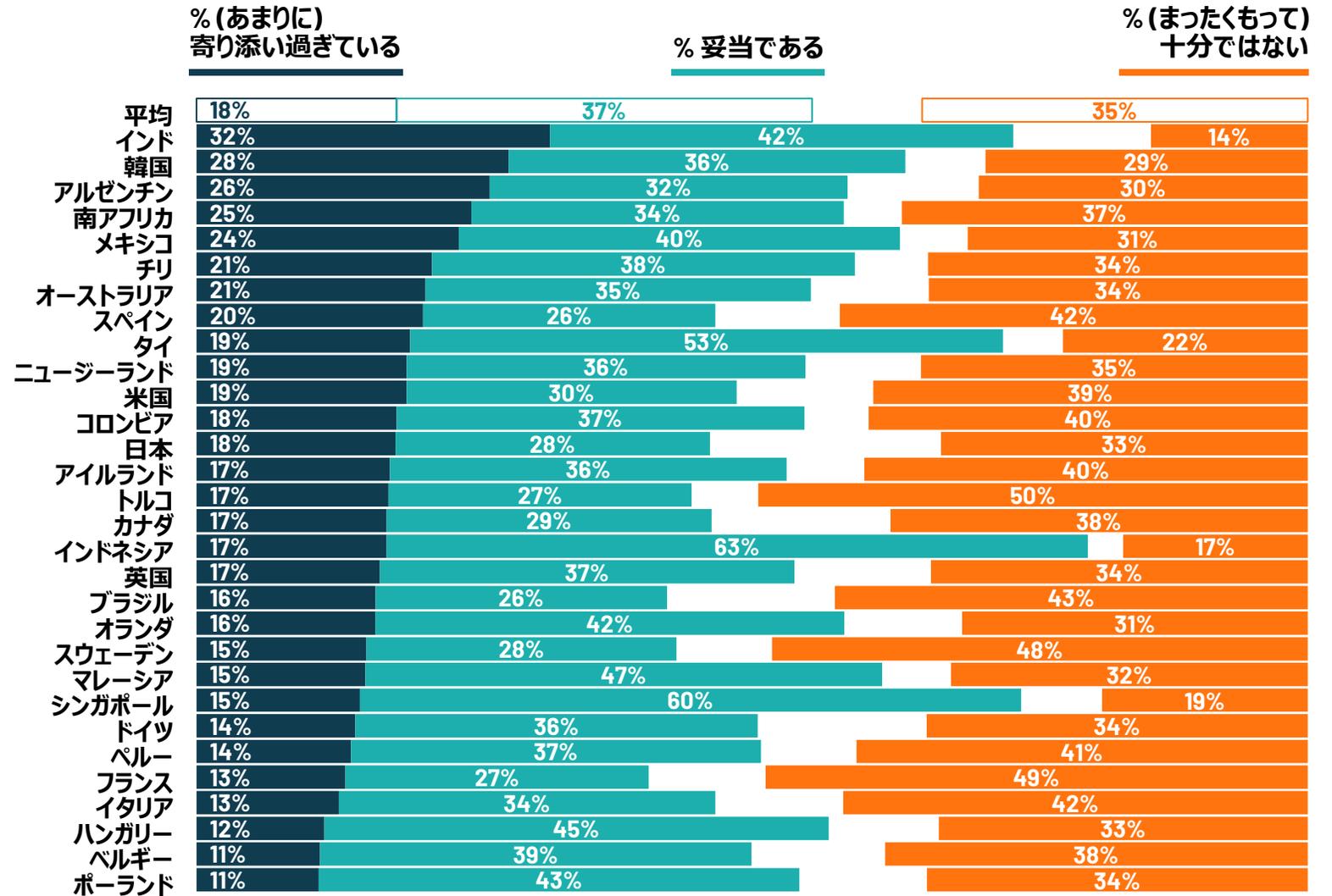


対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

自国における機会均等のための試みは、あまりに女性に寄り添い過ぎていると思いますか？まだ十分ではないと思いますか？それとも妥当だと思いますか？

3人に1人以上が、自国の女性に平等な機会を与える取り組みは十分ではないと考えており(35%)、同様の割合の人が、取り組みはほぼ適切であると答えています(37%)。約5人に1人は、こうした試みは行き過ぎだと考えています(18%)。



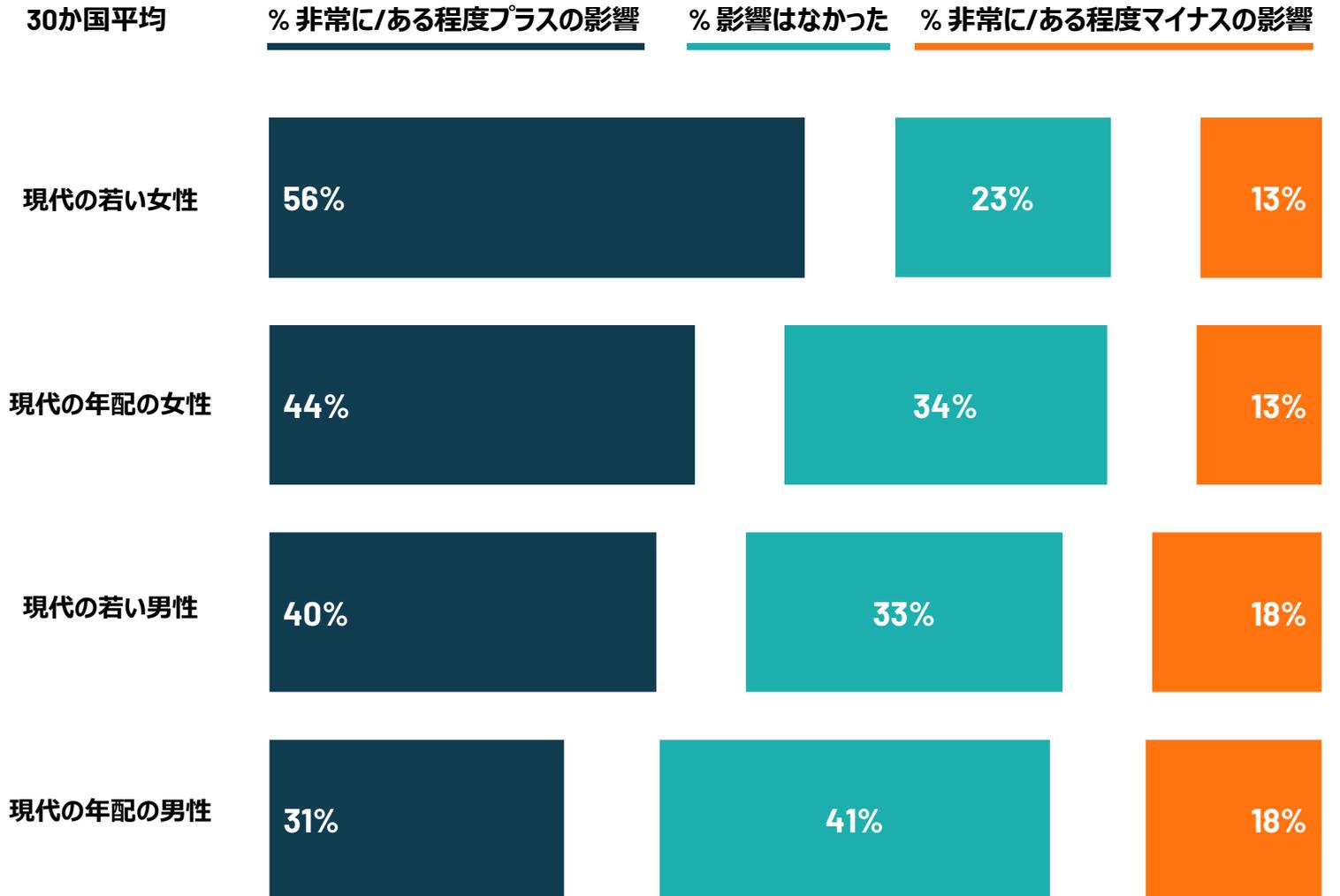
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

過去数十年間における女性の平等な権利を促進する運動は、次の人々にどのような影響を与えたと思いますか？

30か国平均では、半数以上の人々が、過去数十年間に女性の平等な権利を推進する動きが若い女性に良い影響を与えたと考えています(56%)。約4人に1人は、これらの取り組みは何の効果もなかった(23%)と考えており、13%は影響がマイナスであったと考えています。

対照的に、5人に2人(40%)はこれらの取り組みが若い男性に良い影響を与えたと考えており、3人に1人(33%)はこれらの取り組みが若い男性に何の影響も与えなかったと考えています。約5人に1人が、影響はマイナスだったと考えています(18%)。



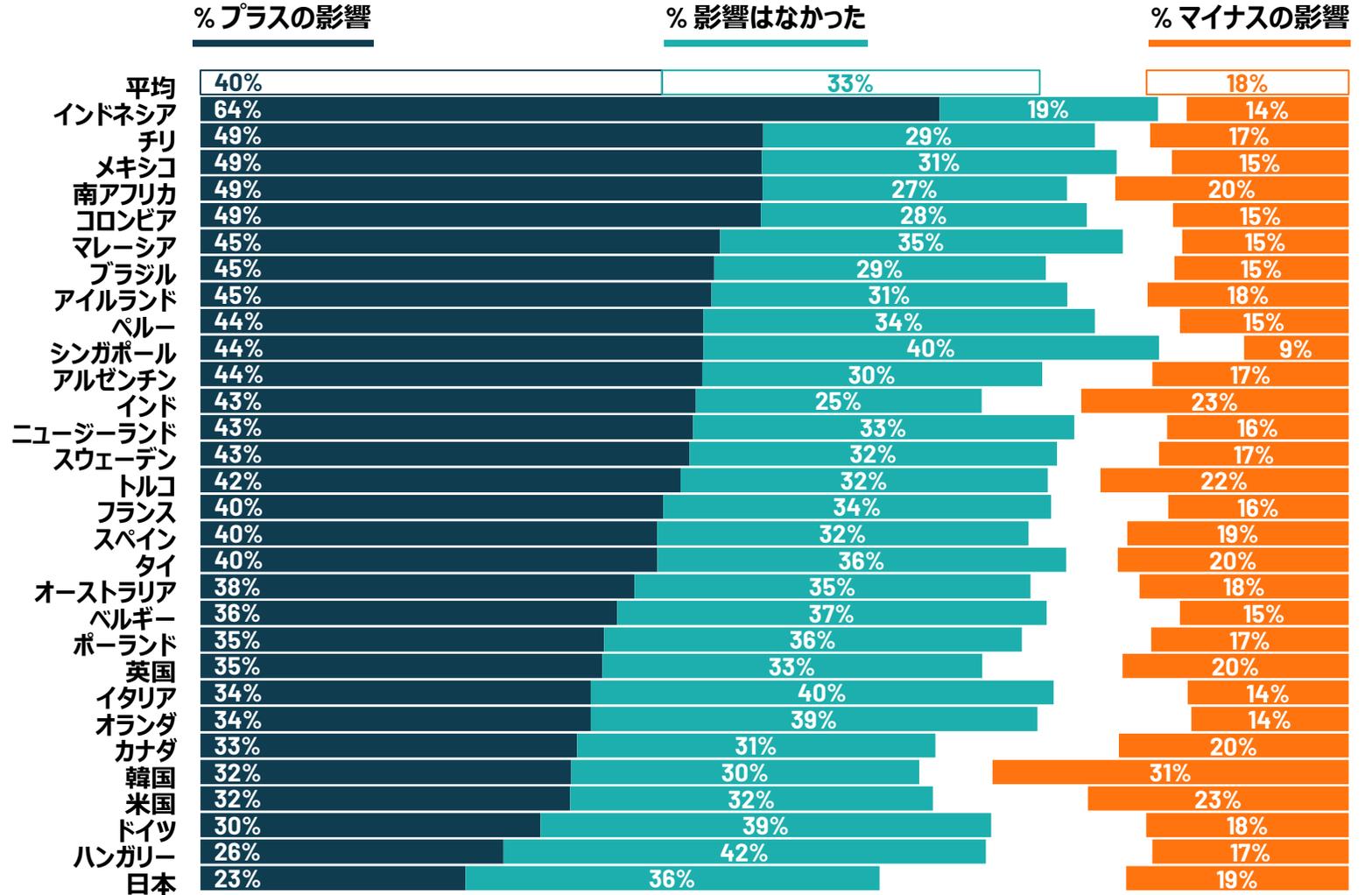
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

過去数十年間における女性の平等な権利を促進する運動は、次の人々にどのような影響を与えたと思いますか？

現代の若い男性

5人に2人は、過去数十年間に女性の平等な権利を推進する動きが今日の若い男性に良い影響を与えていると考えています(40%)。3人に1人は、こうした取り組みは何の効果もなかったと考えています。5人に1人は、マイナスの影響があったと答えています。



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

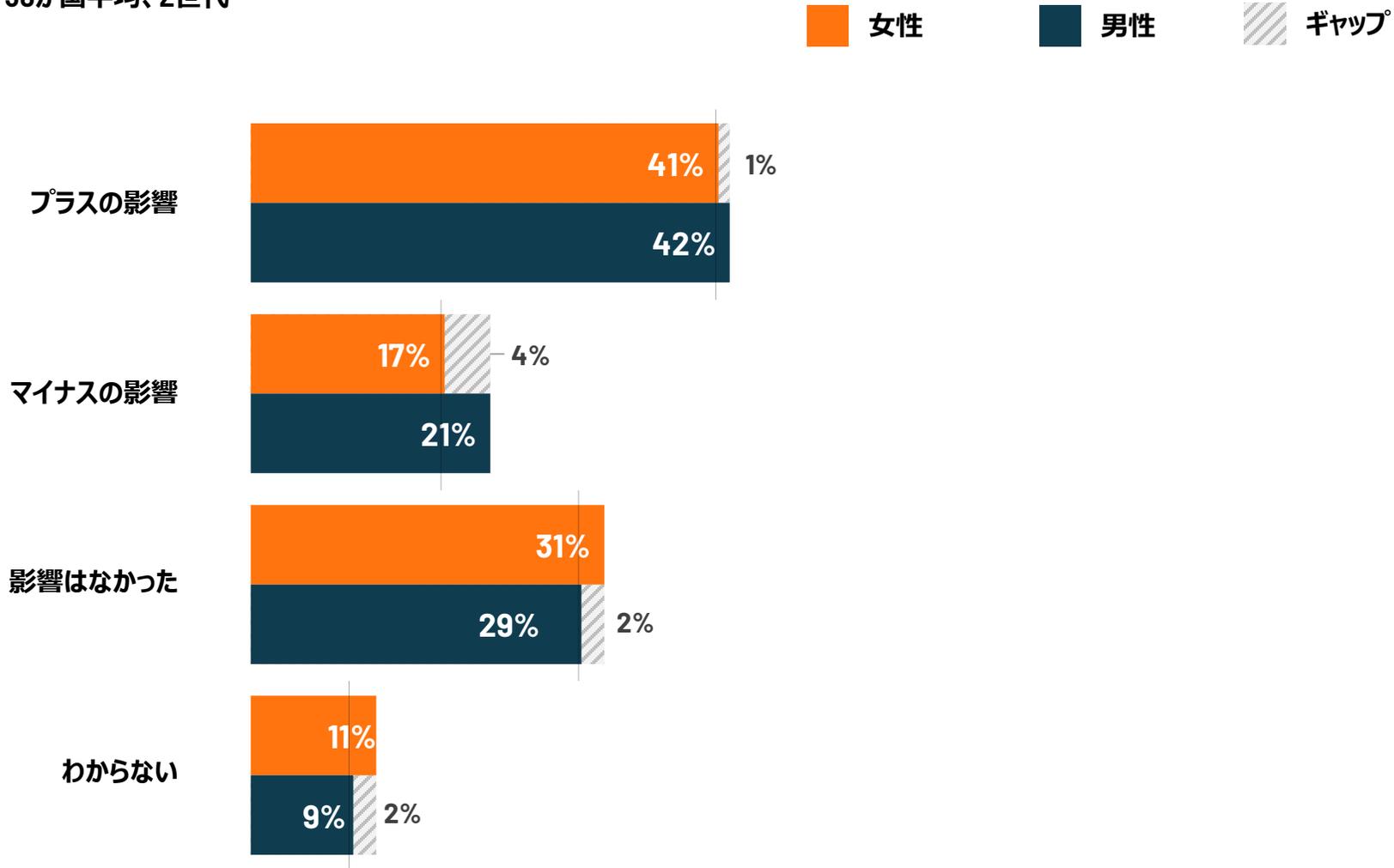
Q

過去数十年間における女性の平等な権利を促進する運動は、次の人々にどのような影響を与えたと思いますか？

現代の若い男性

特にZ世代に目を向けると、過去数十年間の男女平等の権利を推進する動きが若い男性に与えた影響について、男女間でほとんど差はありません。女性(41%と男性(42%)の約10人中4人がこれを肯定的に捉えており、男性の方がわずかに否定的な影響があったと捉える傾向が強い結果となりました(21%、女性では17%)。

30か国平均、Z世代



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

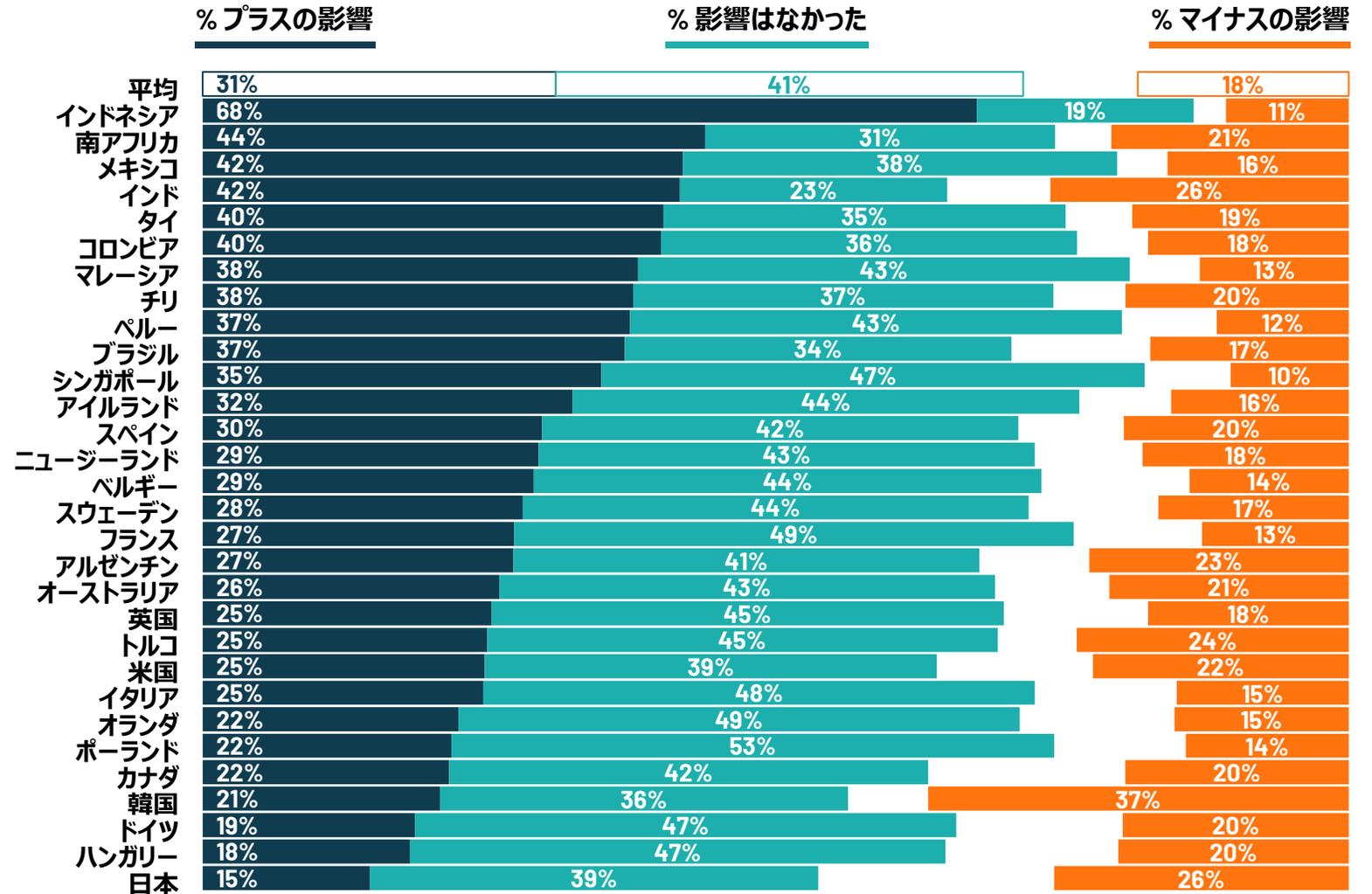
Q

過去数十年間における女性の平等な権利を促進する運動は、次の人々にどのような影響を与えたと思いますか？

現代の年配の男性

過去数十年間に女性の平等な権利を推進する動きが今日の年配の男性に何の影響も与えていないと考える人が最も多い結果となっています(41%)。

さらに10人中3人がこの年齢層に良い影響を与えたと考えており(31%)、5人中1人が悪い影響を与えたと答えています(18%)。



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

過去数十年間における女性の平等な権利を促進する運動は、次の人々にどのような影響を与えたと思いますか？

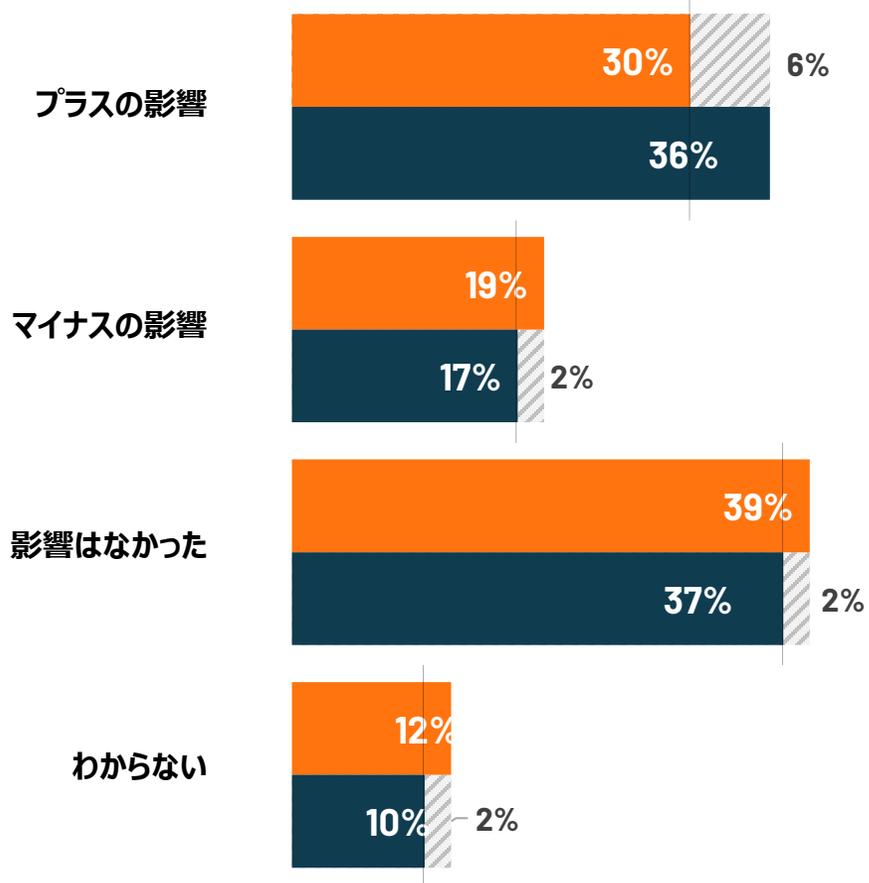
現代の年配の男性

Z世代では、過去数十年間に女性の平等な権利を推進する動きが年配の男性に良い影響を与えたと答える割合が女性よりも男性の方が高い結果となっています(36%、Z世代の女性では30%)。

Z世代の女性は、こうした努力は今日の年配男性に何ら影響を与えなかったと答える傾向が強いです(39%)。

30か国平均、Z世代

女性 男性 ギャップ



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

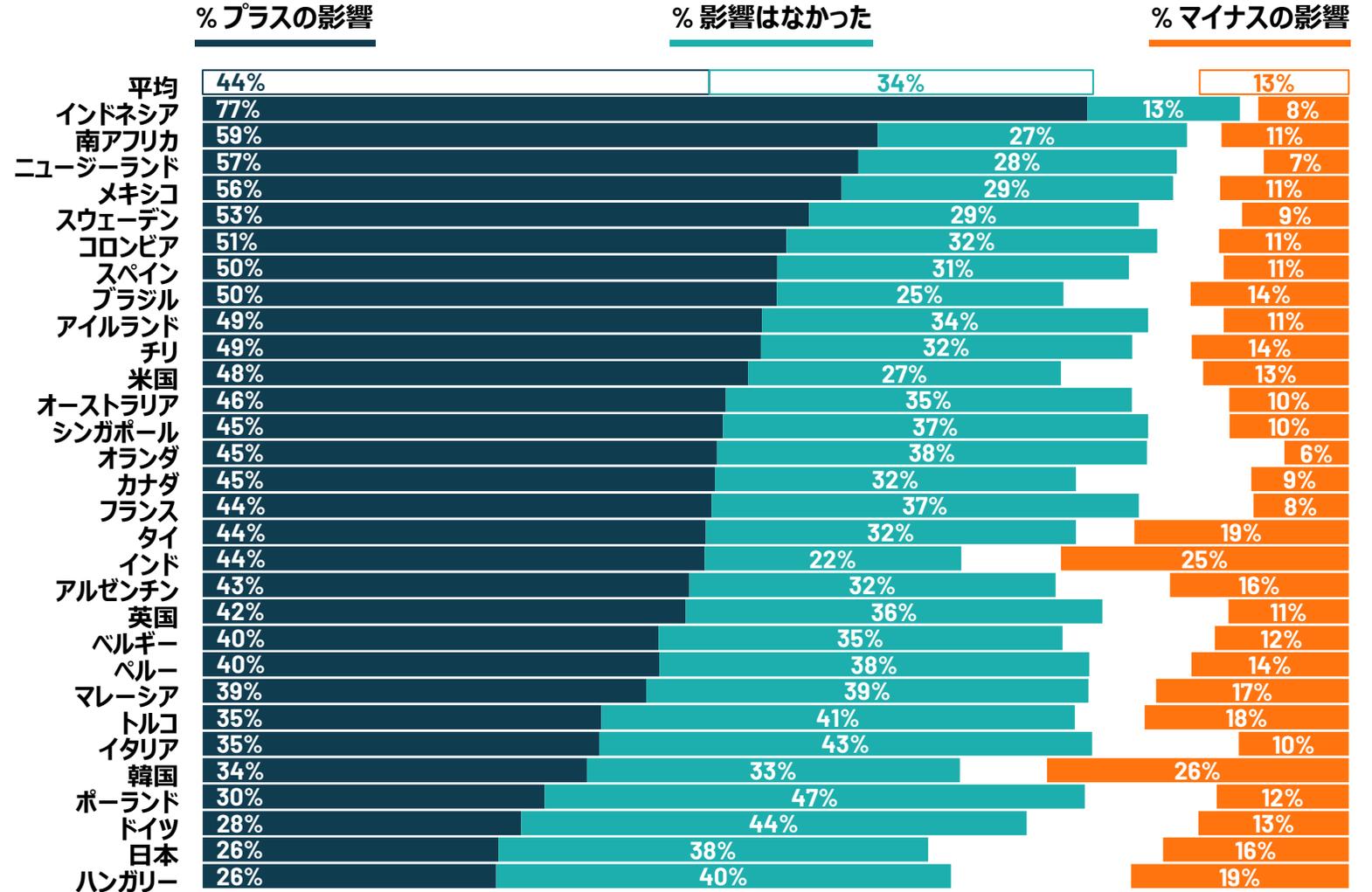
Q

過去数十年間における女性の平等な権利を促進する運動は、次の人々にどのような影響を与えたと思いますか？

現代の年配の女性

30か国平均では、過去数十年間に女性の平等な権利を推進する動きが今日の年配女性に良い影響を与えたと考える人が5人中2人以上(44%)に上っています。

3人に1人は、こうした取り組みは何の効果もなかったと考えています(34%)。この年齢層に悪影響を与えたと考える人はわずか13%でした。



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

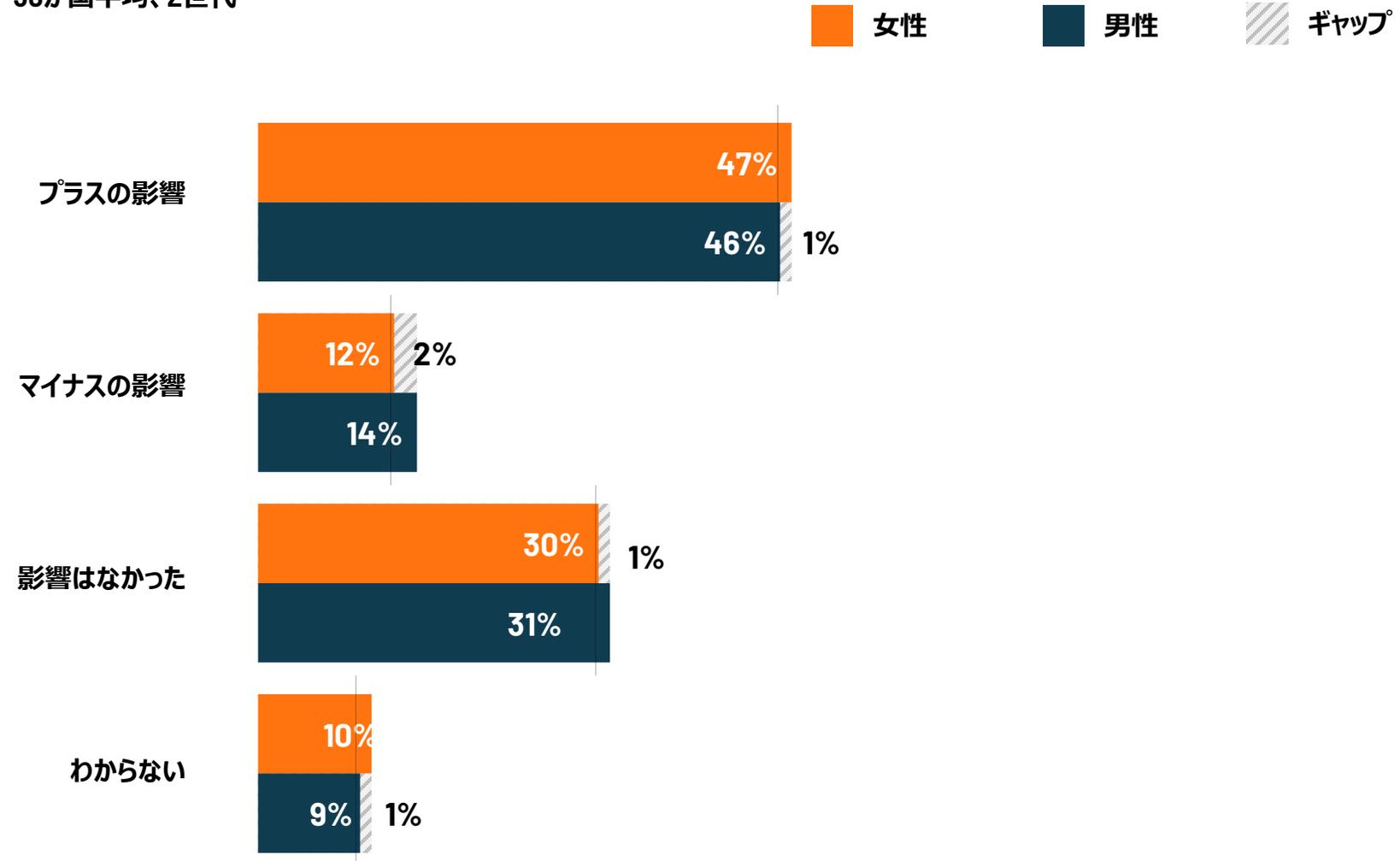
Q

過去数十年間における女性の平等な権利を促進する運動は、次の人々にどのような影響を与えたと思いますか？

現代の年配の女性

女性の平等な権利を推進する動きが現代の年配女性に与える影響については、Z世代の男性と女性の意見は概ね一致しており、約半数がプラスだったと答え、約10人に3人は何の違いもなかったと答え、約10人に1人が悪い影響だったと答えています。

30か国平均、Z世代



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

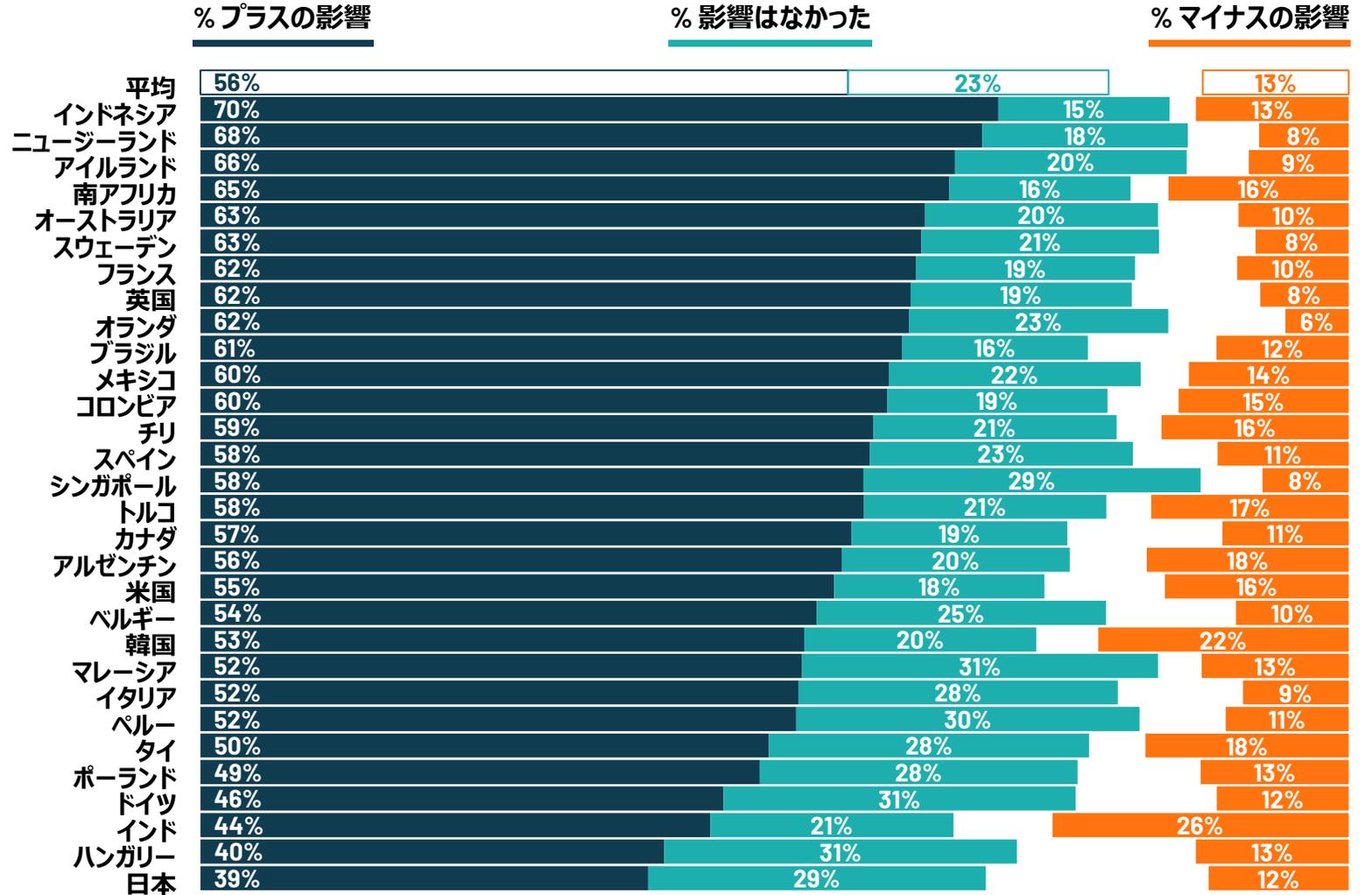
Q

過去数十年間における女性の平等な権利を促進する運動は、次の人々にどのような影響を与えたと思いますか？

現代の若い女性

半数以上(56%)の人が、過去数十年間に女性の平等な権利を推進する動きが今日の若い女性に良い影響を与えていると考えています。

これに対し、約4人に1人がこれらの取り組みに変化はなかったと考えており(23%)、13%がマイナスの影響があったと回答しています。



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

過去数十年間における女性の平等な権利を促進する運動は、次の人々にどのような影響を与えたと思いますか？

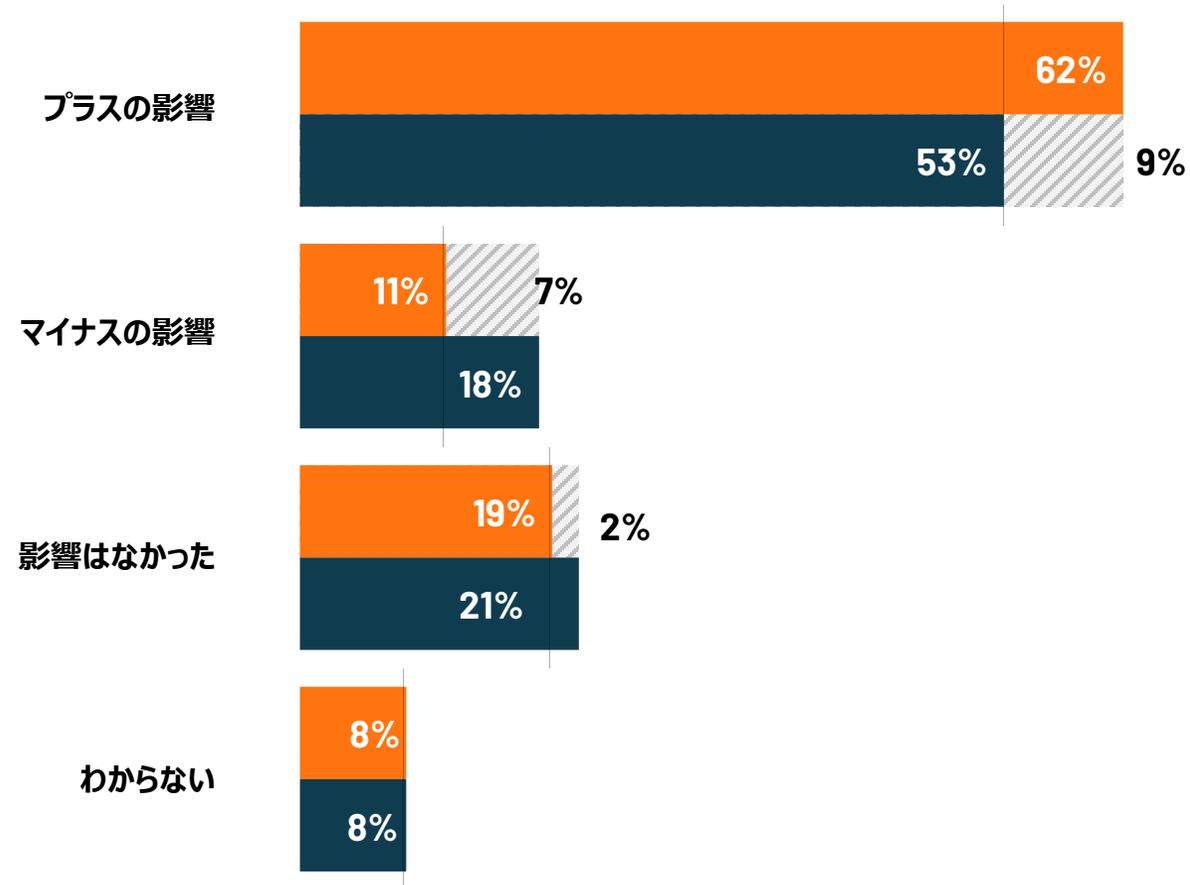
現代の若い女性

調査対象のすべての年齢層のうち、過去数十年間に女性の平等な権利を推進する動きが今日の若い女性に良い影響を与えたか悪い影響を与えたかに関して、Z世代の意見が最も分かれています。

こうした取り組みの影響がプラスだったと答える割合は、Z世代の女性の方が男性よりも高く(62%、Z世代の男性では53%)、こうした取り組みの影響がマイナスだったと答える割合は女性よりも男性の方が高い結果となりました(18%、Z世代の女性では11%)。

30か国平均、Z世代

女性 男性 ギャップ



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

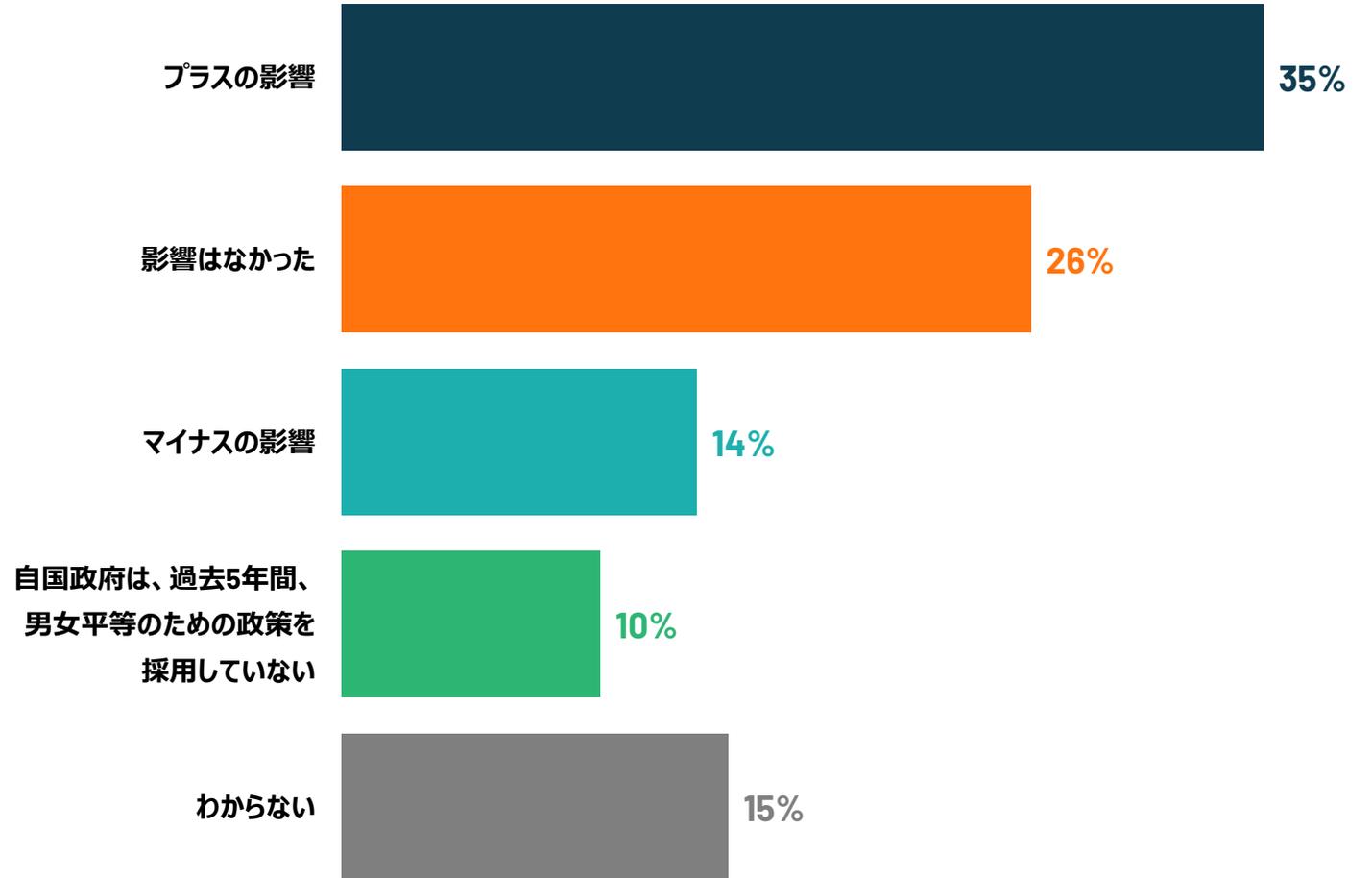
Q

過去5年間にわたり、男女平等のために自国政府が採用した政策は、社会にどのような影響を与えたと思いますか？

30か国平均では、3人に1人以上(35%)が、過去5年間に企業が男女平等の追求のために採用した方針が社会に良い影響を与えたと考えています。

対照的に、約4人に1人(26%)はこれらの政策は何の効果ももたらさなかったと考えており、14%はマイナスの影響があったと考えています。

30か国平均



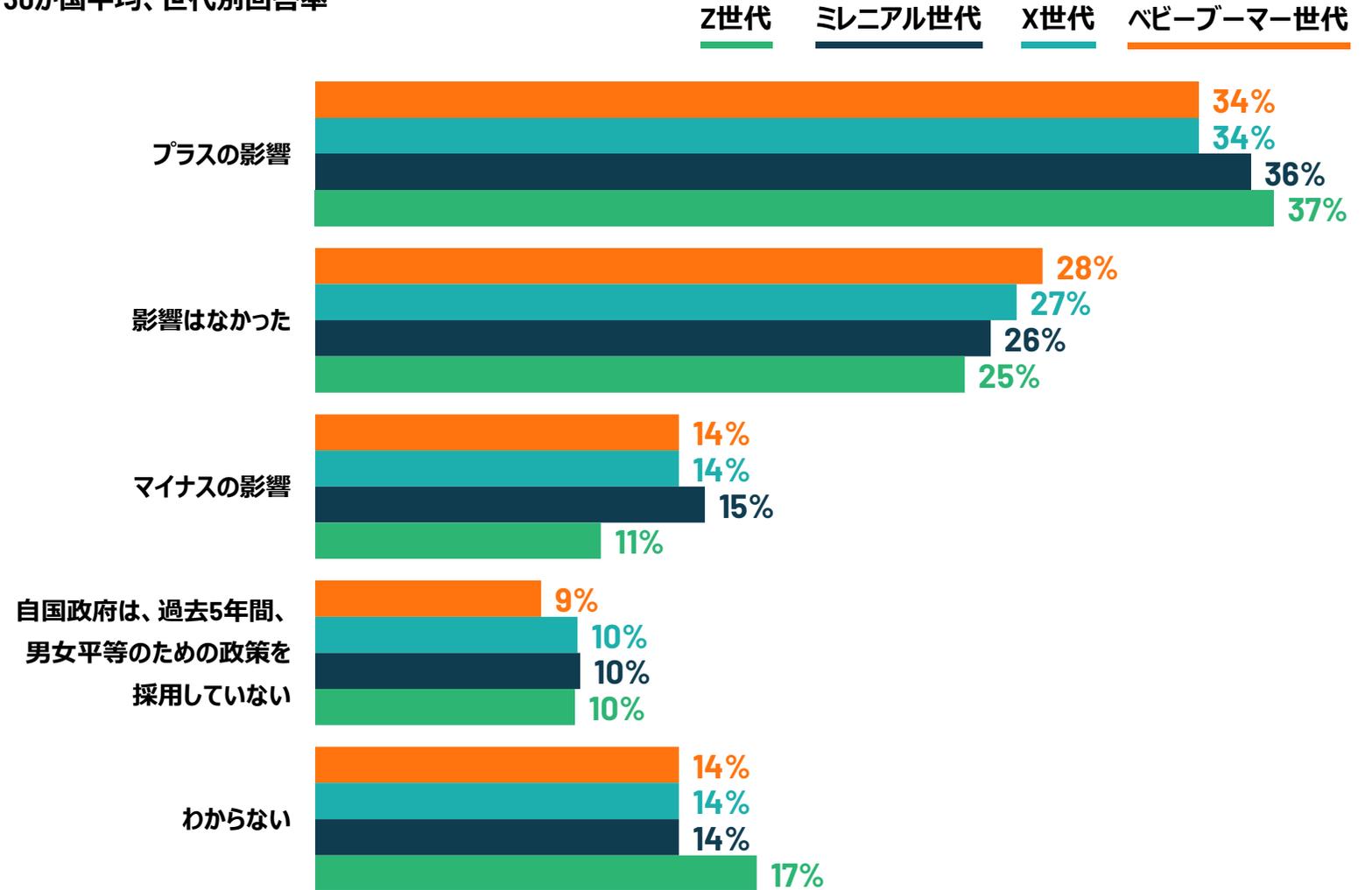
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

過去5年間にわたり、男女平等のために自国政府が採用した政策は、社会にどのような影響を与えたと思いますか？

男女平等の追求において各国政府が採用した政策の影響をどう見ているかについては、世代間でほとんど差がありません。政策はプラスの影響を与えたと考える人が最も多く、変化はなかったと考える人はわずかに少ないです。マイナスの影響があったと考える人は5人に1人未満です。

30か国平均、世代別回答率



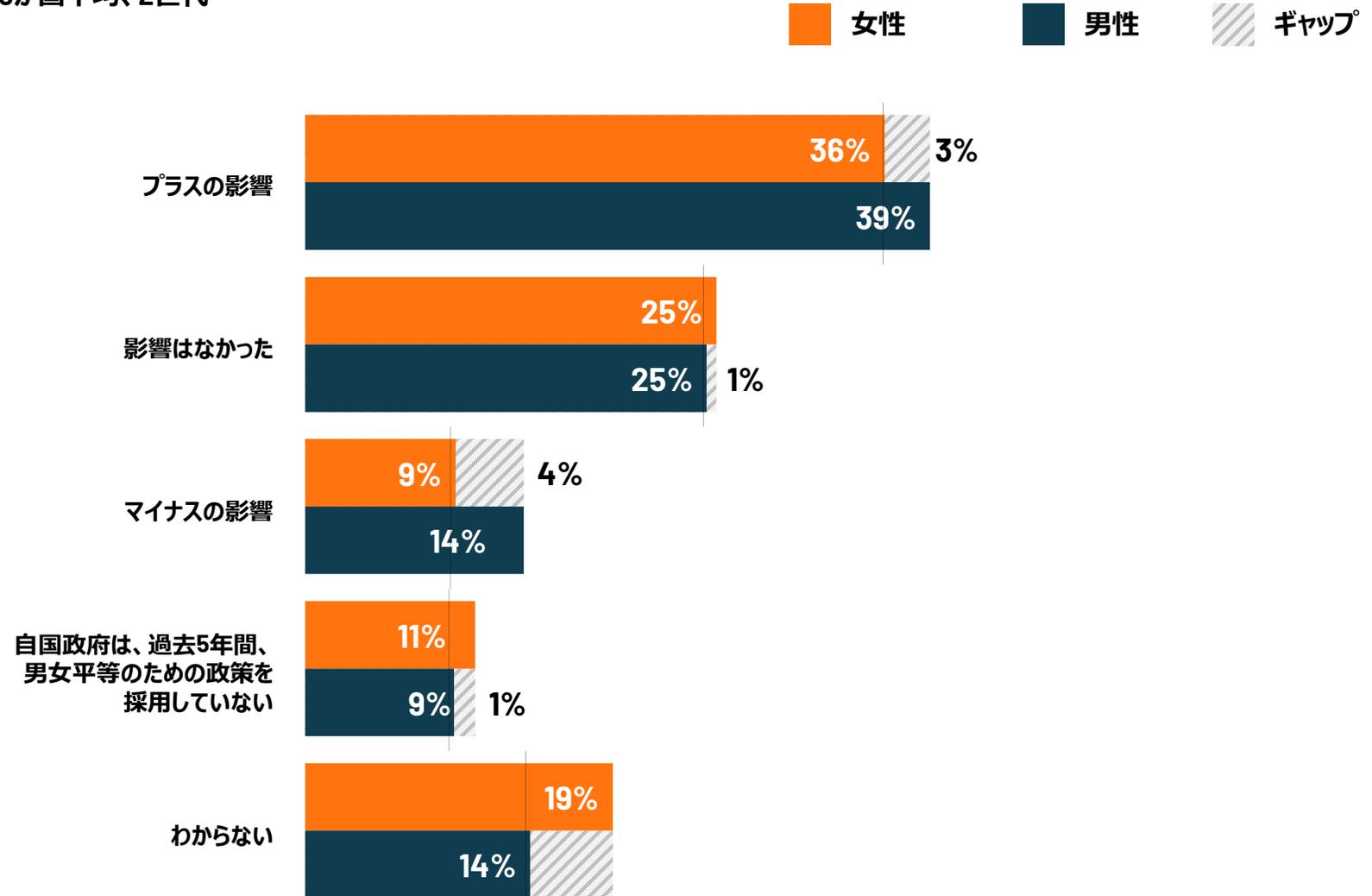
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

過去5年間にわたり、男女平等のために自国政府が採用した政策は、社会にどのような影響を与えたと思いますか？

Z世代の3人に1人以上が、過去5年間に自国の企業が男女平等の追求のために採用した方針が社会に良い影響を与えたと考えています。男性は女性(36%)よりもこのように感じる傾向が高く(39%)、これらの政策がマイナスの影響を与えていると考える傾向も高くなっています(Z世代の男性では14%、Z世代の女性では9%)。

30か国平均、Z世代



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

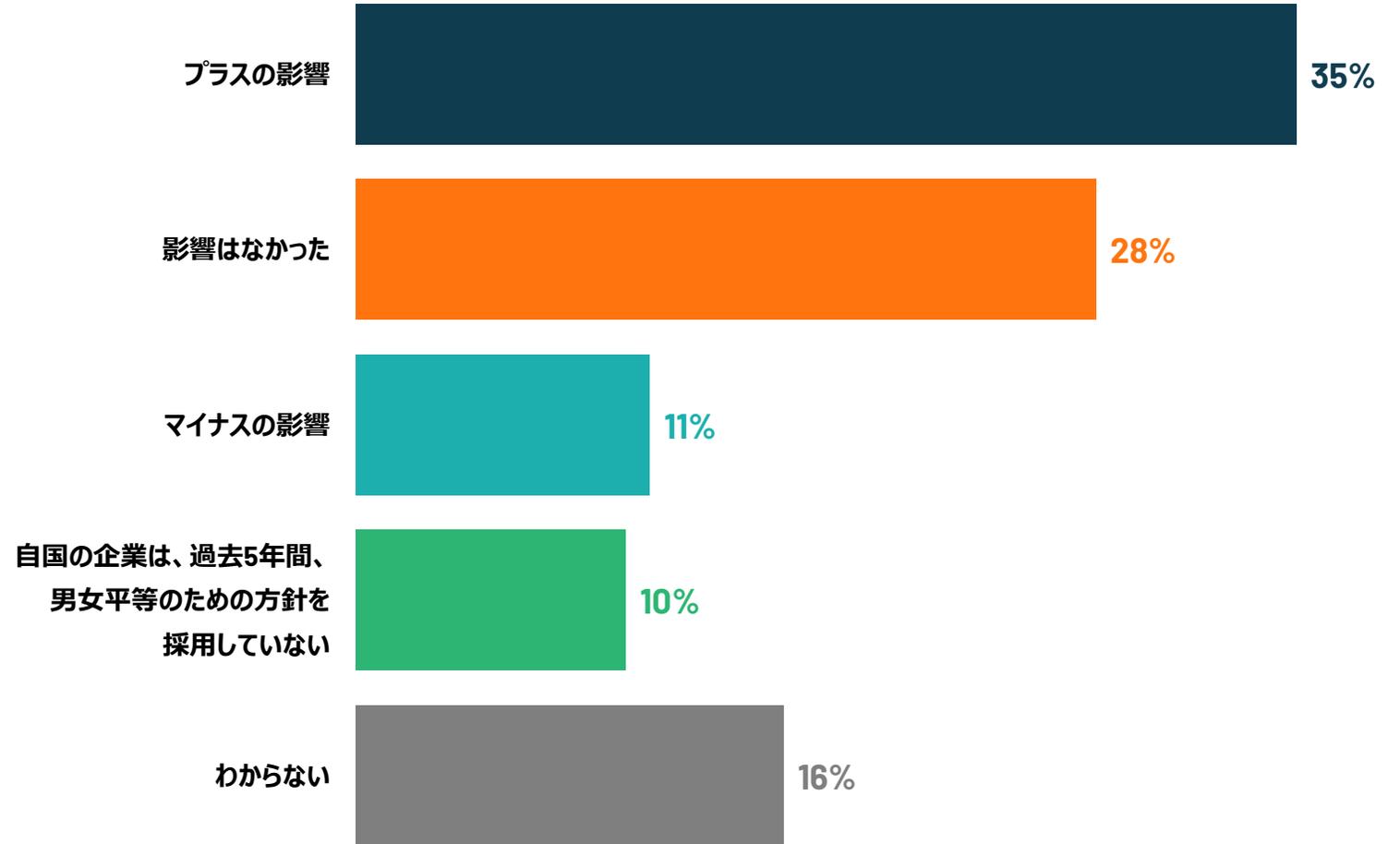
Q

過去5年間にわたり、男女平等のために自国の企業が採用した方針は、社会にどのような影響を与えたと思いますか？

30か国平均では、3人に1人以上(35%)が、過去5年間に企業が男女平等の追求のために採用した方針が社会に良い影響を与えたと考えています。

対照的に、約10人中3人(28%)はこれらの政策は何の効果ももたらさなかったと考えており、10人中1人(11%)はマイナスの影響があったと考えています。

30か国平均



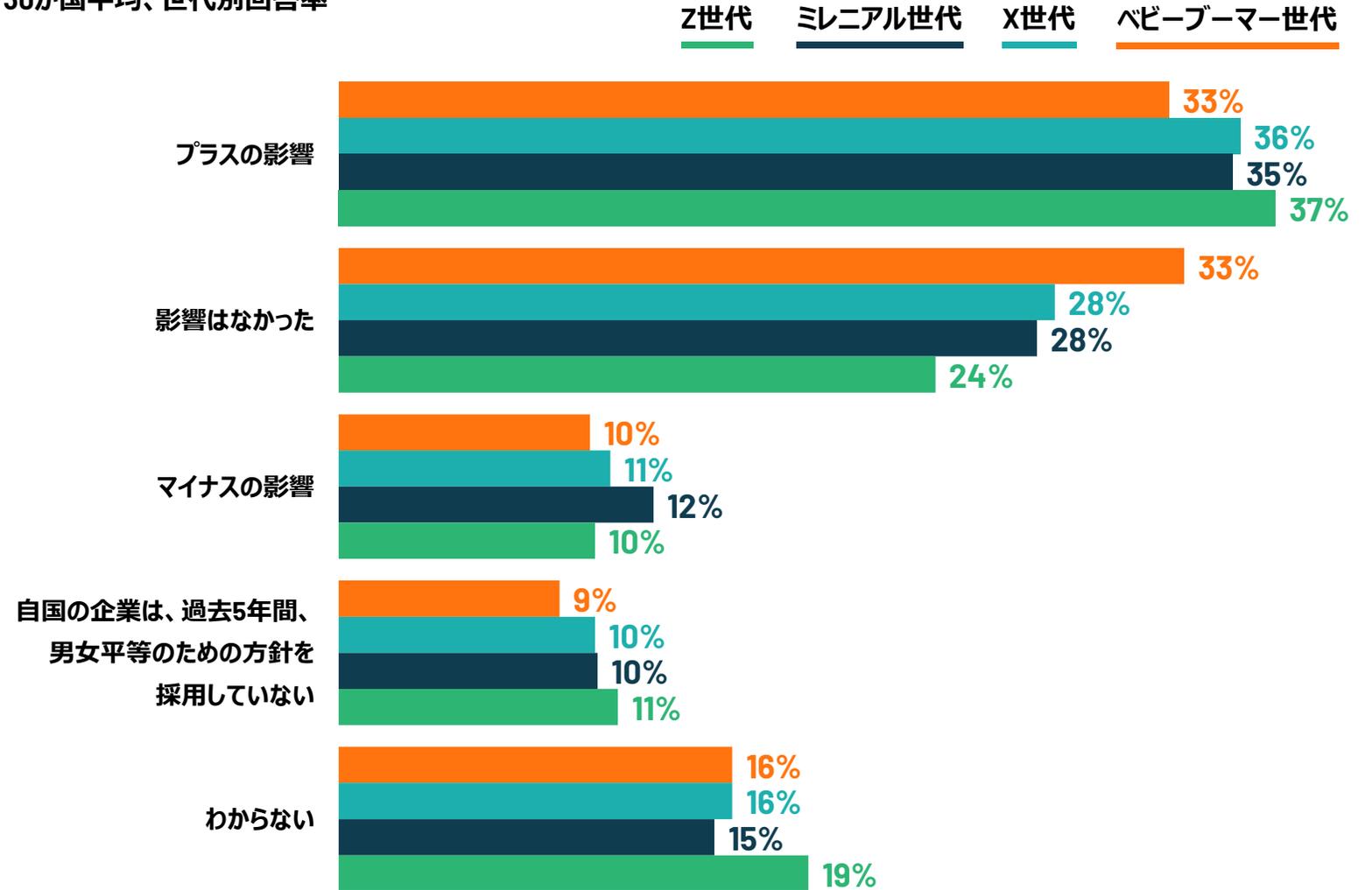
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

過去5年間にわたり、男女平等のために自国の企業が採用した方針は、社会にどのような影響を与えたと思いますか？

X世代、ミレニアル世代、Z世代では、過去5年間に自国の企業が男女平等の追求のために採用した方針が社会に良い影響を与えたと思う人が多い結果となっています。対照的に、ベビーブーマー世代は、これらの政策が良い影響をもたらしたと思う人と、何の影響もなかったと思う人で意見が分かれています。

30か国平均、世代別回答率



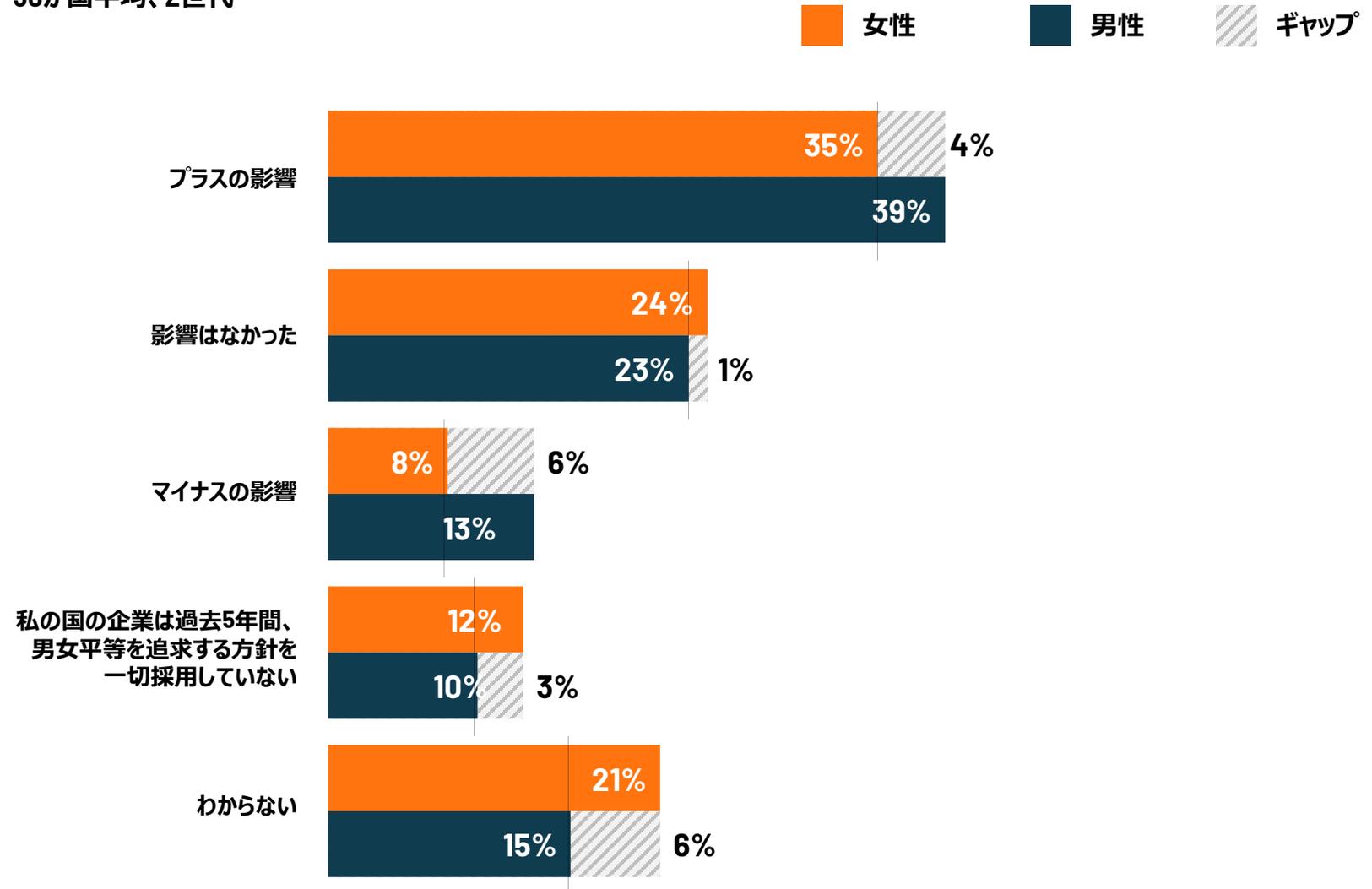
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

過去5年間にわたり、男女平等のために自国の企業が採用した方針は、社会にどのような影響を与えたと思いますか？

Z世代の3人に1人以上が、過去5年間に自国の企業が男女平等の追求のために採用した方針が社会に良い影響を与えたと考えています。男性は女性(35%)よりもこのように感じる傾向が高く(39%)、これらの方針がマイナスの影響を与えていると考える傾向も高くなっています(Z世代の男性では13%、Z世代の女性では8%)。

30か国平均、Z世代



対象者: 18~28歳のZ世代のオンライン4,861人(男性2,243人、女性2,618人を含む)、2024年12月20日~2025年1月3日

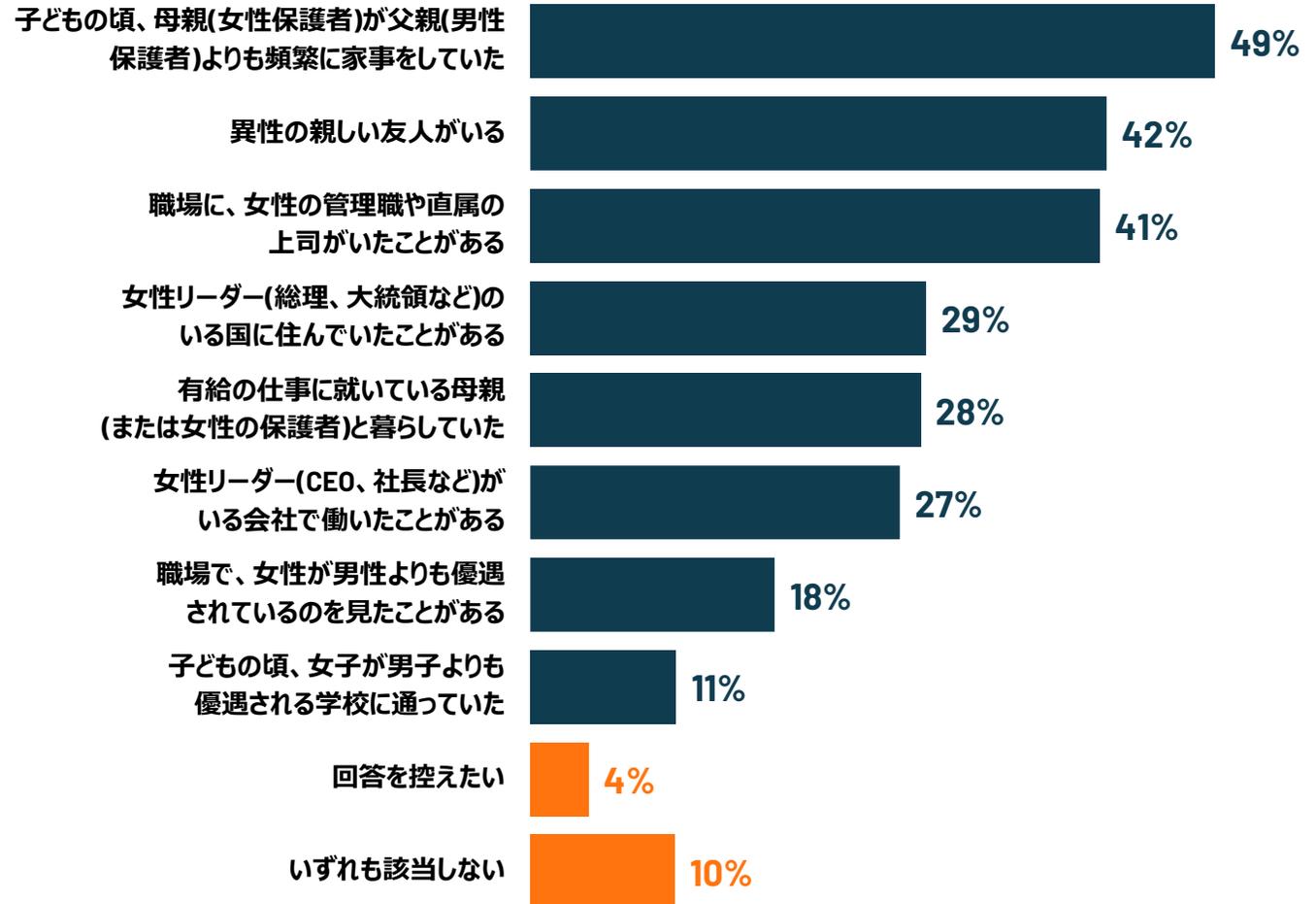
Q

次のうち、あなた個人が経験したものはありますか？

30か国平均では、半数の人が、父親/男性保護者よりも家事よりも仕事に力を入れている母親/女性保護者がいたと答えています(49%)。さらに、10人中4人が、自分とは異なる性別の親しい友人がいる(42%)と、職場に女性の管理職/直属上司がいたことがある(41%)と答えています。

職場で女性が男性よりも優遇されているのを見たことがある人は約5人に1人(18%)で、女子が男子よりも優遇されている学校に通ったことがある人はわずか10人に1人(11%)でした。

30か国平均



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

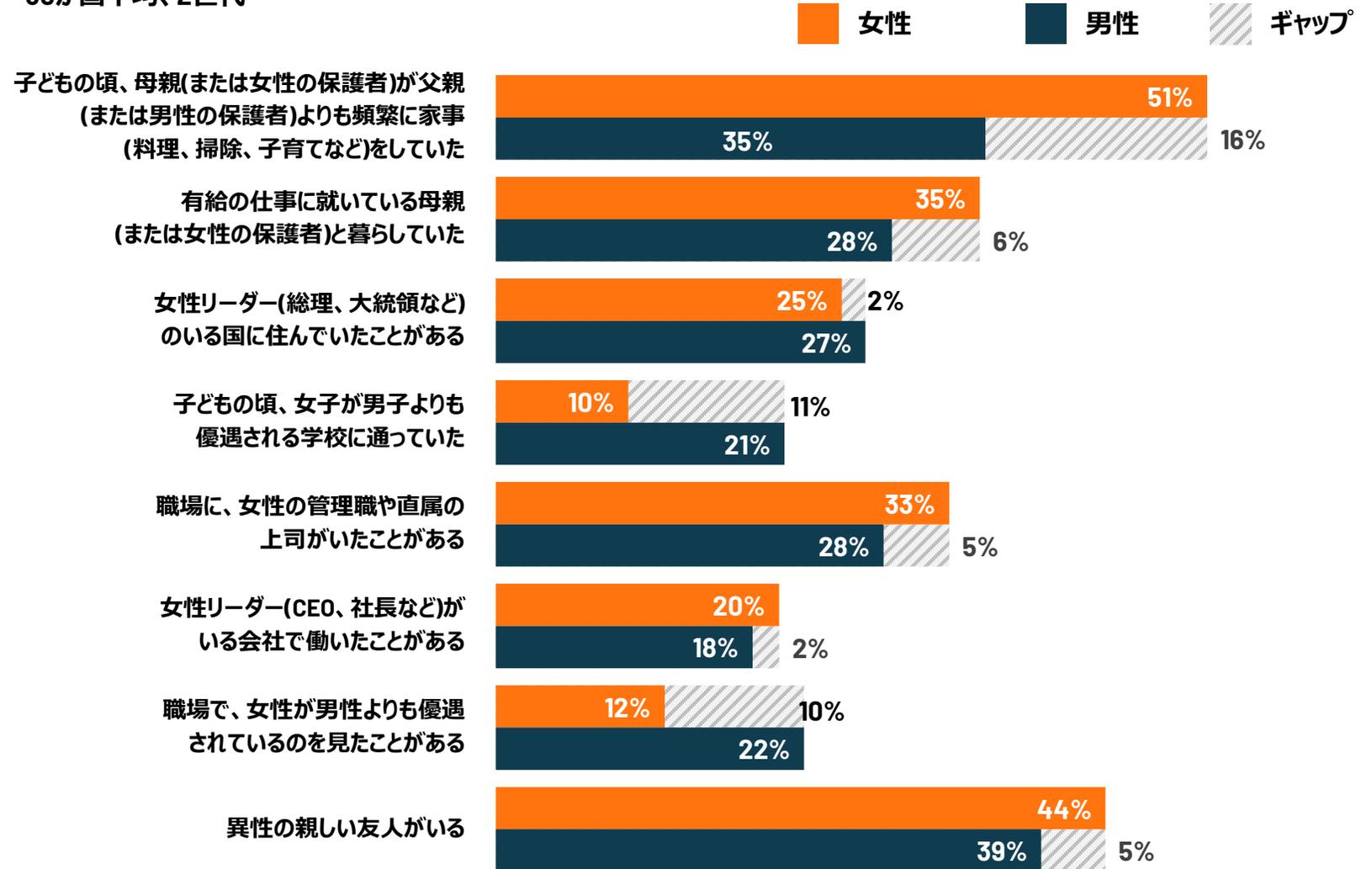
Q

次のうち、あなた個人が経験したものはありますか？

調査対象となった30か国のうち、Z世代の女性は、Z世代の男性よりも、母親/女性の保護者が父親/男性の保護者よりも家事の手伝いを多く行っていたと答える傾向がはるかに高い結果となっています。

女子が男子よりも有利な扱いを受ける学校に通ったことがある(21%対10%)と、職場で女性が男性よりも有利な扱いを受けるのを見たことがある(22%対12%)と答える割合は、男性が女性の2倍です。

30か国平均、Z世代



対象者: 18~28歳のZ世代のオンライン4,861人(男性2,243人、女性2,618人を含む)、2024年12月20日~2025年1月3日

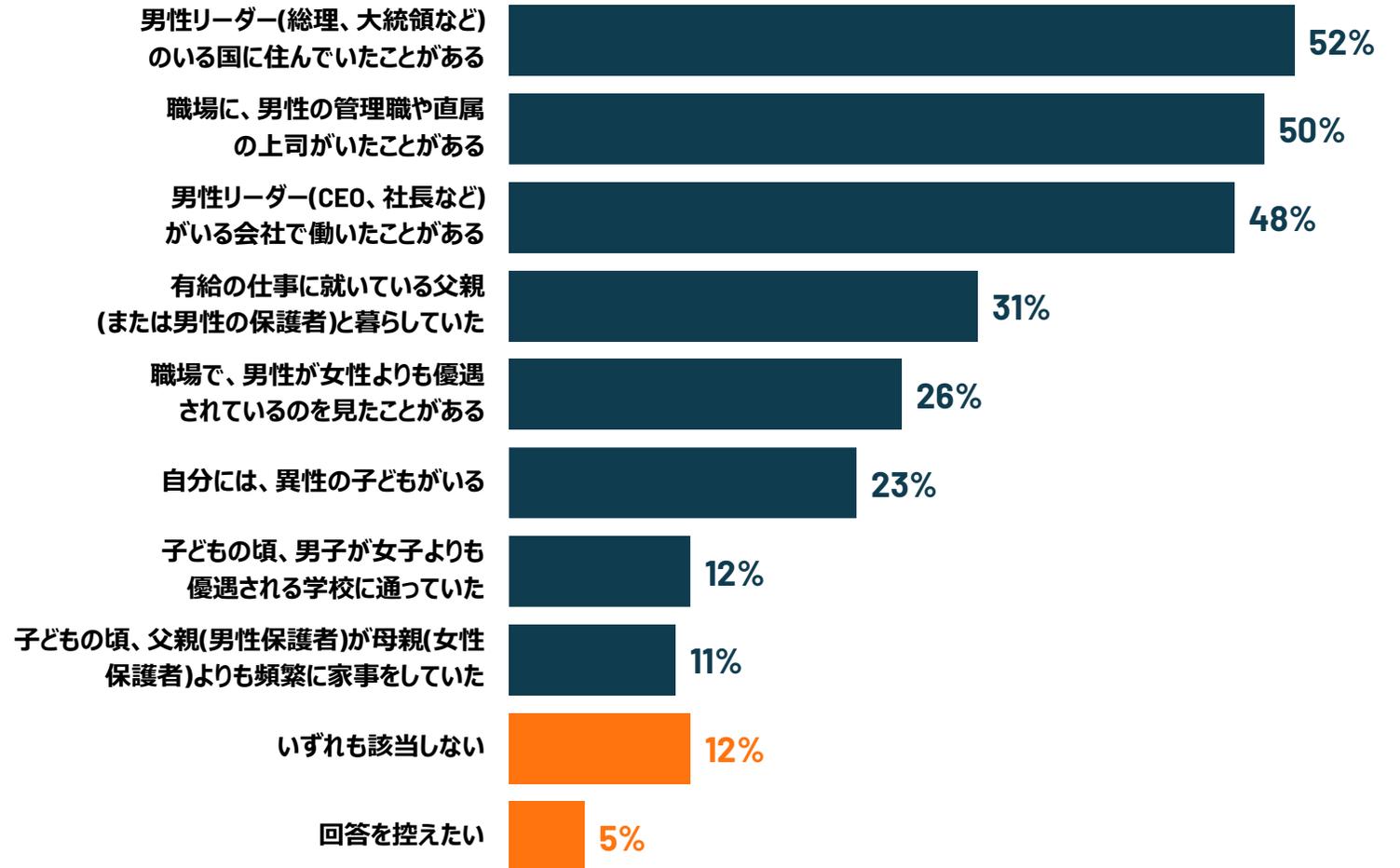
Q

次のうち、あなた個人が経験したものはありますか？

30か国平均では、約半数の人が、男性リーダーのいる国に住んでいた(52%)、職場で男性の管理職/直属上司がいた(50%)、男性リーダーのいる会社で働いた(48%)と答えています。

男子が女子よりも優遇される学校に通った(12%)、または父親/男性の保護者が母親/女性の保護者よりも家事を多くこなした(11%)と答えたのは、わずか10人に1人でした。

30か国平均



対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

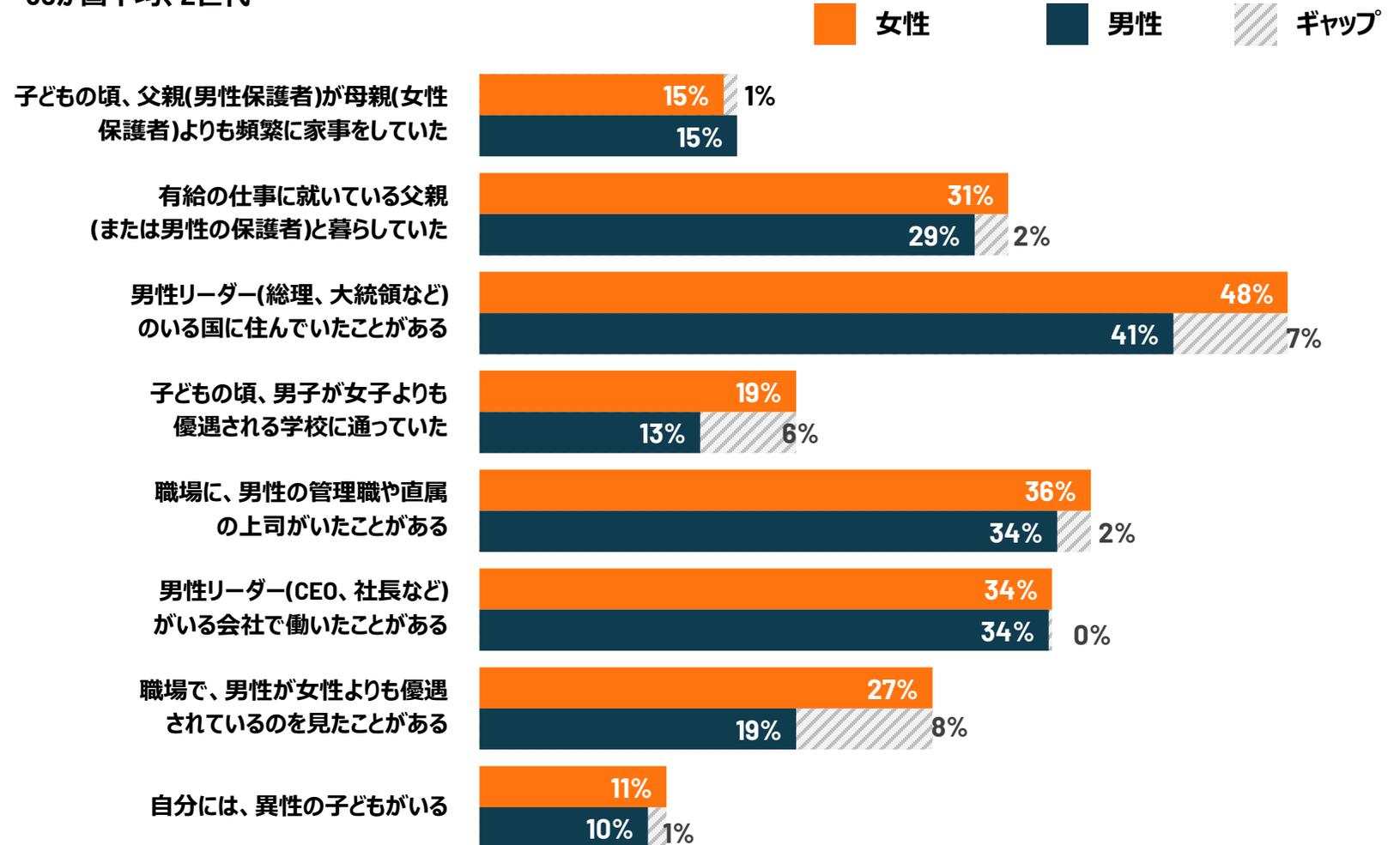
Q

次のうち、あなた個人が経験したものはありますか？

Z世代では、子どもの頃に男子が女子よりも優遇される学校に通っていたと答える割合は、男性よりも女性の方が高い結果となっています(19%対13%)。

同様に、Z世代の女性は、職場で男性が女性よりも有利な扱いを受けているのを見たことがあると言う傾向が高いです(27%対19%)。

30か国平均、Z世代



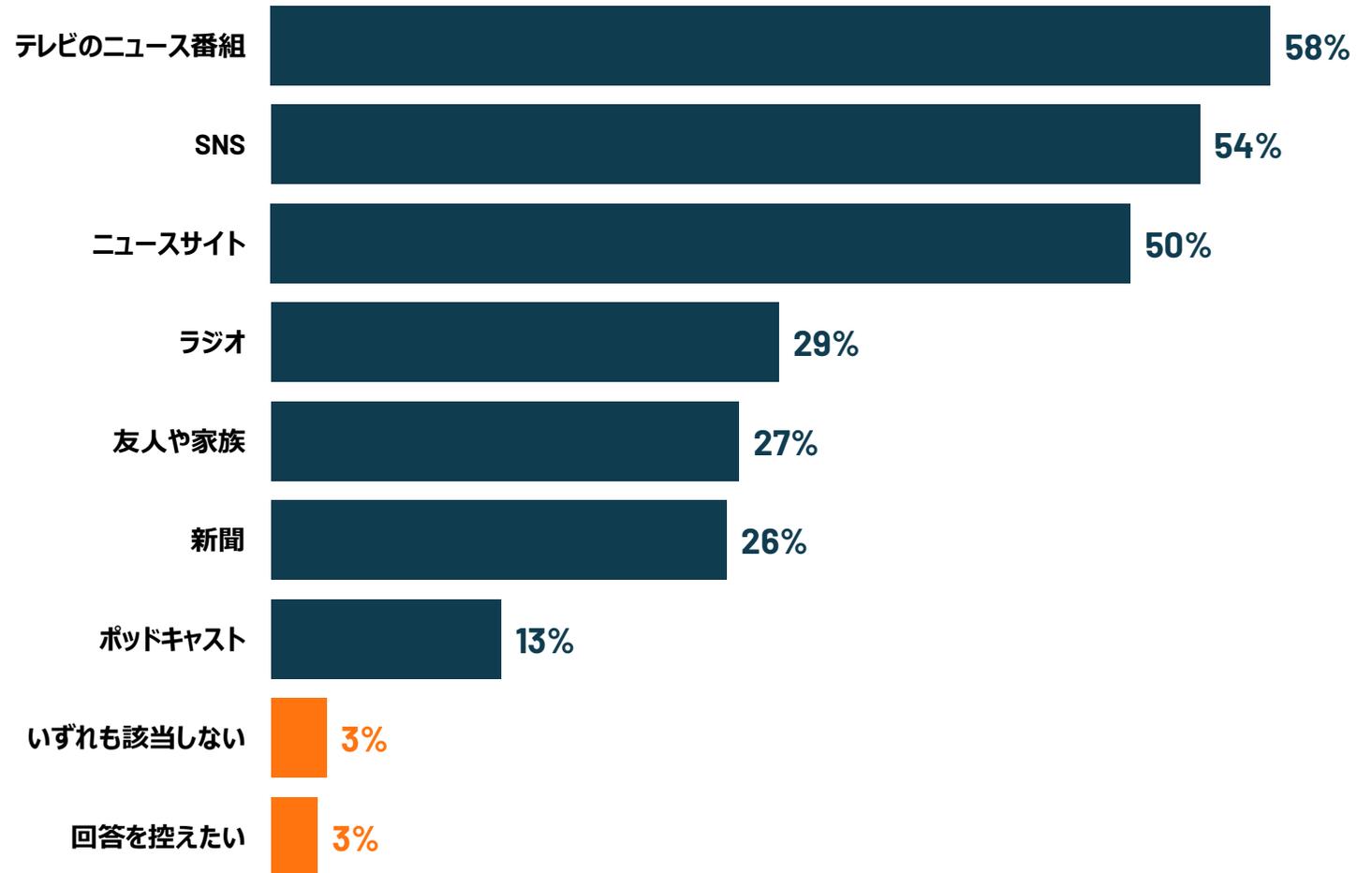
対象者: 18~28歳のZ世代のオンライン4,861人(男性2,243人、女性2,618人を含む)、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

ニュースを確認する際、次のうち、主に何を参考にしますか？

30か国平均では、約5人に3人がテレビニュースがニュースの主な入手先であると答えており(58%)、同様の割合の人がSNSを挙げています(54%)。さらに半数は、ニュースサイトを主要な情報源として挙げています(50%)。

30か国平均



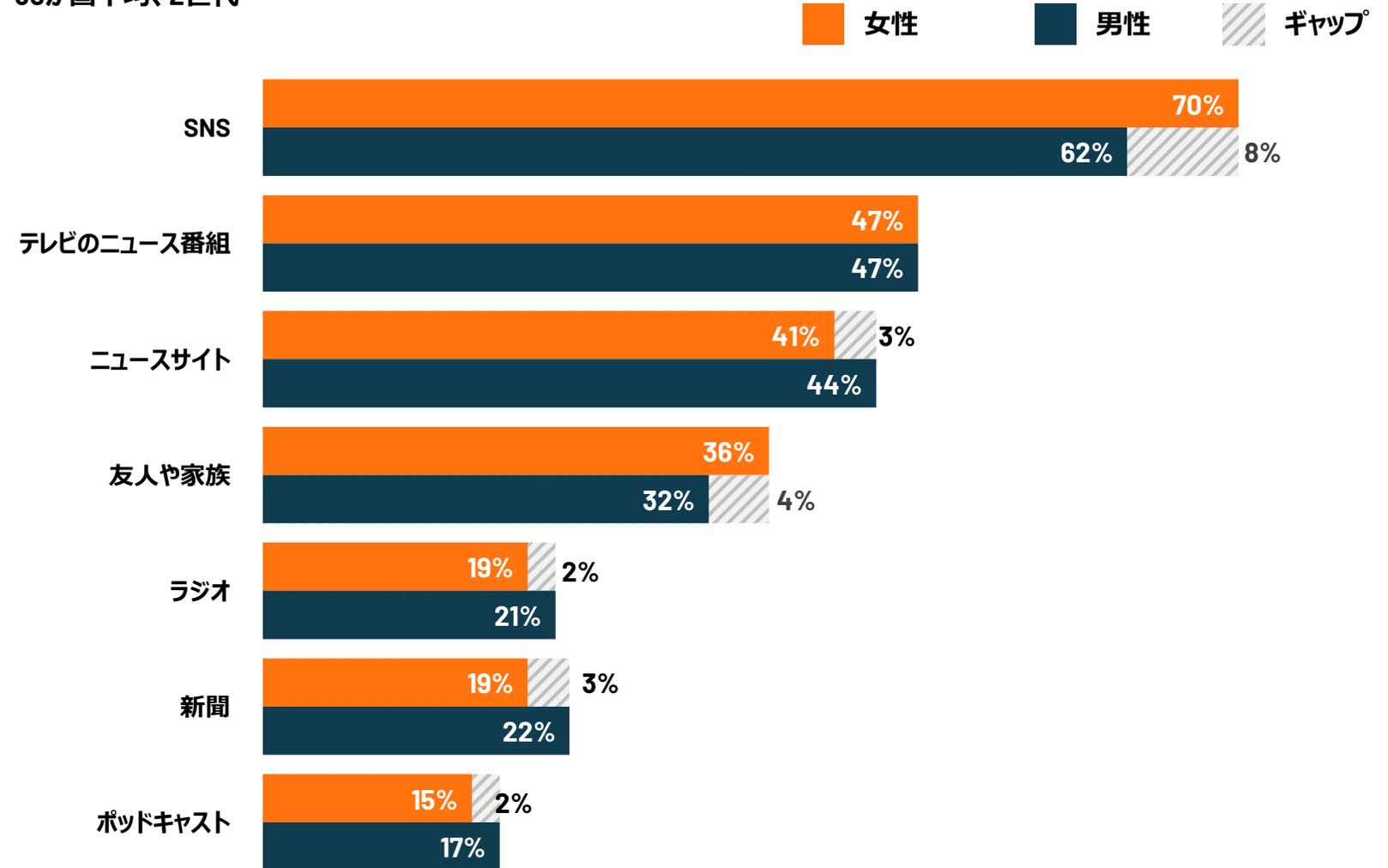
対象者: カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、タイの20~74歳、インドネシアとシンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳のオンライン23,765人、2024年12月20日~2025年1月3日

Q

ニュースを確認する際、次のうち、主に何を参考にしますか？

Z世代では、SNSが主要なニュースソースであり、女性(70%)の方が男性(62%)よりもSNSを主要なニュースソースとして選択する割合が高くなっています。

30か国平均、Z世代



対象者: 18~28歳のZ世代のオンライン4,861人(男性2,243人、女性2,618人を含む)、2024年12月20日~2025年1月3日

調査手法

これは、イプソスが2024年12月20日金曜日から2025年1月3日金曜日まで、オンラインプラットフォームグローバルアドバイザーとインドではIndiaBusプラットフォームで30か国を対象に実施した調査の結果です。この調査でイプソスは、インドでは18歳以上、カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、ニュージーランド、南アフリカ、トルコ、米国では18～74歳、タイでは20～74歳、インドネシアとシンガポールでは21～74歳、その他すべての国では16～74歳の合計23,765人を対象に調査を実施しました。

サンプルは、日本からおよそ2,000人、オーストラリア、ブラジル、カナダ、フランス、ドイツ、英国、イタリア、メキシコ、ニュージーランド、スペイン、米国からそれぞれ1,000人、アルゼンチン、ベルギー、チリ、コロンビア、ハンガリー、インドネシア、アイルランド、マレーシア、オランダ、ペルー、ポーランド、シンガポール、南アフリカ、韓国、スウェーデン、タイ、トルコからそれぞれ500人で構成されています。インドのサンプルは約2,200人で構成され、そのうち約1,800人が対面でインタビューを受け、400人がオンラインでインタビューを受けました。

アルゼンチン、オーストラリア、ベルギー、カナダ、フランス、ドイツ、英国、ハンガリー、イタリア、日本、オランダ、ニュージーランド、ポーランド、韓国、スペイン、スウェーデン、米国のサンプルは、75歳未満の一般成人人口の代表と見なすことができます。ブラジル、チリ、コロンビア、インドネシア、アイルランド、マレーシア、メキシコ、ペルー、シンガポール、南アフリカ、タイ、トルコのサンプルは、一般人口よりも都市部に住み、教育水準が高く、裕福です。これらの国の調査結果は、国民の中でもより「コネクテッド」な層の意見を反映していると考えられます。

インドのサンプルは、都市部の人口の大部分、つまり大都市圏の社会経済階級 A、B、C と全 4 ゾーンの Tier 1-3 の都市の階級を表しています。

データは、各国のサンプルの構成が最新の国勢調査データに基づく成人人口の人口統計プロファイルを最もよく反映するように重み付けされています。「世界各国平均」は、調査が実施されたすべての国と市場の平均結果を反映しています。各国または市場の人口規模に合わせて調整されておらず、全体的な結果を提案することを意図したものではありません。

パーセンテージの合計が100にならない場合、または「差」が実際の結果より +/- 1パーセントポイント多い/少ないように見える場合は、四捨五入、複数の回答、または「わからない」または回答を明記していない回答の除外が原因である可能性があります。

イプソスオンライン世論調査の精度は、信頼区間を使用して計算され、N=1,000の世論調査では +/- 3.5パーセントポイントの精度、N=500の世論調査では +/- 5.0パーセントポイントの精度となります。イプソスの信頼区間の使用に関する詳細については、イプソスのWebサイトをご覧ください。

これらの調査結果の公表は現地の規則および規制に従っています。

調査手法やサンプルに関する情報やサポートについては、以下にお問い合わせください。

Emilios Louca, Senior Research Manager
Ipsos Public Affairs
emilios.louca@ipsos.com

Nik Samoylov, Director
Ipsos Public Affairs
nik.samoylov@ipsos.com

イプソスの全製品およびサービスに関する情報については、www.ipsos.com をご覧ください。

詳細情報はこちらまでお問い合わせください。

Gideon Skinner

Director
Ipsos Public Affairs

Gideon.Skinner@ipsos.com

Jordana Moser

Associate Research Director
Ipsos Public Affairs

Jordana.Moser@ipsos.com

Olivia Ryan

Associate Director
Ipsos Public Affairs

Olivia.Ryan@ipsos.com